

横浜市立図書館創立 90 周年記念

パネルディスカッション

あの頃の、
ヨコハマは・・・

記録集



横浜市立図書館

刊行にあたって

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では多くの方々が被災されました。この大震災によりお亡くなりになられた多くの方々とその御家族に深く哀悼の意を表しますとともに、被災を受けて厳しい生活を続けている皆様方に対し、心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災発生から3か月後の平成23（2011）年6月、横浜市立図書館は創立90周年を迎えました。当館の歴史も、震災を抜きにして語ることができません。

横浜市立図書館の歴史は、大正10（1921）年6月、開港60周年、自治制施行30周年の記念事業として、現在の横浜公園内の仮閲覧所での図書の閲覧を開始したことからはじめます。しかしそのわずか2年後、関東大震災により建物と蔵書の全てを焼失してしまいました。

震災からの業務再開にあたっては、市民の皆さまの本の寄贈をはじめ、多くのお力添えを頂戴しました。その後野毛に移転しましたが、ここでも戦災を経験し、横浜の街とともに再度の復興を経て現在に至りました。

このように横浜の復興・発展の歴史の中にあった横浜市立図書館の道のりを振り返りますと、市民の皆さまの支えと、地域の文化とともにあった図書館の姿が明瞭に浮かび上がってまいります。

こうした経緯を踏まえ、創立90周年の記念事業として、市民の皆さまとともに図書館の歩んだ90年を振り返ることを目的とし、「パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは…」を開催いたしました。事前に市民の皆様から募集したエピソードと写真を契機として、壇上のパネラーと客席の参加者の方々から、興味深い思い出話が次々と披露されました。市民の目から見た横浜の過去の歴史に、思いをはせた参加者の皆さまから、おかげさまで非常に好評を博すことができました。

この記録集は、6月と10月に行ったパネルディスカッション全2回の内容と、募集したエピソードと写真を収録したものです。記録集に記載されているエピソードの中には、配慮が必要と思われる表現が使用されている場合もありますが、回想当時の世相や風潮を残すこと、パネルディスカッションでのご発言及びエピソードの原文を尊重することの意義を踏まえて掲載しております。なお編集に際しては、図書館の責任において最低限必要な修正、補記を施させていただいたことをお断りいたします。

最後になりますが、エピソードや写真をご提供頂いた方々、パネルディスカッションに御参加頂いた方々にお礼を申し上げ、この記録集が、今後一層の横浜の発展と、ふるさと横浜への愛着を深める一助となることを願って、発刊の言葉といたします。

平成23年12月

横浜市中央図書館長

神谷洋二

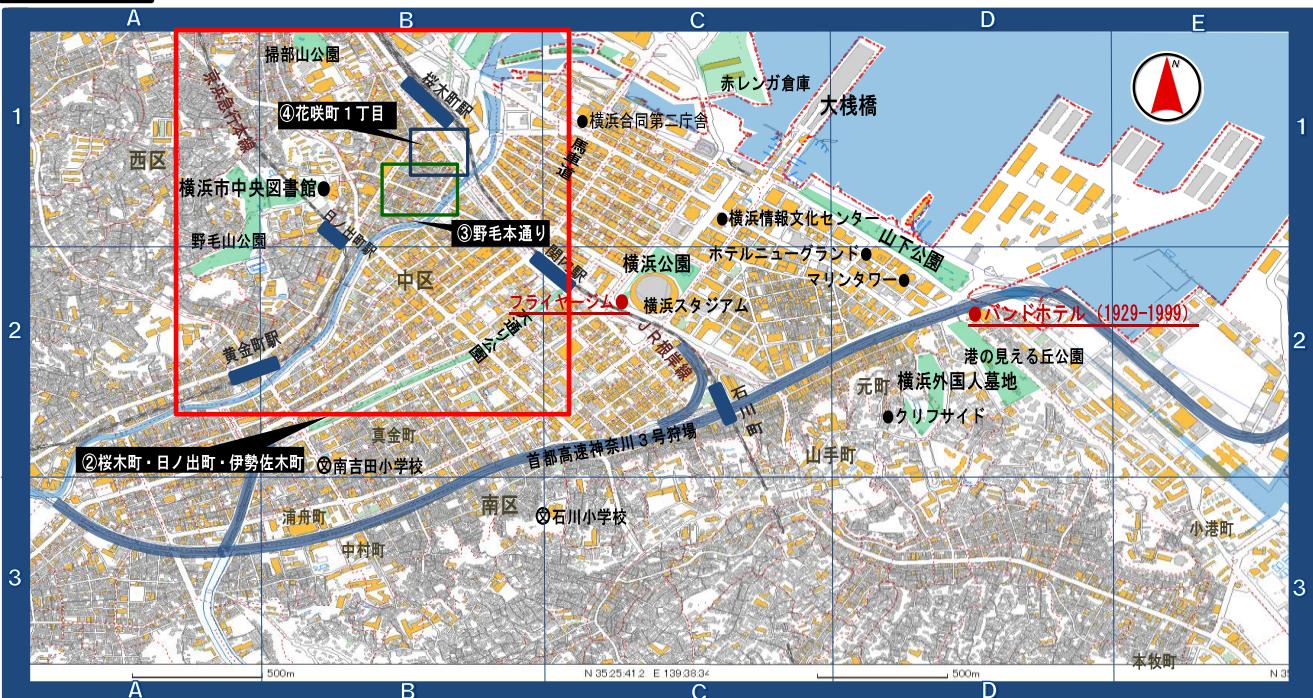
1 目次

	掲載頁
1 目次	1
2 地図	2
・地図①	2
・地図②桜木町・日ノ出町・伊勢佐木町	2
・地図③野毛本通り	3
・地図④花咲町1丁目(昭和10年頃)	3
3 年表	4
4 パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは…（6月11日開催分）	7
関東大震災からの復興	11
野毛山公園と復興記念大博覧会	17
伊勢佐木町の賑わい	19
真金町遊郭、港崎遊郭	21
戦前の野毛	24
横浜大空襲	28
横浜の接收	31
5 パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは… 戦後編（10月1日開催分）	35
進駐軍による接收	38
野毛山動物園、日本貿易博覧会	40
露天商の登場	45
横浜市の六大事業	49
市電の思い出	51
横浜スタジアム	61
地名の話あれこれ	64
6 資料集	69
(1) エピソード一覧（テーマ別）	71
(2) みなさまから寄せられたエピソード（提供者別）	81
(3) 写真一覧（受理番号順）	97
(4) 写真一覧（テーマ別）	100
(5) みなさまから寄せられた写真（受理番号順）	102
7 参考文献等	123
(1) 図書	123
(2) ホームページ	125
(3) その他	125
【巻末図版】「パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは…」ポスター	126

※本書を「横浜市立図書館ホームページ」にてフルカラーで公開しています。こちらもご覧ください。

2 地図（パネルディスカッションに登場した場所）

地図①



地図② 桜木町・ 日ノ出町・伊勢佐木町



【表示例】
横浜市中央図書館……現存、ある
いは営業している建物や店舗です。

震災記念館……平成 23 年 10 月時
点で現存、あるいは営業していない
建物や店舗には下線を引きました。

地図①②は国土地理院の 2500 分の 1 地形図（横浜市西区・中区・南区）を使用して作成。

地図③④は国土地理院の2500分の1地形図（横浜市中区）を使用して作成。

地図③ 野毛本通り



地図④ 花咲町1丁目
(昭和10年ごろ)

『中区わが街』（横浜市中区役所、昭和61年発行）
を参考に作成。

- ・金子たばこ店
- ・大工伊藤
- ・川喜多洋服店
- ・看護婦学校
- ・中島食堂
- ・田中青果店
- ・石川屋米店

- ・能勢雑穀問屋
- ・林ガラス問屋
- ・小林薬湯問屋
- ・岡部洋服店
- ・角田屋荒物問屋

- ・伊豆屋足袋問屋
- ・稻の湯
- ・大野模型店
- ・吉原豆腐店
- ・和菓子吾妻軒

- ・ストーブ陳列・川俣
- ・村井ミルク
- ・三森歯科
- ・三浦食堂
- ・上野米店

- ・堀部金剛煙突
- ・山田貸衣装店
- ・婦久娘酒造

- ・梅山運送
- ・広井理髪店
- ・杉浦洋服店
- ・渡辺菓子店

- ・伊勢屋めし店
- ・内田たばこ店
- ・杉山砂糖問屋
- ・相原酒類問屋
- ・米山米問屋
- ・市原鶏卵問屋
- ・宮崎酒類問屋
- ・そばや北海屋
- ・西川屋米穀問屋
- ・大平薪炭問屋
- ・村田薬湯問屋
- ・日谷染物店
- ・倉林理髪店
- ・鈴木電機店
- ・鈴木たばこ店



3 年表 (パネルディスカッションで発言のあったエピソードと、横浜市立図書館の歴史を中心に作成)

年	横浜	横浜市立図書館	年
安政 1 (1854)	横浜村で日米和親条約締結(日本の開国)		安政 1 (1854)
5 (1858)	神奈川で日米修好通商条約締結。		5 (1858)
6 (1859)	神奈川(横浜)・長崎・箱館(函館)開港		6 (1859)
万延 1 (1860)	外国人遊歩区域の見張番所を設置		文久 1 (1861)
慶応 2 (1866)	慶応大火(関内の大半が焼失)		慶応 2 (1866)
3 (1867)	根岸競馬場で競馬開催 馬車道に街路樹を植栽(近代街路樹のはじめ)		3 (1867)
明治 1 (1868)	明治維新。神奈川県の誕生		明治 1 (1868)
4 (1871)	伊勢山皇大神宮竣工		4 (1871)
5 (1872)	横浜(現:桜木町駅)-新橋間鉄道の開業式(日本初の鉄道開通) 横浜本町通・大江橋間にガス灯が点灯		5 (1872)
7 (1874)	吉田新田の埋め立てにより、伊勢佐木町が誕生		7 (1874)
9 (1876)	彼我公園(現:横浜公園)開園 成田山教会所(後の野毛山不動尊延命院)が南区から移転		9 (1876)
13 (1880)	横浜正金銀行が開業する		
20 (1887)	野毛山貯水池から水道配水開始(近代水道のはじめ)		20 (1887)
22 (1889)	横浜市制施行		22 (1889)
27 (1894)	横浜港鉄桟橋(現:大桟橋)完成		27 (1894)
30 (1897)	横浜船渠第2号ドック竣工(第1号ドック竣工は大正2年)		30 (1897)
32 (1899)	条約改正で居留地撤廃		32 (1899)
37 (1904)	横浜正金銀行本店(現:神奈川県立歴史博物館)竣工 横浜電気鉄道(のちの市電)、神奈川-大江橋間開通		37 (1904)
39 (1906)	本牧三溪園開園		39 (1906)
44 (1911)	新港埠頭赤レンガ2号倉庫竣工(1号倉庫竣工は大正2年) オデヲン座開館		44 (1911)
大正 4 (1915)	2代目横浜駅、高島町に開業	横浜市図書館中村町仮閲覧所(大正12年頃) 『横浜市図書館概要』(昭和2年)より	大正 4 (1915)
6 (1917)	開港記念横浜会館(現:横浜市開港記念会館、ジャックの塔)竣工		6 (1917)
8 (1919)		開港60年・自治制30周年記念事業として 図書館の建設を計画。	8 (1919)
10 (1921)		横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で 図書の閲覧開始(横浜市図書館の開業)。	10 (1921)
12 (1923)	関東大震災。横浜の被害家屋9万4000戸、 死者・行方不明者2万3000人以上	関東大震災により建物と蔵書を焼失。 中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、閲覧開始	12 (1923)
13 (1924)		横浜公園内に仮本館が竣工。	13 (1924)
15 (1926)	野毛山公園開園		15 (1926)
昭和 2 (1927)	ホテルニューグランド竣工	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。	昭和 2 (1927)
3 (1928)	横浜市震災記念館が横浜市図書館隣に開館 神奈川県庁(キングの塔)竣工 3代目横浜駅(現:横浜駅)開業		3 (1928)
4 (1929)	商工奨励館開設		4 (1929)
5 (1930)	山下公園開園		5 (1930)
9 (1934)	横浜税關(クイーンの塔)竣工		9 (1934)
10 (1935)	復興記念横浜大博覽会開催		10 (1935)
20 (1945)	横浜大空襲(市街地の44%)に被害。終戦 マッカーサーが横浜に進駐 米軍、横浜市中心部を接收	横浜連隊区司令部の接收により戸部小学校に移転。 図書館の建物は、終戦後米軍に統いて市復興局が使用。 戸部小学校から教育会館に移転。	20 (1945)
21 (1946)	新円切替		21 (1946)
22 (1947)	横浜国際劇場が開場	移転先より野毛に復帰。開架式で閲覧業務を再開。	22 (1947)
23 (1948)	美空ひばりが横浜国際劇場に出演		23 (1948)



横浜市図書館中村町仮閲覧所(大正12年頃)
『横浜市図書館概要』(昭和2年)より



横浜市図書館

年	横浜	横浜市立図書館	年
昭和 24(1949)	野毛、反町で日本貿易博覧会開催 野毛山プール開場		昭和 24(1949)
25(1950)	市役所が貿易博反町会場に移転	館外個人貸出開始。 図書館法公布で閲覧無料となる。	25(1950)
26(1951)	野毛山動物園開園 桜木町事件(死者106人)		26(1951)
27(1952)	対日平和条約が発効。日本の接收解除進む		27(1952)
29(1954)		団体貸出事業開始。 読書週間行事として1日図書館長(女優 岸恵子)実施。	29(1954)
31(1956)	横浜市が政令指定都市になる 横浜駅西口の開発が始まる		31(1956)
33(1958)	開港百年記念祭が行われる		33(1958)
34(1959)	現在の市庁舎が落成	貸出文庫用自動車購入。翌年1月から本格的に配本開始。	34(1959)
35(1960)		日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。	35(1960)
36(1961)	横浜マリンタワー完成(横浜開港100周年記念事業)		36(1961)
38(1963)		新館増改築工事竣工。	38(1963)
39(1964)	根岸線桜木町-磯子間開通 東海道新幹線が開通し新横浜駅ができる		39(1964)
40(1966)	野毛山展望台設置		40(1966)
42(1967)	平潟湾の埋め立てが完成		42(1967)
45(1970)	港北ニュータウン建設事業に着手	移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始。	45(1970)
46(1971)	金沢地先埋め立て事業に着手		46(1971)
47(1972)	横浜市電、トロリーバス全廃 横浜市営地下鉄(上大岡-伊勢佐木長者町間)開通	(はまかぜ号の本棚に集まる人たち (移動図書館はまかぜ号の巡回が始まった昭和45年頃) (中央図書館所蔵 日吉光夫氏提供))	47(1972)
49(1974)	横浜市の人口が250万人を突破	磯子図書館開館。市立図書館2館となる。	49(1974)
52(1977)		山内図書館開館。市立図書館3館となる。	52(1977)
53(1978)	大通り公園、横浜スタジアム完成	戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。 初めて貸出にコンピュータ方式を採用。	53(1978)
55(1980)		鶴見図書館、金沢図書館、港北図書館開館。 市立図書館7館となる。	55(1980)
57(1982)	米軍横浜海浜住宅地区が接收解除	保土ヶ谷図書館開館。市立図書館8館となる。	57(1982)
58(1983)	みなとみらい21事業着手		58(1983)
60(1985)	横浜市営地下鉄、舞岡-新横浜間開通 横浜市の人口が300万人を突破	瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。	60(1985)
61(1986)	第1回野毛大道芸開催	旭図書館開館。市立図書館10館となる。	61(1986)
62(1987)	横浜市営地下鉄、舞岡-戸塚間が開通	港南図書館開館。市立図書館11館となる。 地域図書館の火~木曜日の開館時間を午後7時までに延長(金曜日は以前から7時)。	62(1987)
平成 元(1989)	市政100周年、開港130周年記念式典開催 横浜ベイブリッジ開通	神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。 泉図書館、栄図書館、中図書館開館。 市立図書館15館となる。	平成 元(1989)
2(1990)		横浜市図書館を解体、中央図書館着工。	2(1990)

年	横浜	横浜市立図書館	年
平成 3 (1991)	横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)完成	神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。	平成 3 (1991)
4 (1992)		南図書館開館。市立図書館16館となる。	4 (1992)
5 (1993)	横浜ランドマークタワー竣工 横浜市営地下鉄、新横浜-あざみ野間開通		5 (1993)
6 (1994)		中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼動。  現在の横浜市中央図書館	6 (1994)
7 (1995)		都筑図書館、緑図書館開館。 市立図書館18館となる。1区1館の達成。	7 (1995)
8 (1996)		中央図書館で来館困難な障害者に対する配送貸出サービス開始。	8 (1996)
10 (1998)	横浜みなとみらいホールがオープン	図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。	10 (1998)
11 (1999)	よこはま動物園(ズーラシア)開園 横浜市営地下鉄、戸塚-湘南台間開通	磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。	11 (1999)
12 (2000)	横浜情報文化センター開業	中央図書館の火～金曜日の開館時間を作午後8時30分まで延長。	12 (2000)
13 (2001)	横浜トリエンナーレ2001開催	市立図書館全館で月曜日開館開始。	13 (2001)
14 (2002)	FIFAワールドカップ韓国・日本開催 横浜赤レンガ倉庫、大桟橋国際ターミナルオープン 横浜市の人口が350万人を突破		14 (2002)
16 (2004)	みなとみらい線開通		16 (2004)
17 (2005)	横浜トリエンナーレ2005開催	ホームページに「Yokohama's Memory 『都市横浜の記憶』」を公開。 インターネットでの予約サービス開始。	17 (2005)
20 (2008)	横浜市営地下鉄グリーンライン(中山駅-日吉駅間)開通 横浜トリエンナーレ2008開催		20 (2008)
21 (2009)	横浜開港150周年	全地域図書館にインターネット閲覧サービス拡大。	21 (2009)
22 (2010)	「APEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議」開催	山内図書館で指定管理者による運営を開始、あわせて平日火～金曜日の開館時間を午後8時30分まで延長。 中央図書館司書補助業務委託、及び書誌作成業務委託導入。 「横浜市立図書館司書人材育成計画」策定。	22 (2010)
23 (2011)	2代目野毛山展望台オープン 横浜トリエンナーレ2011開催	「横浜市立図書館アクションプラン」を策定。 「横浜市教育振興基本計画」策定。 「蔵書再構成5か年計画」を策定。 「横浜市立図書館児童サービス5か年計画」策定。 都筑図書館、戸塚図書館等司書補助業務委託導入。 簡易版蔵書検索システム開始。 横浜市立図書館創立90周年記念事業開催。	23 (2011)

4 パネルディスカッション

あの頃の、
ヨコハマは…

(6月 11 日 開催分)



平成23年6月11日（土） 午後2時～午後4時

会場：横浜市中央図書館ホール

パネラーより自己紹介

山崎洋子（やまざき ようこ）

私と横浜の関わりは、中学生の頃です。京都府の宮津市という、日本海のそばに住んでいました。

当時、ハヤカワミステリーの大ファンだった私は、外国に憧れています。当時は船で外国へ行く人が多かったので、外国への窓口としての横浜にも強く憧れています。中学二年の春、修学旅行で東京、横浜に行きましたが、覚えているのは山下公園だけ。横浜に来た、という感動でいっぱいでした。その時、大人になつたら絶対、横浜に住もうと決心したのです。

夢が叶って、いまは横浜の住人です。何度か引っ越しをしましたが、通算すると38年くらい横浜に住んでことになります。江戸川乱歩賞をいただきて作家になりましたが、『花園の迷宮』というその作品は横浜を舞台にしたものでした。

以来、幕末から現代に至るまで、さまざまな時代の横浜を、小説、ノンフィクション、舞台脚本、エッセイなどで書き続けています。

嶋田昌子（しまだ まさこ）

出生 昭和15年 横浜本牧生まれ

略歴 県立平沼高等学校卒業

昭和48年に始めた家庭文庫をきっかけに地域活動に入る。

昭和50年代に入り、中区社会教育指導員を務める。

中区社会教育指導員時代のヨコハマ洋館探偵団を経て平成4年に横浜シティガイド協会を創設。
(現在横浜シティガイド協会副会長)

著述活動に『本牧のあゆみ』(本牧のあゆみ研究会/編、1986年)がある。

また、ケーブルシティ横浜で「ふるさと本牧」を30本制作。

小林光政

(こばやし みつまさ)

出生 横浜市中区花咲町

昭和6年9月18日生まれ

現住所 横浜市西区東ヶ丘

本町小学校

神奈川県立工業高校建築科

中央大学第二商学部

小林紙工株式会社社長

その他公職 横浜の観光を考える会会長

NPO法人黄金町エリア

マネジメントセンター理事長

その他12か所役職あり

大久保文香

(おおくぼ ふみか)

出生 昭和15年生まれ

昭和19年、本牧に住む。

昭和42年、矢口台に引っ越す。

略歴

横浜紅蘭女学校

横浜緑ヶ丘高校

関内の町作りに7年携わり、

その後野毛大道芸に携わる。

司会：黒岩 道子（横浜市中央図書館サービス課）

エピソード朗読：菊池 真理（横浜市中央図書館サービス課）

○司会：それでは、お時間ですので横浜市立図書館創立 90 周年記念パネルディスカッション「あの頃の、ヨコハマは…」を始めさせていただきます。本日はあまりお天気のよくない中、御参加いただき、ありがとうございます。私は横浜市立図書館、中央図書館サービス課の黒岩と申します。本日の御案内役を担当させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。（会場から拍手）

本日のおおよその流れを御説明申し上げます。御承知のように、皆様からたくさんのお話と写真を御提供いただきました。その御紹介の仕方といたしましては図書館の 90 周年記念ということでございますので、90 年前から時代の流れに沿ってエピソードを御紹介申し上げます。また、それにちなんだ話題をパネラーの皆様と会場の皆様からお話しitただくというように進めてまいりたいと思います。

パネルディスカッションといいますと、パネラーの方だけがお話しされるという印象が強いかと思うのですけれども、今日はみんなで昔話をしましょうという「大昔話大会」というような趣向でございますので、皆様もどうぞ積極的に御参加いただければありがたいと存じております。

ここでなぜこのような会をもつことになったかということを、少しお時間をいただきましてお話をさせていただきます。実は 7、8 年前頃でしょうか。本日パネラーとしてお招きしております山崎洋子さんから、大変に難しいお調べものの御依頼がございまして、書庫にもぐりこんでうんうんとうなっておりましたら、当時の古老というような地元の方たちが開港当時の様子をお話しになりまして、それをガリ版で書き残したという本に出会いました。その本のことを山崎さんに「こんな本がありましたよ。」とお話ししたところ、山崎さんの方から、現代でも昔を知っている人の話を聞いて残すことはとっても大切なことですよと。今、残しておかなければなくなってしまいますよ、というようなお話をいただきました。

人の思い出に残った横浜の記憶をどうにか後世に残していくということは、図書館にとっても大きな役割だと思いますので、なるべく早くこういう機会を設けたいと思っていたのですが、なかなかそういうチャンスがございませんでした。

特に先だって 3 月 11 日の大震災を経験して、何もかもなくなってしまった東北の、あの街を見ると横浜の記憶を後世に残していくかなくちゃいけないという、その思いを大変強くもちます。

横浜は御存知のように震災と戦災で大変大きな打撃を受けましたが、頑張って立ち直り、発展してきました。その力の源を知ることにもなるのではないかと思って期待しております。

本日ですが、御自分の見聞きしたことをお話しitただくという会でございますので、会場の皆様にもマイクをお回しいたします。是非御参加いただきたいと思っております。まあ、御自分が見聞きしたことといいましても、お爺様とかお婆様からお聞きになったこと、そういうようなことでもお話しitいただければありがたいと思います。ただ、そういう会でございますので、こういう本にこんなふうに書いてあった、というようなお話は、今日のところはちょっと御勘弁いただければありがたいと思います。

さて、長話をして申しわけございませんでした。本日お招きいたしましたパネラーの皆様を、御紹介申し上げます。まず、舞



当日の様子

台の内側から御紹介申し上げます。山崎洋子さんです。

○山崎：こんにちは。山崎洋子と申します。(会場から拍手)あの、パネラーの自己紹介という一枚がありますけれども、これ、私だけ違う書き方をしてまして、ちゃんと履歴書みたいに書くんだというのを知らなかつたものですから、こう書いちやつたのですけどね。私だけ、生まれた年が出てません。隠したわけじゃないんです。ただ忘れただけで、昭和22年の生まれです。多分、この中では一番若いですね。ここにも、通算すると38年ぐらい横浜に住んでるって書いてるんで、随分いろんなことを知ってるだろうと思われますよね。ですけれども実は今、南区に住んでまして、この横浜の真ん中辺りに住んでからまだ、そんなに長くありません。それからいろんなことに関わったり、横浜にいっぱい友達ができたりして、なじみ出してからまだ20年と経ってないので多分、古い横浜のことは会場のみなさんの方がたくさん知ってらっしゃるんではないかと思います。今日はそれをいろいろと聞かせていただこうと思ってます。よろしくお願ひします。(会場から拍手)

○司会：はい、次に小林光政様です。お願ひいたします。

○小林：みなさん、こんにちは、どうも。私はこの花咲町一丁目、叶家さんという紳士の酒場があるのですが、その前で昭和6年に生まれました。戦時中は本町小学校に通いましたけれども、その後、反町にあります神奈川工業へ行きました、あとは大学へ行ったのですけれども、それからずっと家業を継いでおりまして、一時は、終戦直後にですね、野毛の露店のお手伝いもさせていただいた。そういう経験もございますし、まあ、その後、役割としては野毛地区街づくり会の会長とかですね、振興組合の理事長とか。現在は黄金町地区のですね、特殊飲食店の撲滅運動に参加をして、NPO黄金町エリアマネジメントセンターの理事長というような役割を今現在、やっているわけでございます。

何しろ本を読むのがあまり好きではありませんので、自分の実体験したものをちょっとお話しをさせていただこうと、こう思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。(会場から拍手)

○司会：はい、大久保文香様です。

○大久保：皆様、こんにちは。大久保文香です。私は昭和15年、東京都豊島区雑司が谷に生まれました。で、何故か4歳のときに横浜市中区本牧元町に疎開で引越してまいりました。それからずっと横浜市の中区で育って、現在に至っております。私の思い出は本当に変遷のあつた本牧周辺。そして大人になってからの関内と野毛地区でございます。どうぞ皆様に教えていただくことが、たくさんございますので、よろしくお願ひいたします。

(会場から拍手)

○司会：はい、嶋田昌子様です。

○嶋田：嶋田でございます。(「まあ一ちゃん」と会場から声あり)恐ろしい掛け声をいただきました。歳を最初に申し上げないといけませんが、今日の自己紹介というところで、もうばらしてございます。1940年生まれ、あるいは私と大久保さんの歳は、実は紀元2600年ということございます。お友達に紀子さん紀美子さん、そういう方々のお名前が、お分かりですよね。紀元節の紀、こうしたものを持ったお名前の方が多い年に生まれました。

今は横浜シティガイド協会を立ち上げて副会長をしておりますが、実は先ほど司会の黒岩さんの御紹介のところでちょっと一点、もう既に絡みたいと思っております。山崎洋子さんに開港当時のいわゆる記録、これを、あの、手書きのガリ版刷りの本をお見せになったと。で、今日は私の丁度自己紹介のところに『本牧のあゆみ』*という本が出ておりますが、ここに実はそれを使い、その後「ふるさと本牧」というビデオを30分、ケーブルシティで作りました。

そのときに使った文章があの本にいっぱい入っているんですよ。

開港当時、この横浜に、つまり私の場合はその本牧ですが、本牧に鳥取藩のいわゆるおさむらいたちが二千数百人やってまいりました。当時の本牧の村人二千人強。つまり村人よりももっと多いおさむらいが来て、彼らは黒船に驚くよりもサムライに驚いたというようなことが出ております。そんなことを今日、いみじくも最初に御紹介いただいたので喜んでおります。

実はその『本牧のあゆみ』を作るときにお世話になった方の御子息が今日、お見えなのでおやっと思いながら、大変喜んでおります。どうぞよろしくお願ひいたします。(会場から拍手)

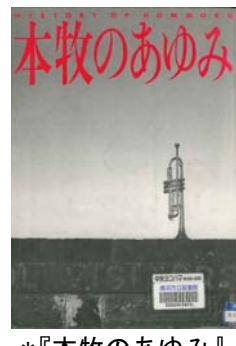
○司会：ありがとうございました。それではいよいよエピソードの御紹介に入ってまいりたいと思います。お手持ちに分厚い資料*をお渡ししてございます。お話の流れといたしましてエピソード一覧というのをご覧いただきますと、おおよそエピソードの内容について、テーマごとに細かく分けさせていただいております。文書でお寄せいただいたものと、私どもがお邪魔してお話をうかがったものとございます。お一人の方でいろいろなことをお話ししていただいておりますが、ちょっと整理の都合上、分割してテーマごとに番号を振らせていただいております。で、そのうしろにお一人ずつのお話の内容を付けさせていただいているので、それをお読みいただけすると楽しいかなと思っております。

また、いかんせん昔話、ご自分の記憶でお話しされたことですので、学術的に正しいかどうかとか、史実上もどうも本と違うことを言ってるよ、みたいなことは散見されますけれども、まあ、それはそれとして今日のところは聞き逃していただくということでおろしくお願ひいたします。いずれこの内容につきましては図書館で書き起こしまして冊子といたしますが、そのときに若干の歴史と、いわゆる史実との整合性というようなことでの注意書きを付けさせていただきますので、今日のところはお気楽に、どうぞ御遠慮なくお話しいただければと思います。

関東大震災からの復興

○司会：はい、それでは先ほど申し上げましたように、90年前といいますと、やはり関東大震災*でございます。ただ、関東大震災を経験した方というのは、今おいくつになられるのでしょうかね、ちょっと計算がよくできませんけれども。ということで御身内の方から関東大震災の様子についてお聞きになっているお話をうかがうということで、とりあえず口火を切るということで小林さん、お話しいただけますか。

○小林：本来ですと経験をされた方にお話をいただくのが一番いいのですけれども、私は昭和6年生まれですので、もう既に大震災後、7年も経って生まれたわけでございまして、実体験もなければ何もないわけでございますけれども、ただ、7年目に生まれてまして、



*『本牧のあゆみ』
(本牧のあゆみ研究会／編、新本牧地区開発促進協議会事業部、1986刊)

*分厚い資料
当日配布資料を指す。「6資料集」(69~122頁)に収録。

*関東大震災
1923(大正 12)年9月1日11時58分、小田原付近を震源とするマグニチュード 7.9 の地震災害。神奈川・東京・千葉・静岡など広範囲で震度5以上の揺れがあった。全体で死者・行方不明者を合わせて14万2千人以上の犠牲者を出した。焼失家屋は21万2千棟以上であった。



絵葉書『大正十二年九月一日横浜市大震災惨状 正金銀行付近の惨状』(1923-1940) (横浜市中央図書館所蔵)

実際にものごころがついたのは昭和10年頃になりますので、その辺まで、この関東大震災というのはいろんなところで、まだその傷痕が残ってたわけですね。まだバラックのおうちも実は野毛地区には2、3軒あったわけで、近所の人は「未だにまだあのうちはバラックだよ。」そんなことを言ってたことを思い出すわけでございますが、この中でお手を挙げられて、もう生まれておられた方がお一人おられたようでございますが、そういう方に本当はお聞きすると一番いいんでしょうけれども、ただひとつ、これは私が父から話を聞いたことなんですけれども、関東大震災でおそらく80パーセント以上、90パーセントといわれている人もいるんですが、その家屋の焼失があったわけでございますが、それに対していち早く行政が動いてるんですね。当時は渡辺市長*だったわけでございますけれども、震災が起きて2週間後にですね、もう中央政府に嘆願をしているんですね。このままいけばおそらく東京を中心ですね、復興をされてしまうだろう。横浜はのけものになるであろうということを察知をいたしまして、もう2週間後にはですね、時の内相に御目通りをしてですね、陳情したと、こういうことでございまして、その大臣というのが後藤新平*さんでございます。

この後藤新平さんは大変いろいろな街づくりに貢献をしてきて、そういう経験があつたわけでございまして、このときにその部下をいち早く横浜に派遣をして、横浜と東京は全くイコールの状態で復興させると、こういうお墨付きをいただいたと、こういうことは父から私は聞いたわけでございます。このことがですね、現在の横浜にも繋がっているわけでございまして、私は一番大事なところをやはり父がきちっと教えてくれたなということで実感をもっております。

その後、地元で、これはまあ、皆さんからお聞きしたことですかけれども、原三溪*さんが復興の会、これは嶋田さん、復興会*というんでしようか。

○嶋田：いわゆる復興にかかる財界人のまとめ役でございますよね。

○小林：そういう民間でそういう団体を作つてですね、復興を、どうしたら復興がいち早くできるだろう。どういうものが必要なのかということですね、おそらく街づくり、鉄道から橋から道路、それから区画整理もですね、おそらくその中で話題が出たんだろうと思います。幸いなことに昭和元年にはですね、その会は解散をしてるんですね。といいますのは大変に復興が早かつたんだろうと、こう思います。

そのとき忘れてならないのがアメリカからのですね、大変な支援があつたと聞いております。アメリカにお金を借りたということですね。勿論無償の援助もあつたようですけれども、大変な恩を受けているわけです。

例えばこちら辺にあります橋ですね。あの大江橋や弁天橋(地図②C-1、2参照)、これらの橋についてはですね、だいたい昭和の3年か4年頃に作られておりますし、現在のこの桜木・平戸線なんという通りもですね、そのときの区画整理で延長されました。それまでの大正時代、震災まではこの平戸線、桜木・平戸線はですね、黄金町、初音町のところで止まってるんですね。あそこまでしかなかったんです。その通りを拡張しますし、それからこの野毛山から日ノ出町までの図書館の下の通りなんですが、これもなかったわけでございまして、戸部の方からきた道はそのまま野毛坂に降りて吉田町の方に行ったということでございまして、そういう区画整理をしてますけど、そういう恩恵を我々は受けているわけでございます。

またその後、第二次大戦というですね、大変な問題が起きるわけでございますけれども、それはまず置いといて、とにかくアメリカから支援をいただいた。それと渡辺

*渡辺市長

渡辺勝三郎。就任期間は、1922(大正11)年11月29日～1925(大正14)年4月10日。

*後藤新平

(1857～1929)
関東大震災の直後に組閣された第2次山本内閣では、内相兼帝都復興院総裁として震災復興計画を立案した。

*原三溪

(1868～1939)
本名は、原富太郎。三溪は号。横浜の生糸貿易が生んだ豪商。才能ある画家たちのパトロンとなり世に送り出した。三溪園(中区本牧)は、国内各地から多くの建物を移築、造成し、1906(明治39)年に一般公開された。

*横浜市復興会

1923(大正12)年、原三溪が会長に就任。党派を超えて県会も市会も協力一致し、横浜の復興に向けて毎日各方面から出される問題を解決し、大正15(昭和元)年に解散した。

市長がですね、急きよ2週間以内にやはり中央政府に嘆願した。こういうことはやはり次の世代にきちっと伝えておかなきやいけないことかなあと、そんな具合に思っております。

それからもうひとつ震災のことに関連してですね、横浜に震災記念館*があったということは皆さん、御存知でございましょうか？御存知の方、ちょっとお手を挙げていただければと思います。ああ、ありがとうございます。あの老松会館という結婚式場を御存知の方は手を挙げていただけますか。ああ、多いですね。あの老松会館の前身は、あの建物そのものがこの震災記念館であったわけでございまして、私は父が、図書館へ行って遊んでこいと、本でも読んで時間をつぶせと言われたんですけれども、本を読むのは好きではございませんでしたので、つい隣の震災記念館に行ってですね、ジオラマ、入りますとすぐジオラマがあったんですね。震災で横浜が燃えている、この中心街が燃えているその模型が実はドーンと構えてありました。その前でおそらく2、30分いつも見てですね、そのときの思いを何となく頭に焼き付けてあるのでございますね。今、こういう本がおそらく図書館にはあると思いますけれども、是非ご覧をいただきて、まあ、見たら面白いかなあと私は思いますし、やはりこの震災というのは忘れた頃にやってくるということでございまして、今回の3月11日の大震災もですね、やはり何か残してですね、皆さんの中にずっと伝えて、時代から時代へ伝えていかなきやいけないんじゃないかなと。

そんなことでちょっと震災記念館のお話もしました。外側には焼けた市電の無残な姿をしたものも飾ってありましたし、まあ、そういうことで私は大変この図書館よりもどちらかというと震災記念館の方に、記憶が鮮明に残っているということでございます。

○司会：ありがとうございます。私、先ほど見落としてしまいました。関東大震災でお手を挙げた方、もう一度お手を挙げていただけますか。どうぞ。マイクが行きます。

○女性：すいません、父が3歳で関東大震災を経験していて、結構しっかり覚えておりますので。（マイクを隣に渡す）

○男性（女性の父親）：私が関東大震災、体験したのは3歳4か月ぐらい。場所は野毛山のお不動様*から大神宮様へ行く、あの曲がり角で高い石垣がある場所があります。私は父親に連れられて行きましてね、その石垣の曲がり角の手前でもって父親が誰かと話してたんですね、立ち話してた。何ですか急に父親に抱き上げられて、自分では何が何だかわかりませんでした。これが最初の揺れだったらしいんですね。それであの、今、こっち一角が事務所になってますけど、当時お不動様の建築工事ですかねえ、材料置場があった。そこへ一時避難させてもらいまして、今、お不動さんの前に「海員悼逝之碑」って高い、石でもって塔のようなものが建ててあります。あれが根元から崖の方へ向か

*震災記念館
(地図②B-2)
(1924~1945)

関東大震災の教訓を後世に伝えるために開設された博物館。当初は中区北仲通（現横浜第二合同庁舎立地場所）に建設されたが、2度目の移転で現在の老松町に、当時の横浜市図書館別館として建設された。

1942(昭和17)年、震災記念館を改装した横浜市市民博物館が開館。

1951(昭和26)年に横浜市立大学経済研究所、1954(昭和29)年には横浜市市史編集室が入居した。

1964(昭和39)年には結婚式場「老松会館」として生まれ変わる。1993(平成5)年、坂の上に新築され場所を変えて開業。その後1994(平成6)年に旧老松会館は解体される。

老松会館はその後休業するが、施設を転用して2007(平成19)年「急な坂スタジオ」が開業。舞台芸術を中心とした芸術活動の拠点として、スタジオ貸出などを行っている。

*お不動様
(地図②B-2)
野毛山不動尊延命院を指す。海員悼逝之碑が、関東大震災で倒壊したとの発言があるが、資料による確認はできず。



絵葉書『(横浜大名所) 震災記念館』
(1923~1940) (横浜市中央図書館所蔵)

-13-

って折れてね。中は空洞ですからね、その空洞の中で避難して生活していた人たちの姿も見た記憶があります。まあ、今となってはねえ、あの大地震を体験したって、ほんと、話し手も少ないんじゃないかなと思いますけどね。でも子ども心にもあの恐ろしい体験というのは身に染みてますからね、その場所へ行けば今でもね、お話しすることができると思います。

○女性：ちょっと補足させてください。

○司会：はい、どうぞ。

○女性：あと父から聞いた話なんですけれども、大神宮*さんのところが延焼しないようにというので、みんなで力をあわせて壊したという話は聞いたことはあるんですが、父の話ですと暴れ馬や暴れ牛に綱を付けて、それに引かせて社殿を壊したそうです。それで延焼を防いだということです。そんな話も聞きました。

○男性：今の話に補足するようですが、とりあえず大神宮さんの境内へ避難したんですね、あの高台へ。結構大勢の人に囲まれたと思います。そのうちにですね、戸部の方に火の手が上がって、その火の粉でもって大神宮さんのね、正面にある拝殿、あれに火が入ったら避難している人がみんな焼け死んでしまうと。その拝殿を壊そうということにならざるを得ないんですね。それで人の力ではあの拝殿、壊せませんので、丁度火に追われて暴れ馬が来たんで、その暴れ馬を捕まえてね、何で縛ったか知らないけどね、柱へ縛り付けてね。暴れ馬の尻を叩いて、暴れ馬の力でもって、あの拝殿を倒して火の気をよけたと。幼い心にそんな記憶があります。

○司会：ありがとうございました。震災の話をとやっぽりどうしても山下公園*とか、あの港の辺りの話をちょっと山崎さんからしていただけますか。

○山崎：はい、私は体験したわけではないんですけども、この自己紹介のところに書いておりますけど、私が初めて見た横浜は、中学2年の修学旅行で来た横浜なんで3月に開園した。関西で生まれ育ちましたから。で、東京、横浜と行ったのに、そのときに行つたその山下公園だけをもうありますと覚えてます。で、絶対私は大人にならば横浜に住むんだと、その時に決めたんですね。ただ、その山下公園がその震災によってできた公園だということを知るのはずっとあとになってからです。

今もテレビで毎日のようにあのがれきの山を見ますけれども、あのがれきが有害物質や何かを含んだ建材があるからいろんなところに捨てられないそうですけども、その当時はあまり有害物質を含んだ建材はなかったんでしょうね。あの山下公園のところは海だったそうですけれど、そこへそういったがれきをうずめて、そしてできた公園が山下公園なんだそうです、多分そのくらいのことは皆さん御存知でしょうけれ



*野毛山不動尊（絵葉書『(大横浜名所) 野毛山不動尊』より）(1923-1940) (横浜市中央図書館所蔵) 右手に「海員悼逝之碑」が見える。

*大神宮

(地図②B-1)
伊勢山皇大神宮を指す。1871(明治4)年に住民の寄進によって社殿などが竣工。発言では「社殿」「拝殿」とあるが、延焼を防ぐために壊したのは「神楽殿」。なお、「社殿」「拝殿」は震災後の火事で焼失した。

*山下公園

(地図①D-1)
横浜市中区にある横浜で最も有名な臨海公園。関東大震災の復興事業として瓦礫の投棄場所に指定された山下町地先を整備し、1930(昭和5)年3月に開園した。



*ホテルニューグランド(地図①D-1)
（絵葉書『山下公園及ホテルニューグランド』より）(1923-1940) (横浜市中央図書館所蔵) 1927(昭和2)年に誕生。かつて近くにあった「グランド・ホテル」にちなんで名付けられた。

ども、これが日本初の臨海公園なんだそうですね。

で、山下公園の前に建ってる、あのホテルニューグランド*というのも震災がきっかけですよね。それまで横浜には開港以来、外国商館だとか領事館だとかたくさんありましたから、外国人がたくさん住んでたし、また、外国からやって来た人たちが泊まるホテルがたくさんありました。今はもうあまり名前が残っていないホテルもいろいろあったんですね。中で一番有名だったのがグランドホテルってのがありますて、今のあの山下公園前のあの通りをかなり元町側へ行った方ですよね。そっちの方にグランドホテルという素晴らしいホテルがありますて、泊まるのはほとんど外国人でしたけど、それも関東大震災で崩れてしまいました。

で、横浜にはその外国人用ホテルってのがなくなつたんですけど、このままではもうさつきのお話じやないんですけど全部、商館から何から全部東京に取られてしまう。横浜はだめになつてしまふ。とにかく外国人用ホテルを復興のシンボルとして建てようじゃないかというので、官民一体となって建てられたのが今のホテルニューグランドです。ですからその前のグランドホテルっていうのはイギリス人が経営者だったそうですけれども、それとは全然関係ないんですね、ホテルニューグランドっていうのは。横浜市とそれから民間が一緒になって建てたホテルで、今もお家賃といいますかね、横浜市に払つてるんだそうですよ。あそこが復興のシンボルでした、山下公園とホテルニューグランドというのが。

○司会：それから、復興小学校*についてのエピソードを、寄せられた方がいらっしゃいます。（「石川小学校*スロープ階段写真」*映写）今、スクリーンにお見せするのは復興小学校の中のひとつ、31校あったんですけど、そのうちの石川小学校のスロープ階段でございます。復興小学校は、やはり木造だった学校が全部つぶれましたので、鉄筋で全部作りなおしまして、その中に避難用のスロープなんですかね、嶋田さん。あの、駆けずり回ったという噂話は聞いておりますけれども。

○嶋田：何か遂に古老の中に入れられてしまったような気がしますけれども、私はあの石川小学校ではなくて間門小学校*のスロープを覚えてます。この中にもたくさんね、覚えてる方、いらっしゃいますよね。あれ、上からね、駆け降りるんですよ。それから、滑り降りるのはなかなか難しい、非常に緩やかなので。で、駆けるときに両手をぱあーっと横にひらげてね、ぱあーつーって駆けてって、スロープのカーブをぶつからないように回って、また下の方に駆けてくってのは子どもたちに流行った（はやつた）遊びでした。

あの、それでよくご覧いただくとあそこが木の寄木（よせぎ）になっていたと思うのですが、覚えていらっしゃる方、おいでではない。ああ、大久保さんも間門。

○大久保：私は間門小学校ではないんですが、兄弟が間門小学校に通つて（かよつて）おりまして、その関係で覚えております。この写真は石川小学校ですか？間門小学校と同じように見受けられますね。あの、非常に大きい緩やかな造りだったと思います。そして何か間門小学校には市内から体の弱い生徒さんが集められて、海岸のいい空気を吸つて、小学校生活を楽しんだというような記憶もございますが、何かとても懐かしい、アール・デコというんですか、ああいう建物はね。そんな雰囲気ですね。

○嶋田：実は間門小学校に入学したときに言わされたのは、臨海学級ってのがあるんだよということでした。つまり、いわゆる今でいうと保健師さんみたいな方がいて、震災で体を弱くした子どもたちを、そこの学級で体を強くして、というようなことを言われて

*復興小学校

関東大震災後に復興事業の一環として建築された一連の小学校の総称。横浜では昭和5年4月までに31校の復興が図られた。災害時の避難のしやすさを考慮してスロープ階段を採用した点は、横浜市独自のものだった。

*石川小学校

（地図①B-3）
1872（明治6）年創立。復興小学校としての竣工は1928（昭和3）年。1984（昭和59）年に解体撤去され建替えられた。

*スロープ写真

『昭和を生き抜いた学舎』（横浜市建築局学校建設課、横浜市教育委員会施設課、1985年刊）掲載写真より。

*間門小学校

（横浜市中区）
1929（昭和4）年創立。新築工事が1979（昭和54）年に着手され、解体された。

いました。で、私の兄たちの時代は授業の前にまず窓を開ける。どのくらい窓を開けるか、それも決められていたと。それから肝油を飲まされたとか。そんなお話をきつと復興小学校のエピソードとしていろいろ、会場の方からうかがえたらなと思います。

○司会：もう復興小学校ぐらいになると経験者の方、何人かいらっしゃると思いますが。はい、どうぞ。

○男性：復興小学校はですね私、二つ経験があるんですけれど、この近くですと今、西中学校になっている西戸部小学校*。それからあとは、西前小学校。あそこが両方復興小学校だったんですね。私がこの辺の生まれで、自分の学校が戦争で焼けまして。で、低学年のときに西前小学校に少し在学したことがあるんですね。非常にこうスマートな建物で、男の子は、スロープの手すりを飛び越えてね、下に降りるんですよ、みんな。それでね、よく怒られたのを覚えてまして、また、中学校は今度は私は西中学校に進学しましたら、あそこはやっぱり復興小学校だったんですね。西中学校の建物はかなり古くまで残ってたと思います。30年代くらいまで旧校舎でしたから。市大の医学部のそばにある学校*も残っていましたし、東京では明石小学校ってのが残ってて、存続問題が起きてるんですけどね。横浜でも、やっぱりひとつくらい残ってると面白いと思います。非常にモダンな学校だったんですね。で、御存知のように、あの震災のあとにできたこういう公共の建物って丈夫なんですよ。例えばこの辺ですね、国大の経済学部がありました高等商業*。それから嶋田さんは、私の弟と同級生らしいんだけど、あの平沼高等学校*もね、ものすごく丈夫にできてまして、壊すのに大変だったってのを聞いてます。だから当時の建物は結構いい建物があったんですね。さっき小林さんがおっしゃいました震災記念館って、そのあと横浜市の経済研究所になってましたよね。そこなんかも非常にいい建物だったんですけど、壊すのが好きな人が多いので、みんな壊しちゃってもったいないと思ってます。そんなところです。

○司会：はい、ありがとうございます。このあたり、何か話したい方、いらっしゃいますか。はい、どうぞ。

○女性：母から聞いた祖父の経験した震災のときの様子なんですけれども、うちの祖父は青森から出てきて、大工をやっておりまして、日ノ出町の、末吉町の方に構えていたわけです。震災に遭ったときに、ちょっと東京かどうか場所は忘れたんですが、知り合いの人の安否が気になって夜、歩いてそこの様子を見に行こうとしたところ、朝鮮の方が水に毒を入れたとかというデマが広められていて、いろいろ要所要所、関所のように日本の方が立っておられて、槍みたいな何かそういうのを持って、何か言わせられたらしいんですね。それで朝鮮の方だとはっきり「し」とか「ず」とかの言葉が明瞭に言えないからっていうので、その答えによって日本人か朝鮮人かっていう、あの、非常に乱暴なことをしたそうなんです。東北の出ですから、ズーズー弁つて、はっきり言えないんですよね、言葉が。それで何度も言つてもそこのところが濁つちゃってうまくいかなくて、お前は朝鮮人だろうってことで、本当に刺されて死ぬ寸前だったという。だけれどもまあ、どうにかわかつてもらえてそこを通って親類の安否を尋ねに行ったということで、そういうときになると本当に怖いんだよって話を、小さいときに聞きましたので、そういうことで朝鮮の方も亡くなられた方も多いと思うんですが、日本人でもそういう嫌疑をかけられて怖い思いをしたということを、ちょっと思い出しましたので。

*西戸部小学校
(横浜市中区)
1905(明治 38)年創立。1947(昭和 22)年新学制により、西前小学校に統合され、校舎は西中学校校舎として転用された。1982(昭和 57)年1月解体工事が着手され、新校舎に建替えられた。

*市大の医学部のそばにある学校
南区浦舟町に残っていた旧三吉小学校のこと。
1947(昭和 22)年に南吉田小学校へ統合され廃校になった後、横浜市大医学部校舎として使われていたが、2010(平成22)年に解体された。

*高等商業学校
商業に関する専門教育を施した旧制の実業専門学校。横浜高等商業学校は学制改革を受け、現在は横浜国立大学となっている。

*平沼高等学校
(西区岡野)
1900(明治 33)年神奈川高等女学校として設置。
1950(昭和 25)年神奈川県立横浜平沼高等学校と改称され、男女共学となった。

野毛山公園と復興記念大博覧会

○司会：ありがとうございます。

震災ってとっても大きいお話で、深刻な話だったんですが、突然話題が飛びまして昭和4年に誕生した野毛山公園*プール*について、エピソードがいくつか寄せられております。ただ寄せられたエピソードには、50メートルプールとか飛び込み台とかありますて、これはどうも戦後の様子ではないかなあと思うんですが、まあ、昭和4年にあの公園プールができましたということをきっかけにして、ここでちょっとエピソードを御紹介申し上げます。

○エピソード朗読：「野毛山にはプールがあって、50メートルもあるプールで、周りがコロッセオみたいになっているんだけど、そこでプロレスの興行とかもやってたなあ。遠藤幸吉*っていう力道山*のパートナーの事務所が近くにあって、遠藤幸吉もそこで興業をやってたなあ。そのプールが大会とかにも使えるような立派なプールだったんだけど、叶家のもう亡くなつた御主人がそのプールで泳いだことがあるって自慢げに言ってたな。」

次のエピソードです。「野毛山のプールには10メートルの飛び込み台があった。子どもは一番上の台からの飛び込みは禁止されていたが、競って高いところから飛び込んで遊んだ。」

次のエピソードです。「野毛山公園のプールには主人が息子を連れて行っていた。水泳大会のアナウンスが聞こえてくると夏が来たと感じた。」

○司会：うつかりしてましたねえ。遠藤幸吉、力道山といえば昭和30年代ですよね。私も見た覚えがあります。今の野毛山を見るとプールがあったということは思い出すこともできないんですが、この野毛山のプールで泳いだよっていう方、いらっしゃいます？ああ、随分いらっしゃいますね。お話を聞かせていただける方、いらっしゃいますか。

○男性：これはですね、突然できたのではなくて、昭和30(1955)年だったと思うんですが、神奈川県で国体*があったんですね。その時に神奈川県に競泳用の本格的なものがなかったものですから、その時にできたはずです。まあどこでもそうですけど、横浜を中心に神奈川県のいろいろなところで体育施設がですね、結構新しいものができたんですね。そのときにあそこが本格的な競泳用のプール、更に飛び込みもやらなきやいけないっていうので、あの改造が行われたはずだと思います。そのために横浜市内でいろいろ



野毛山公園（絵葉書『野毛山公園より関内方面を望む』より）
(1923-1940)（横浜市中央図書館所蔵）

植え込み越しに、横浜市図書館と震災記念館の屋根が見える。

*野毛山公園
(地図②A-2)
1926(大正15)年に一般公開。昭和4年に復興記念祝賀会が開かれた。

*野毛山プール
(地図②A-3)
は、1949(昭和24)年に市営プールとして開場。昭和4年の発言は誤り。9月に開催された第4回国体の水上大会の会場となった。当時世界新記録を連発し「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋選手も出場した。



野毛山公園プール(1968(昭和43)年7月撮影)（横浜市史資料室提供）

*遠藤幸吉
(1926~)
力道山とともに日本プロレスを創設。

*力道山
(1924~1963)
大相撲の力士出身。1951(昭和26)年にプロレスラーに転向。「空手チョップ」で少年ファンの人気を集め、プロレスブームを起こした。

ろな施設ができたので。私も覚えていませんけどあそこは多分そうだと思います。

○司会：ありがとうございます。壊すのが好きな人が多いと、先ほど御発言がありましたけれど、あのプールも2009(平成21)年6月に壊されてしまって、今はもうありません。先ほどちょっと震災記念館のお話がありましたけれども、昭和も10年ぐらいになりますと相当復興が進んでまいりまして、昭和10(1935)年に復興記念横浜大博覧会*っていうのが開催されました。これにいらしたという方、いらっしゃいますか。じゃああちらの方、お話を願いします。

○男性：私一人しかいないんですかね。あの、確か私が小学校の頃だと思いますが、山下公園でございました。アメリカのサーカスが来たり、それから今の沈床(ちんしょう)花壇になっているところに鯨が入ったんですね。すぐ死んじゃったんですけども、

そういう思い出がございます。とにかくいろんな資料がいっぱい出てますよね。あの当時の入場券だとか地図だとか出てますので、ご記憶のある方も、本当に私一人しかいないんですかね。歳がわかっちゃいますね、あれ、何年でしたっけ、昭和、昭和10年。私が小学校2、3年の頃ですね。

○司会：ありがとうございます。じゃあ一番そちらの。お願いします。

○男性：私は岡野と申します。昭和4年生まれでして、今、鯨の話が出ましたけれども、実は私もおぼろげながらにそういうことを記憶をしていたので、人に話しますと「いやあー、そんなこと聞いたことがないよ」と、誰も信じてくれなかったので、今まで黙っていたんですが、今のお話を聞きまして「やっぱり来たんだな」ということを確認しました。昭和4年といいますと横浜公園*ができたのも昭和4年の3月。で、私が生まれたのが昭和4年3月なので、丁度私が生まれた月に横浜公園ができたということを思い出しました。

*昭和30年の国体
1955(昭和30)年に第10回国民体育大会が神奈川県で開催された。開催期間は、夏季大会9月22日～26日。秋季大会10月30日～11月3日であった。なお水泳競技は鎌倉市営プールで行われた。

*復興記念横浜大博覧会
1935(昭和10)年3月～5月に、山下公園内で開催された。その一画の「生鯨館」で鯨が泳いだ。

*横浜公園
(地図①C-2)
1876(明治9)年に開園。1929(昭和4)年3月に、東大震災後の復興工事が終了した。



『復興記念横浜大博覧会鳥瞰図』(1935(昭和10)年)(横浜市史資料室提供)海側に「生鯨館」の表示が見える。

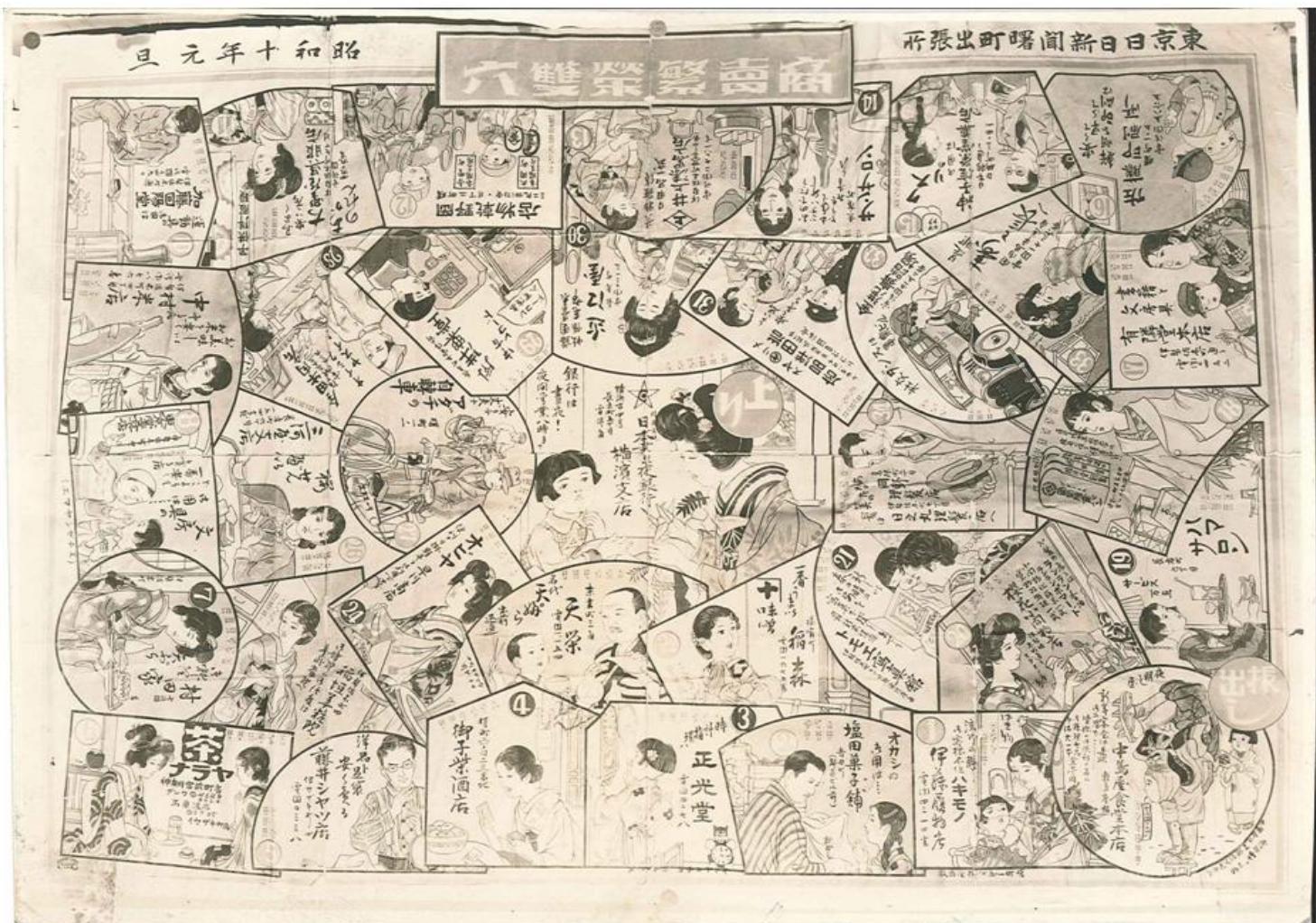
伊勢佐木町の賑わい

○司会：はい、ありがとうございます。これがまだ第二次大戦の前の丁度、こう盛り上がるところでございまして、なかなか楽しい街の様子が見えてくるんじやないかと思うんですが、ここでちょっと柔らかいお話を少しさせていただきます。皆さんの中から映画館のお話ですかとか野澤屋さんのお話ですかいろいろ、伊勢佐木町辺りのお話をいただいております。

当時の伊勢佐木町の様子、スクリーンにありますか。(伊勢佐木町の双六を映写)これ伊勢佐木町の双六になっております。伊勢佐木町のお店舗さんの双六になっているという大変貴重なものでございますので、どうぞご覧になってみてください。伊勢佐木町のその辺りの盛況ぶりを、覚えていますか、嶋田さん。

○嶋田：本来なら小林さんにいくはずだと思うんですが。えー、いわゆる盛り場というと女社会ということで、言っておきますけど大久保さんと1ヵ月違いのお姉さんだけでございますので、お隣にも回したいなと思っております。私、伊勢佐木町っていうと実は私の記憶では昭和20年代以降の記憶なんですね。親に連れられて買物に行く。子どもにとっては買物はあまり面白くないわけで、ただついて行く。ただし終わったらデパートでアイスクリームを食べさせてもらえる。アイスクリームを食べるの、不二家(地図②C-3)かなと思うんですが、不二家が接收されているんで、この辺がね、曖昧なんですけれども。はい、伊勢佐木町でアイスクリームを食べた方、是非この辺を御助言いただきたいと思います。

子どもにとって、盛り場っていう言葉でピンとくるのが伊勢佐木町。そういう中で最後の御馳走のアイスクリームがとっても楽しかったものですから、どなたか教えてください。会場では是非、どなたかご記憶ないですか。



『商売繁榮双六』(伊勢佐木の商店をマス目にしてした双六) (1960(昭和35)年頃発行) (市民の方の御提供写真より)

○司会：伊勢佐木町のアイスクリームの話ということで。

○男性：アイスクリームの話じゃないですけれど、双六の中の一番上の左から三番目、逆さまになっておりますけれども、岡野乾物店(地図②B-4)っていうのは私の親父が始めた、創業したところのお店なんです、はい。この双六の実物があったんですが、うちのおふくろが誰かに貸して、なくなつてまして、写真だけが残っておりましたので、で、先日こちらへおうかがいしたときにこの写真をお出したんです。

○司会：そうですね、これ、もうちょっと拡大したりして詳細に見ると、ものすごく面白いんだろうなと思います。すいません、もうちょっと拡大した画面を用意すればよかったです。申しわけなかったです。商売繁栄、ああ、本当だ、商売繁栄双六って、一番上に薄く見えますね。右からですね、商売繁栄双六。それで、東京日日(にちにち)新聞ですね。曙町出張所が作ったんですかね。それで皆さんのがころへお配りになったんでしょうかねえ。これは本当に貴重なものですねえ。ありがとうございます。

じゃあ小林さんばかり申し訳ないんですけど、伊勢佐木町のお話をもう少ししていただきたいので、少しいいですか。

○小林：それではあの、先ほど会場の方が復興記念横浜大博覧会の話をされました。実は父がそのときにですね、輸出品の一部を作っております。出品をしたんですね。それで私も父に連れられて会場へ行ってますけれども、山下公園の会場はちょっと覚えがありません。ですから鯨についてはどうだったかわかりませんけれども、そのあと、父から鯨が確かに泳いだということは聞いております。で、その後、そのあとはプールみたいになっておりまして、今はどうでしょうか、バラが咲いているようなところですよね、そうですね。あそこがちょっと一段低くなつてまして、プールみたいになってたわけです。

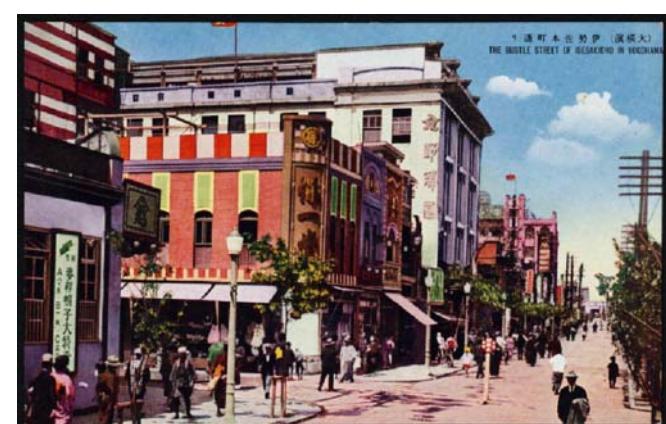
で、私が行きましたのは商工奨励館*でございます。今は情報文化センター(地図①C-1)になつてますけど、日本大通りの角ですね。そこの建物が後に商工会議所になるわけですけれども、その建物の中で、私の記憶に鮮明なのは入口に丸い地球儀、地球儀の大きい半円形ですね。地球が回っているんですね。そんなことを記憶してますし、それと父と話を、電話で話し合いをしました。当時の最新型の電話でございまして、取るとすぐ通話ができた。今は当たり前のことなんですけども、通話ができた。その昔はまだ電池、磁石を、こう回してかけていたんですけど、取つてすぐかけられる電話があつて、それで父と会話をしたことがありました。その程度の覚えしかないんですね。確か四つか五つの頃ですので、そのぐらいのことは覚えておりました。

伊勢佐木町でございますけれども、その当時の伊勢佐木町というのは、私の記憶では人の足のところしか見えなかつたんですね、小さかつたですから。とにかく人の足の踏み場もないぐらい混んでいて、女性の服、洋



*商工奨励館（絵葉書『商工奨励館の全景（日本大通り）』より）（1923-1940）（横浜市中央図書館所蔵）

1929(昭和4)年、関東大震災後に沈滞していた横浜経済の活性化の拠点として、輸出品のサンプルの展示施設として開設された。



絵葉書『伊勢佐木町通り』（1923-1940）
（横浜市中央図書館所蔵）

服や、お父さんたちの羽織ですかね、そんなのが頭や顔のあたりについたりする、そのぐらい混雑してたんですね。土曜日は皆さん、あの当時は休みじゃなかったですね。おそらく祭日、日曜日におそらく連れて行ってもらったときに、まあ、そんなことを感じました。それでよく帽子を買っていただいたことも覚えております。今、帽子屋さん、なくなっちゃったんですけどね。

それでこの中で、(19 頁「商売繁栄双六」参照)私がやはり一番下のですね、一番左側に奈良屋さん、これは今、馬車道にお菓子屋さんと一緒に 2 軒並んでいますけれども、和菓子屋さんと奈良屋さん、未だに立派に御商売をされておられますし、一番上の上段のですね、右側の佐藤印刷さん、これは戸部の角にあります佐藤印刷さん。大変立派に御商売をされておりましすし、有隣堂*は勿論、皆さんおわかりでございましょうし、それからどうでしょうか、稻垣さん*っていうのがありましたですね。稻垣さんは今、横浜の野毛大通り、野毛の本通りで化学製品、化学薬品等を含めて御商売をされておられます。

あとは塩田菓子店さんですね、それは私、記憶があります。私がもうちょっと大きくなつてから塩田さんにはとりわけお菓子を買いに行つた。吉田町だったと思いますね。そんなことを記憶しております。

真金町遊郭、港崎遊郭

○司会：せっかく山崎さんがいらしてるので、ちょっと伊勢佐木の話で私の方から無茶振りしていいでしょうか？本を読みますと、盛り場には付きものものがあるかなと思うので、その話をちょっととしていただけますかしら。

○山崎：そうですね、盛り場に付きものといえば遊郭ですね。風俗街じゃないですよ、遊郭って呼ばれてた頃ですけれど、この横浜の遊郭こそ私を横浜に導いてくれたものです。今、私、独り身なんですけど、夫がおりまして、もう十数年前に亡くなりました。私より 18 歳も上で昭和 4 年生まれでした。だから小林さんより上ですよね。その夫が横浜生まれの横浜育ちだったんですね。で、昔のその私の知らない横浜の話なんか、例えば空襲の話ですかね、よく雑談で聞かせてくれたことがありました。その時に出てきたのが真金町遊郭*の話です。「昔は横浜に立派な遊郭があつてさあ、子どもの頃、お酉様*のときだけあそこ、自由に入ってよかつたんだよねえ」って。「きれいな女の人がいっぱいいて、大きくなつたらここに遊びに来られるんだって思つたのに、年頃になつたら戦争が始まつてしまつて、本当に腹が立つた」みたいな話をね、聞かせてもらいました。

遊郭なんというとどうしても吉原*とか、洲崎*とか丸山*とかそういう有名なところが思い浮かびますが、横浜と遊郭っていうのはちょっと結びつかなかつたんですね。結びつかなかつたからこそこれはいいなあと思ったのは、丁度その頃は 30 代の半ばぐらいでして、まだ作家になってなかつたんですけれども、ミステリーを書いて応募して作家になろうと一所懸命やってた頃だったんですね。応募作ってのは誰も書いてない題材を使った方が絶対にいい。で、横浜の遊郭を舞台にして書こうと思つて、調べはじめました。昭和 6 年、戦争が始まる前ですね、小林さんがお生まれになった年ですね。混沌とした怪しい時代ではないかと思って、こちら辺に狙いを定めまして調べ始めたんです。当時私は緑区の中山に住んでおりました。うちの夫は六角橋の辺りで生まれ育つたらしいんですけど、疎開で中山へ移つてそのままずっといたんですね。で、当時、図書

*有隣堂
(地図②C-3)

*稻垣さん
稻垣薬品(地図③B-2)

*真金町遊郭
1882(明治 15)年創業。大火などで転々とした港崎遊郭の終息の地。

*お酉様
南区にある金刀比羅大鷲(おおとり)神社の「酉の市」を指す。毎年 11 月の酉の日に行われる祭礼で、市内最大規模とされる。

*吉原遊郭
江戸幕府によつて公認された遊郭。1617(元和 3 年)に現在の東京都日本橋人形町に開設。1657(明暦 3)年の大火をきっかけに浅草に移転。当初、新吉原と呼ばれていたが、次第に浅草が吉原遊郭として定着した。

*州崎
現在の東京都江東区東陽の旧町名。

*丸山
丸山遊郭は、1642(寛永 19)年に現在の長崎県長崎市丸山町に開設された。

館へ行ったのか資料館へ行ったのか、私はこの真ん中辺りに全然つてがなかったので誰に聞いたらいいのかもわからなかつたんですけど、探しに行つたら、あまり資料が見つからないんです。で、ない資料の中からいろいろ調べたのが、真金町遊郭というのは前身があつて、開港の頃、1859(安政6)年が横浜開港ですけれども、それとほとんど同時に大きな遊郭ができたんですね。外国人もそれから日本人も、ばあーっと男がいっぱい入つてくる、遊郭が必要だと

いうので建設されました。港崎(みよざき)遊郭*という名前だったのですが、場所は今 *横浜大空襲
(28頁参照)
の横浜公園です。信じられないですね、あそこに大きな遊郭があつたなんて。

関東大震災とそれから、これから横浜大空襲*の話がでてきますが、その二つとも横浜の中心部は壊滅状態になりました。その前に実はもう一回、壊滅状態になったことがありました。開港から7年経つた、慶応2年、1866年ですけれども、大火事*になりました、せっかく作った外国人居留地、日本人町もほとんど焼けてしまつたのです。そのとき実は火元が遊郭の近くだったものですから遊郭も、丸焼けになりました。遊郭ですから大きな門があつて、簡単には出られないようになつてゐる。たくさんの女人人がそこで焼け死んだそうです。

その後、遊郭は転々としまして、最後に落ち着いたのが南区の真金町と永楽町でした。赤線廃止になった1958(昭和33)年まで存続したそうですから、行ったことがあるという方がいらっしゃるかも知れません。

小林さん、ありますか？あるんですね。(笑)(会場からも笑い声)

○小林：私はあの、友人ですね、絶えずやはり行つてました。で、その後、お前は手前ですね、時計の付いてるあのビルにですね、貯金したけど、俺は川の向こうに貯金しちゃつたからという話で、ですから私は手前の、あそこは郵便局ですよね、郵便局に貯金をしてたと、こういう比喩ですね(笑)。行って遊んだことはないですね、はい。

○山崎：えー、ないんだそうですけれどもねえ。(笑)あの、まあ私、そこを舞台にして小説を書きまして、江戸川乱歩賞という賞をいただきました。『花園の迷宮』*というタイトルだったんですけど、ようやくそれで作家になれました。本当に横浜の遊郭のおかげなんですね。その本の中には「読者カード」っていう葉書が入つております。読者に感想を書いていただくようになっています。その中に何と桂歌丸*さんの葉書がありました。桂歌丸さんってあとで知つたんですけど、おうちが真金町で遊郭をやってらしたんですよね、ご実家が。おばあちゃんがやってらしたそうですね。なかなかよく書けてますという感想でした。私も仰天して、出版社の人たちと、歌丸さんと桂歌丸さんだと大騒ぎになつことがあります。まあ、そのお礼を言ったのはずっとずっとあとになって、お目にかかるからでしたけれどもね。

○司会：はい、面白い裏話でした。遊郭の話ってのは今のお話にあったように、表側



*港崎遊郭(錦絵『神奈川横浜新湊港崎町遊廓花盛之図真景』(1860)より)(横浜市中央図書館所蔵) 1859(安政6)年に開業。大小100軒近い遊女家が現在の横浜公園(地図①C-2)に建ち並んだ。

*横浜大空襲
(28頁参照)

*慶応2年の大火事
慶応大火と呼ばれる1866(慶応2)年11月26日に、横浜の関内で発生した火災。横浜開港から7年目の関内を焼き尽したことから別名「関内大火」。豚肉屋から出火したため「豚屋火事」とも呼ばれた。



*『花園の迷宮』
(山崎洋子/著、講談社、1986年刊)

*桂歌丸
(1936~)
横浜市真金町出身の落語家。祖母が経営する「富士楼」は「張り見世」を持つ大店であった。

の資料としてあまりないものでございますので、もう昔話でございます。何か遊郭について思い出話等、おありになる方、ちょっと聞きにくいかといふところがあるんですけれど、子どもの頃、何かきれいなお姉さんいっぱいいていいなあといふようなことでも結構でございますので、遊郭の近所にお住まいの方ですとか何か、貴重な思い出話等、ございませんでしょうか。あつ、ありがとうございます。

○男性：ただいま、あの、山崎先生、おっしゃったとおりなんですが、何での遊郭ができたかというと、アメリカがね、開港場を横浜に作ったんですよね。そのときに開港場に遊郭ができて、それが今度は港崎の横浜公園のところへ来て、それが焼けて、豚屋火事って有名なねえ、今おっしゃった豚屋火事が起きて、それで今度は長者町4丁目かな、向こうの方に一時、移ったんですよ。そのときに根岸に競馬場*ができたんですよ。そこの競馬場に行くのに、淨行(じょうぎょう)様っていう、清正公(せいしょうこう)堂*っていうのを長者町に建ててあったもんですから、淨行様は体の悪いところを治すということで、遊郭の女の方もお参りに来て、非常に淨行菩薩ってのは盛んだったそうです。

それと併せて競馬場ができたために、一攫千金の夢を見る度に清正公にお参りをして、根岸の競馬場に行ったと。その帰りに、儲かっても儲からなくても伊勢佐木町長者町にそれらのお金が落ちたということなんですよね。それからその後は向こうのね、お酉様の方に移ったんですよ。そのときに桂歌丸のおばあさんの、やり手ばばあの三人に例えられるそのおばあちゃんが(会場から多数の笑い声)、やくざが道を通るときは避けて(よけて)通ったというような有名なおばあさんだったそうです。そういう話があつたんでございます。

○司会：いやあー、初めて聞いたお話を。面白いですね。伊勢佐木町にはいろいろな食べもの屋さんができましたということで、牛鍋屋*さんの話をどなたか御存知でいらっしゃいます？遊郭と牛鍋の関係って、どなたか御存知でいらっしゃいます？ああ、じゃあお願いいたします。

○男性：あの、私はこれ、聞いた話ですけれど、伊勢佐木町に「じゃのめや*」さんという牛鍋屋さんがあるんですが、戦前は遊郭から帰って朝飯を食べるのを朝、もう7時頃から店が開いて(あいて)まして、朝帰りの人たちのお客さんが結構入って来て、それから夕方までやって夜もあるっていうかね、24時間ずっと商売をしているようなところがあつたそうですが、お酒の薦かぶり(こもかぶり)って四斗、四十升ですか、入る薦かぶりが一日に三樽ぐらい出ていったという話です。座敷は、追い込みついでいしまして、座卓がずっとあります、ずっと衝立があるだけで、部屋割りは何にもなくて、そこへみんなお客様が入って来て、酒呑んだり牛鍋つついたり、そういうことをしてたという話を、あそこのお店の御当主の弟さんが戦前、ずっとその酒の面倒を見てたという話を、直接うかがったことがございます。

○司会：どうですか、牛鍋と聞いて黙っていられない方、いらっしゃるでしょう。

○嶋田：えー、実は同じようなお話を荒井屋さんでうかがったことがあります。本当に遊郭へ行く、或いは遊郭から帰る。これ、精をつけなくちゃならないんだそうですが、えー、実は荒井屋*さんはこういう話もしてくださいました。「嶋田さんねえ、伊勢佐木町の牛鍋の店、表通りに店を、いわゆる玄関口、持ってる？持っていないでしょ。あれはやっぱりこっそりに入るもんだから、ちょっと横向きに入口があるんだよ。うちもそうだ」って。荒井屋さんは曙町に近いところですよねえ。それから太田なわのれん*さんもちょ

*清正公堂
(地図②B-3)
1812(文化9)年、常清寺の境内に「清正公堂」が開堂。戦災で常清寺とともに焼失したが、長者町9丁目の吉田新田を完成させた吉田勘兵衛住居跡に移転された。

*根岸競馬場
日本初の洋式競馬場。1867(慶応3)年から競馬が開催された。現在は根岸森林公园となり、今も一等観覧席が残る。

*牛鍋屋
最初の牛鍋屋は1862(明治元)年関内の入船町の「伊勢熊」と言われている。当時の牛鍋は牛のぶつ切り肉を、多量の味噌、醤油で煮込み、ねぎを入れて肉の臭みを消していたとされる。

*じゃのめや
(地図②B-4)

*荒井屋
(地図②B-4)

*太田なわのれん
(地図②B-3)

っと脇へ入る。それからじやのめやさんも本来的に表通りではなくて裏口と。これはやはりね、さすがの男もね、ちょっと隠れてね(笑)、というお話をうかがいました。真偽のほどはわかりませんが荒井屋さんの亡くなった荒井一雄さんからうかがったお話をです。

○司会：ありがとうございます。伊勢佐木辺りのお話で何かもうひと言、言いたいって方、いらっしゃいますか。一番後ろの方、どうぞ。

○男性：あの、この中で比較的現代に近くで21世紀になってからのことなんんですけど、伊勢佐木町っていえばカレーミュージアム*がありましたね。今はパチンコ屋になってまして、あのカレー屋、仕事に行ってお昼休みによく行ったことをよく覚えていてます。食べてもいいカレーがたくさんあって、とってもおいしかったので、仕事中にそこまで走って行き、走って帰ったことをよく覚えています。

戦前の野毛

○司会：はい、ありがとうございます。伊勢佐木の方から野毛の方へ移ってきて、戦前の野毛の様子。皆さん随分思い出がおありかと思いますけれども、戦前の野毛のお話の中で、今回、エピソードいただいた中で村田家*さんから随分お話をいただいておりますけれども、村田家さんていうとやっぱり「ドジョウ(鱈)」。(会場から声あり) おっ、失礼いたします。

○村田家ご主人(会場より)：私はでもね、戦前は知りません。戦後生まれですから、えーと、いわゆる団塊の世代ですね。で、うちは戦前、伊勢佐木町の2丁目にあったんですよ。加藤回陽堂*さんの裏に白牡丹(はくぼたん)*、今でもありますけども化粧品屋さんがありましてね、その真ん前の閑内パーキング、あの場所が先代、先々代の村田家の場所です。戦前はてんぷら屋さんでね、結構流行ったらしいですね。戦前のてんぷら屋さんというと、あの天吉*さんとそれからまあ、村田家というふうに言われるくらいに大分張り切ったんですけど、野毛に来てもう蚊の鳴くような声で今、やつてますよ、はい。

○司会：ありがとうございます。いつも行かせていただいているのに失礼いたしました。はい、どうぞ。

○男性：野毛の話で私、ちょっと思い出したんですが、私の父がですね、戦前、昭和6、7年から12、3年まで野毛の税務署*に勤めておりまして、それでその当時ですね、元首相の福田*さんと大平*さんが横浜の税務署長として若い頃に赴任なさっているんですよ。それで今でも中税務署の所長室のところに、福田さんと大平さんの写真が飾ってあるそうですけども、私の父は将来の総理大臣二人に部下として仕えたんだなんて、自慢そうに話をしていることがありました。

それで、今のにぎわい座のところが中税務署だったんですけども、その所長室へは何度か入ったことはあるんですが、赤絨毯を敷いてあります、ビロードのカーテンがかかってあります、ものすごく立派なんですよ。何であんなにあそこの税務署は立派なんだろうなということを誰かに聞いたことがあるんですが、そうしましたら戦前はですね、飛行場がメインじゃありませんから、海外旅行をなさる方は全部横浜港から海外へ出かけて行きました。パリに行ったり、ヨーロッパなんてみんな横浜港から行ったわけなんです。アメリカ航路もそうですけども。そのときに政府の高官ですね、洋行するときの、船に乗るまでの間の時間をですね、税関長の部屋か横浜の

*カレーミュージアム
中区伊勢佐木町にあったフードテーマパーク。
2001(平成13)年1月にオープンし、2007(平成19)年3月に閉館した。

*村田家
(地図②B-2)

*加藤回陽堂
(地図②B-3)

*白牡丹
(地図②C-3)

*天吉
現在は中区港町に立地。戦前、戦中は伊勢佐木町4丁目に店舗があった。

*野毛の税務署
旧中税務署を指す。跡地に「横浜にぎわい座」(地図②B-2)が立地。

*福田赳夫
(1905~1995)
1976(昭和51)年第67代内閣総理大臣に就任。

*大平正芳
(1910~1980)
1978(昭和53)年、第68・69代内閣総理大臣に就任。

中税務署の部屋かへ留まって、お茶をさしあげて、ちょっと時間を過ごすということがあつたんです。その高官がたくさん横浜の中税務署へ来るもんですから、そういう立派な応接室があった、ということを聞いております。それからもう一つは、横浜中税務署、昭和3年に確か建て上がったんだそうですけれども、それこそ大正12年に震災があったわけですから、ものすごく頑丈な建物だったそうです。ですから、にぎわい座のために壊すとき、すごく大変だったんじゃないかと私、想像してるんです。そのひとつの証拠として横浜税務署の中へ入り、階段を上りますと左側に公金取扱で税金なんかを納める場所があるんですけども、正面を入ったらずうーっと背の高いカウンターがありまして、左側に入るためには、建物の一番右側までぐるっと回って行かないと、入れないよう、そういう構造になってたらしいんです。で、左側の公金取扱のところへ出入りするの、非常に不便なんで、そこのカウンターを切る工事をやったときに、大理石のカウンターだったんですけど、それが切れなくて往生したっていう話をちょっと聞いたことがあります。

それともう一つだけ、ちょっとだけお話ししたいのは、先ほど山崎先生がおっしゃってた山下公園の話なんですけども、私は戦災で田舎へ疎開してたんですけども、帰って来たときに家がなくて借地をして家を建てて、父が建てたんですがそのときに何かお医者さんの屋敷だったらしいんですけど、基礎が全部レンガで積んであったんです。で、私はそこで遊んだことを覚えているんですけども、そんな具合で横浜は大震災の前はレンガ造りの家がべらぼうに多かったらしいんですね。ですからあそこの山下公園の埋立というのほとんどレンガが埋まってるんじゃないかと私は想像します。

○司会：はい、ありがとうございました。

○大久保：あの、今のレンガの話で思い出したんですが、今はもう立派に建っております赤レンガなんですが、震災で一号館の端っこが倒れて、今は二号館が現存して一号館は短い形で残ってますが、日活の映画の撮影や何かで使われたあと、すごくいたずら書きがされて閉鎖になった時期がありましたね。あのときに私は市の方と中を拝見したことがあるんですよ。そしたら二号館の中に、菊の御紋章が金箔で書かれておりました。で、そのとき役所の方にうかがったら、皇族の方が横浜港から出港なさるときのお荷物を保管する場所で、特別に菊の御紋がある場所がそれに指定されていると、そういうような貴重な話をうかがいました。今、赤レンガで思い出しましたのでちょっと、口を出してみました。

○司会：初めて聞く話がいろいろあって大変面白いなと思っております。小林さん、お待たせしました。それでは戦前の野毛のですね、賑わいですとか、まあ、食べもの屋さんのお話ですか、小林さんの得意な野毛のお話をちょっと聞かせていただけますか。

○小林：そうですね、私が生まれたのが昭和6年で、私は昭和10年以降の話はやはりちゃんと覚えているわけでございまして、おそらくこの会場の皆さんの中にも鮮明に覚えていただける方がおられるんだろうと、こう思います。私どもの生まれたところは先ほど叶家さんの前って言ったんですけど、それから野毛大通りの方へ、野毛本通りの方へ上がっていきますと、あそこに小高い坂があるんですね、村田家*さんの方へ上がっていくところね。コーベル*さんというお菓子屋さんがあるんですけど、私どもが小さい頃、よくそこの坂で遊びました。最近になって知ったんですけど、そこから砂浜になって海岸線だったそうです。私のところはもう海岸線だったんですね。で、コーベルさん、村田家さんのところは、砂の上の方ですから砂場だったんですよね。そういう具合に思って野毛を見てますと面白くて、税務署の方から大岡川の方へずっと、なだらかな坂になってるんですね。相當下がってると思うんです。そういうことを考えながら野毛を歩いていただくと昔のよすがが出てくるのかなと、こ

*村田家
*コーベル
(地図②B-2)

う思うわけでございます。

先ほど税務署の話がありました。私のうちが狭いもんですから、雨になるとですね、雨の日は税務署行って遊んで来いと、こういうことでございまして(会場から笑い)、税務署の署員さんに一緒に廊下で紙飛行機を作つていただきて、遊ばせてもらったっていう記憶がございますし、当時はおそらく、先ほどのお父さんたちも職員でおられたと思うんですね。で、大平さん、福田さんも、おそらくその当時おられたのかなと思うわけでございますが、今になってバチが当たつて税務署に追っかけられてると、こういうことでございます。

そういう話は別として、野毛は本当に静かな街でございました。今みたいに飲食店が街の隅々にあるという街ではなかったんですね。ところどころに、弁護士さんもおられましたし、また、ビリヤードはありました。それから、先ほどハワイへの航路ということで横浜で二泊三泊してですね、船に乗るということもございましたし、帰つて来た人も横浜で寝泊まりをして、汽車でご自分のおうちへ帰ると、こういうことでございまして、かなり旅館が多かったです。で、その旅館についてはだいたい名称がですね、各県の名称が付いたんですね。熊本旅館ですとか、越後屋とかですね、ですからおそらくその国の方がそこで泊まって居住をするか、もしくは帰つて来た方がやはり自分の出生地の旅館に泊まってですね、帰ると、こういうことだったと思います。

私は花咲町一丁目(地図④参照)ですけど、一丁目にも2軒、旅館がございました。ビリヤードも2軒ございました。そういう静かな街ではあったんですけども、今の野毛大通り、それから野毛本通り、そこには商店が並んでおりまして、私の同じ隣組には広瀬さんというお菓子屋さんもあり、大変大福がおいしいお店でございましたし、野口という自転車屋さんがありますけれども、その自転車屋さんもありましたし、それからコーヒーショップもあつたりですね、煙草屋さんもあつたし、質屋さんもその通りにありました。大通りに面しては商店の方も多かったですけれども、私の友達のおうちなど、しもた屋(仕舞屋)さんも、あの大通りにもありました。しもた屋というこの言葉は皆さん、御存知なんでしょうか。私の聞いたところですよ、間違つたら御訂正いただきたいんですけど、仕事をもう辞めたと、ええ、もうしもうたという、しまつた(仕舞つた)ということなんですね。まあ、そういうことですから一般のおうちになって、住宅になってるんですね。それでよろしいでしょうか。(会場から声あり)あつ、そうですかそうですか。いろいろ御意見、あとでちょっとお聞きしたいと思います。

野毛本通り(地図③参照)には今ではどうでしょうか、あの、永持(ながもち)薬局さんていうのがついこの間までありましたけれども、ちょっとお店が変わりました。それから大塚陶器店さんていうのも、もうなくなりましたけれど、それと板垣さんという、かつぶしとかそういうものをお売りになつてゐるお店もなくなりました。で、三河屋さん、これは酒屋さんなんですけれども、もうやはりかたちが変わりましたですね、建物が変わりました。稻垣薬局さんは今も営業中でございます。それから會星樓(かいせいろう)さんもやっております。あの、金久保さんも果物屋さんの御商売をされております。

ただ、当時、横浜銀行の前身、横浜興信銀行の野毛支店というのがございまして、これは野毛が栄えてた証(あかし)かなと思うんですけども、銀行の人に聞きましたらば、第一号の支店が野毛支店だったそうです。いかに野毛がですね、それだけ繁盛してた街なのかなと、そんなことが思い出せるわけでございます。これらの昔のお店もですね、空襲と同時に全て灰燼に帰したわけでございまして、ただひとつだけ花咲町一丁目、今はマンションになりましたね、そこに耶蘇教*があつたんですね。このことは御存知、御記憶の方がお出ででしょうか。(会場から声あり) そうですね、はい。教会がありまして、私どもは貧乏人の家族で、子どもでしたの

*耶蘇教
キリスト教
のこと。

で、クリスマスになりますとその1か月前から実は教会に行くんですね。それでクリスマスのミサに行きますと帰りにクリスマスのいろいろなお土産をいただける。そのお土産をいただくとまた1年間、ミサには行かないということで、そんなことを実はこの教会にはですね、大変バチ当たりな行為をしたんですけど、そんなことを覚えております。まあ、昔のことですので記憶は定かでございませんけれども、そういう本当に静かな庶民的な街であったということを皆さんには御理解ください。

○司会：はい、じゃあ先ほどの話をちょっとうかがわせていただきます。

○男性：私が仕舞屋ということをどういうふうに解釈していたかといいますとですね、実は私の親父はですね、宇都宮商業を出て横浜へ出てきて、野毛にありました杉山商店って砂糖問屋ですね。ここへ来て、商業学校を出ていたもんで若くして番頭さんをとったんですね。そのときにその杉山の社長が、この男に自分の郷里の方から嫁さんを世話をすると。で、杉山さんの郷里は平塚でして、うちのおふくろがやっぱり平塚なので、その紹介で来るときに、うちのおふくろのところがその馬入橋(ばにゅうばし)*のすぐ際ですね、馬方を相手の質屋だとか、もうとにかく棺箱以外は何でも置いていたっていうお店だったそうなんです。で、学校に行くときには必ず何かしなくちゃ行っちゃいけないっていうことになっていたので、そのときからもう、お嫁行くんだったら仕舞屋がいいって。その仕舞屋って、サラリーマンの奥さんっていう、そういうかたちじゃなかつたのかなっと思うんですよ。それで、横浜へ出てきたってことを、おふくろからよく聞いてましたので、ああ、仕舞屋ってのはそういうもんなのかと思っておりました。ついでによろしいでしょうか。

○司会：はい、どうぞ。

○男性：双六(19頁参照)にあります上の左から三行目の岡野乾物店。うちの親父は、その杉山商店に勤めながら店をまず、そこへ開いたんです。そこは元、友野っていうお米屋さんがあったとこでして、娘さん二人で、跡(あと)をやる人がいないからっていうんで、誰か借りる人、いないかなってことを、うちの親父の下でいた小僧さんが、うちの親父にもってきたわけです。で、仕舞屋へ行きたい行きたいって言っていたうちのおふくろがもう、お嫁に来て三月と経たないうちにもう商売をやりたくてしようがなくなっていました。丁度その話があってそこを借りて昭和元年に店を開いた。そこで私は昭和4年に生まれたわけですけれども、それでひとつ、ちょっと話は飛んじやうんですけども、その私の親父が借りた店の持主は友野きぬさんとおっしゃる方です。で、その方からお借りして昭和9年に売っていただいているんですが、その友野さんの娘で友野はなっていうのがおるんですが、その方がのち、横浜の映画女優第一号になった紅澤葉子*なんですね。

その友野きぬさんっていう、そのお母さんからうちの親父がその建物を売っていただいたときの売買契約書もございます。私は10年ほど前に商売、辞めました。私は協議会に入っていたんですが、そのときに『元町140年史』*ってのが出来てその中を見ていたところが、その紅澤葉子ってのが映画女優ってことがそのとき初めてわかったんです。その前は私、伊勢佐木町の、みのや*さんという羊羹屋さんに品物を納めていたので、その親父さんから「岡野、お前んところが出ているぞ」って一冊の本をもらったんですよね。

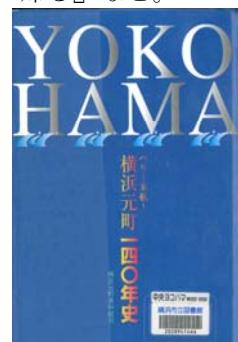
それがこの「いせざき」っていう雑誌なんですが最初のページに紅澤葉子の手記が載つておりますて、ちょっと読んでみると、「私が生まれたのは72年前、そう、中郵便局*

*馬入橋

現在の相模川の茅ヶ崎市と平塚市の境にかかる橋。馬入川は相模川下流の呼び名で、頼朝が馬もろとも川に飛びこんだという伝承から。

*紅澤葉子

(1901~1985)
横浜市出身の女優。本名友野はな。主な主演作品に『人生劇場』『父帰る』など。



*『ペリー来航 横浜元町一四〇年史』(元町の歴史編纂委員会/編著、元町自治運営会、2002(平成14)年刊)

*みのや
(地図②C-3)

*中郵便局
(地図②B-4)

の前から伊勢佐木町へ通る道の岡野食料品店のとこで生まれました。」ということから始まりまして、「今の中郵便局のとこには横浜座っていう芝居小屋があった」とか、それから「市電はもっと川ぶちを通っていった。今の大通り公園の脇を通ったのが、今の通りを通ることになったので、区画整理になって自分のうち(家)の地所が減っちゃった」とか、ほかにもいろいろ書いてありますけれど、そういうことがわかつたと、そういうことです。

○司会：はい、どうもありがとうございました。さすがの皆様も御存知ないお話をたくさん出てきて、驚くばかりですね。

○鳴田：ひと言、いいですか。

○司会：はい、どうぞ。

○鳴田：紅澤葉子さんのお名前が出たんで、本当にびっくりしたんですが、私、県立平沼高校なんですが、昔の第一高女。紅澤さんも第一高女の御出身なんですね。それで、五大路子*さんが、『横濱行進曲』*、これが紅澤さんが出てくるんで五大さんから呼び出しをかけられて、「鳴田さん、あなた、後輩なんだから、紅澤葉子はいかなる人か、よく調べなさい。」そんな古い話、わからないのですが、実は偶然なことに私の母、それから叔母が当時の第一高女で同級生ということで、いくばくかの資料を差し上げた覚えがございます。是非五大さんのお芝居を観るときには紅澤葉子さんの今日のお話をね、皆さん思い出していただければと思います。どうもありがとうございました。

横浜大空襲

○司会：4時までの予定で3時半になりましたのに、まだ戦前の話をしております。すいません、もう間もなく横浜大空襲*の話で、辛いお話を入りたいと思います。

それでは戦争ということで、エピソードをいくつかいただいておりますので、少し読ませていただきます。

○(エピソード朗読)：「空襲の数日後、疎開先の小田原より横浜に入った。川の水が流れなくなるくらい死体が散乱していた。焼夷弾から逃れるため、川に飛び込んだが、絶壁の河岸を上れなかつたのではないか。ぽつぽつとビルが焼け残っていたが、辺り一面が建物がなく、長者町に立つと港まで見通すことができた。

「伊勢佐木町の角のあたりに下士官用の慰安施設があり、その周りに娼婦が集まつて来ていた。米兵たちがわらじのような大きさの肉を食べていた。その食べ残しや缶ビールの飲み残しを拾い、川沿いで食べている人がいた。」

○司会：少し戦後までのエピソードを御紹介申し上げました。戦争のあの悲惨な状況についてのエピソードは、実はこの39番のエピソードしか寄せられておりません。私ども、戦争の思い出を随分皆さん寄せていらっしゃるんじゃないかなと思ったんですけども、この一つだけでございました。

ほかのところへ振ったのもあるので申しわけないんですけど、もしお嫌でなければ当時のお話、戦中、特に5月29日前後のお話をしていただける方、よろしければお願いできませんでしょうか。

三人手が挙がりましたので、順番にお話をいただきますので、そちらから順番に。

○男性：あの、戦争の話っていうと横浜の場合には5月29日と、その前に4月にも空襲があったんですね、天王町の方に。で、その前にですね、これ、私、本当に覚えてるんで、あとから調べたんですけど、ミッドウェー海戦*が6月に、17年にある

*五大路子
(1952～)
横浜市出身の女優。横浜夢座の座長。

*『横濱行進曲』
横浜夢座（女優・五大路子を中心
に横浜の市民による横浜夢座実行委員会が上演
する演劇のこと）
の舞台劇。ハマつ
こ女優第一号・紅
澤葉子の青春放浪記。

*横浜大空襲
1945年5月29日の昼間に米軍によつて横浜市中心地域に対して行われた空襲である。死者3650人、負傷者1万2千人、焼失家屋8万5千戸。

*ミッドウェー海戦
第二次世界大戦中の1942(昭和17)年6月5日から7日にかけてミッドウェー島(北大西洋ハワイ諸島)をめぐつて行われた海戦。

わけですけれど、その4月の18日にですね、アメリカのドーリットル*っていう中佐がですね、ホーネットだったかな、B-24*ですね、日本を縦断して、あの、攻撃したんですね。で、私も記録を見てましたら横浜のことのはんまり出てなかったんですけど、横浜大空襲の記録を見ましたら、南区でも亡くなっている方がいるんですね。

*ドーリットル空襲（またはドウリットル空襲）
1942(昭和17)年

で、そのときのことを思い出して、私はまだ当時、私は昭和13年生まれですから、えー、17年の4月18日っていうと、まあ、はんまり大きくなかったんですけど、当時あの、警防団っていうんですか消防団っていうんですか、ありました。町内会でそういう役割の人がいたわけですね。私も今もね、本当によく覚えているんですけど、大きな飛行機が飛んでいくんですね。で、そしたらそこの団長さんが、皆さん、大丈夫だ大丈夫だ、これは仮想敵機だなんてね、みんな空襲の練習してるんだから大丈夫だ、静まれ静まれって言ってる人がいたっていうのはね、よく覚えていました、また、あの頃はまあ、無知っていうれば無知だったんですけど、竹やりで突き落とせばいいんだなんて騒いでいる人もいたんですね、まあ、のん気だつていえばのん気だったんですけど、あとからあれはいつあったのかなあという、本当に小さな記憶だったんですけど、調べてみたら4月の18日であって、そのあとミッドウェー海戦があって、日本はそこから負け戦(いさき)になっていくんですけど、またそれから空襲も増えていく、そういう日だったんだなって覚えていると共に、日本の防空体制っていうのは極めて牧歌的なことをやったんだなってことを思い出します。

4月18日に、アメリカ軍が、航空母艦ホーネットに搭載した爆撃機16機によって行った日本本土に対する初の空襲。焼失家屋61棟、死者39人、重軽傷者307人だった。名称の由来は空襲の指揮官ジミー・ドーリットルから。

*B-24
発言ではB-24とあるが、正しくは、B-25爆撃機。

それから横浜が空襲にあったことは皆さんの方がよく知ってると思いますが、私はその始めのことを、ちょっと思い出したので、まあ、覚えてる方、多分、何人もいらっしゃると思いますけど。

○司会：はい、ありがとうございます。すいません、じゃあその後の方、よろしいでしょうか、はい。

○男性：あの、さっき、5月29日とお話をございましたが、私は戦争中、勤労動員に行ったりなんかしましたが、その前に3月10日に東京に大空襲があつたりして、横浜も確かにあれは中村町だったかな、吉田町の辺りが1回、爆撃で焼けてるんですよね。幾日だか忘れましたけれどね。で、野毛山だとか本牧だとかなんかに高射砲の陣地ができて、さっきのお話じゃないけどね。本当に空襲があると、みんな弾が当たらないというようなを散見してます。

一度あの、撃墜した飛行機がパラシュートで元町の今のプラザの前の交番のところに降りてきたんですよ、米兵ですね、飛行機から落下傘で。みんなで寄ってたかって殺しちゃおうなんてやってたのを記憶しています。野毛に、さっきお話、出ませんでしたけども野毛に憲兵隊がございましたよね。そこからすぐ駆けつけて、触るなというふうに止められた記憶がございます。

話が今度は5月29日にいきますけれども、5月29日には私は小林さんと同じ学校だったんで六角橋にいたんですが、その学校で焼けましてですね、元町まで帰ってきたわけですけれども、もう、その辺の状況は皆さん、御存知のとおりですね。元町でも白系ロシア人の方がお一人、御不幸になられて。言葉が通じなくて防空壕へ入りっぱなしで蒸し焼きになっちゃったという悲惨な光景を見ました。もう元町が丸焼けでしたから、結論から言うと全部焼けました。ただ、丁度クリフサイド*から山の根っこまでが、山手の方が、不思議に焼けなかつたんですね。そのおうちへ皆さん、今のお代官さんの上の方が全部焼けなかつたんで、そういううちに避難したり、或いは一時はバンドホ

*クリフサイド
(地図①D-2)
「山手舞踏場」として 1946(昭和21)年、戦後の焼け跡に開店したダンスホール。

テル*、新山下の今のドンキホーテのところにホテルがあったんですが、そのバンドホテルのロビーにみんな泊まって、それから各おうちへ避難したということです。

ついでながら言いますとその後、すぐマッカーサー*が来たんですが、これは皆さん知らないと思いますが、写真は残っていますが、厚木飛行場から隊列組んで来たときに、えー、私は自転車で、桜木町の今の大江橋のたもとまで迎えに行ったんですね。野次馬で行ったんですが誰もいなかつたんですよ。で、ニューグランドの中までくつづいて歩いて来て、まさにお出迎えしたと。えー、これは私だけじゃないかなと思っているところでございます。以上です。

○司会：はい、ありがとうございました。お待たせしました。

○男性：何度も何度も出しやばりで申し訳ございません。私、先ほど申し上げたように昭和4年に曙町ってどこで生まれまして、現在82歳なんですが、この82年間どこも動いていないんです。焼けてからもバラックを建ててずっと留まっていました。うちの親父は空襲で亡くなりました。で、現在私は横浜戦災遺族会の副会長をいたしております。地下鉄の阪東橋のすぐそばに、大通り公園*の中に平和記念碑ってのがあります。だんだんその遺族って方が亡くなってきておりまして、実際に自分のおじいさんが亡くなっている方でも、もう遺族っていう感覚、薄れちゃってるんですね。今年見えた方30数人しかございませんでした。

あのそばに一番近い小学校で、南吉田小学校*ってのがあるんです。で、そのPTAの方からちょっと何か空襲の話をしてもらえないかといわれて一昨年、朝礼のときに15分間、時間をいただいてお話をしたんです。その帰りに4年生の子があの平和記念碑まで一緒に来てくれまして、私に質問してきたんですが、「おじさん、さっき食べるのがなくて困ったっていっただけど、そんときコンビニ、なかったの」って言われました。まあ、今の子どもの感覚からいくと食べものがないということは信じられないし、金さえあればどこでも買えますので、その買うためのコンビニがなかったからとか、そう言われまして、それで今度の大震災を見て、そういうことを質問した生徒も少しあわかったかなとは思うんですがね。そういうわけであそこの平和記念碑を今、遺族会っていってもあそこへ掃除に來るのは3人しかいないんですよ、私を含めて。3人で掃除して、これで何年やっていけるかなっていう。遺族会っていうのは、亡くなられた方の家族が、遺族というかたちでもってあそこに皆さんで集まって、お金を出し合って慰靈碑を立てたんですが、そういう方ですからもう二代目、或いは三代目になっちゃってるんですね。で、だんだん感覚が薄れてきてまして、何かあっても連絡しても、とにかく行かれないとっていうふうに、そういう今、状態でいるので、いつの間にかあそこも忘れられちゃうんじゃないのかなあ。それでいいのかなあ。そういう気持ちでいっぱいです。

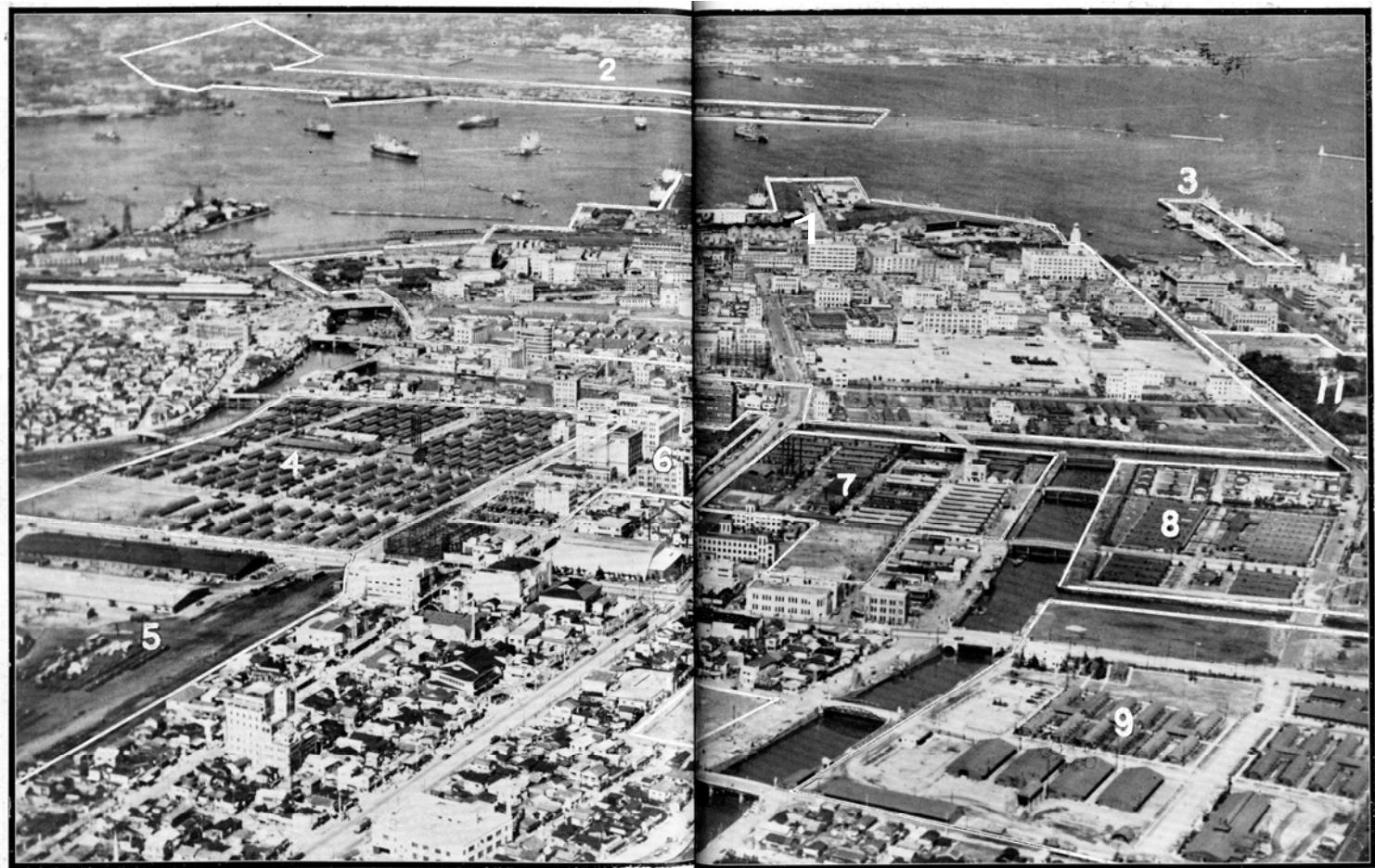


*バンドホテル(地図①D-2) (絵葉書『(大横浜名所) 山手ヨリ港内遠望』より)(1923-1940)(横浜市中央図書館所蔵)左手手前にバンドホテルが見える。1929(昭和4)年開業。かつてはすぐ目の前に海と横浜港の景観が見渡せた絶好の立地で、港町のホテルという雰囲気に定評があった。1999(平成7)年70年の歴史に幕を閉じた。

*マッカーサー
(1880~1963)
アメリカ陸軍の
将軍(元帥)で、
G H Q 最高司令官。

*大通り公園
(地図②C-3)

*南吉田小学校
(地図①B-2)



横浜市街地の接收（『横浜の接收と財政』（横浜市財政局 1953年刊）より）白線で囲まれた部分は接收された地域。①関内一円 ②瑞穂岸壁 ③大桟橋 ④福富町一円 ⑤若葉町 ⑥伊勢佐木町1・2丁目、羽衣町1・2丁目 ⑦蓬萊町、羽衣町1・2丁目 ⑧万代町、不老町、翁町、扇町 ⑨富士見町、山田町、千歳町 ⑩弥生町の一部と曙町の一部 ⑪横浜公園

横浜の接收

○司会：それで終戦を迎えて横浜は、御存知のように大部分接收される中で、庶民が力強く生きていくんですが、そこの辺りについて、露天商の話ですとか、野毛に来ると何でもあって、どうも終戦直後の野毛のたくましさみたいなものについてのエピソードを皆さんからたくさんいただいております。

先ほど読みましたエピソード40番(資料集73頁参照)のところに、下士官用の慰安施設があり、娼婦が集まって来たというお話を出てございます。ちょっとその辺りの、その辺りのって言いつつも山崎さんに振るのもおかしな話なんんですけど、女性の生き方をお話いただけますか。

○山崎：はい、終戦後、接收された横浜に身を売る女の人が多く立ってた様子なんかは、私は勿論見てないんですけど、ご覧になってた方はいらっしゃるんじゃないかなと思います。私はデビュー作が遊郭を舞台にしたものだからというわけではないんですけども、社会の中で、底辺に生き、それなりに国を一生懸命支えたのに、なかつたものの如く歴史からは消されていくような、そういう名もない女性に、同じ女として思いを寄せずにいられません。そういう女性を主人公にした小説を書いてきましたが、小説ではなくてノンフィクションで一冊、『天使はブルースを歌う』*というのを書いております。

これはたまたま昔、ゴールデンカップス*という横浜出身のね、有名なグループサウン



*『天使はブルースを歌う』
(山崎洋子/著、毎日新聞社、1999年刊、在庫品切れ)

*ゴールデンカップス
神奈川県横浜市でデイヴ平尾を中心に結成されたグループ・サウンズ。1967(昭和42)年「いとしのイザベル」でレコードデビュー1972(昭和47)年に解散。

ズがおりましたけれども、そのメンバーたちがほぼ私と同じ歳(おないどし)なんです。で、その人たちのその後を取材して、ノンフィクションにしようという企画をいただきました。その取材をしている過程で、ふとんでもない話が出てきました。終戦直後の頃、ゴールデンカップスのメンバーや私はその頃の生まれですけれど、その同じ頃に、夜な夜な(よなよな)、あの山手の外国人墓地に新聞紙や毛布にくるまれた、赤ん坊の遺体が置いていかれたというんですね。その赤ん坊はもう見れば一目瞭然でハーフなわけです。これは、占領軍の兵士たちと、それから日本人の、身を売って働くを得なかつた女の人たちの間にできた子なのではないかと、外国人墓地の当時の管理人さんは思われたようです。今だと赤ちゃんの死体が置いてあつたりしたらもう大騒ぎですけれども、戦後の混乱期ですから、管理人さんはひっそりと埋葬してあげた。

でも山手の外国人墓地っていうのは由緒ある外国人ばかりが埋葬されてますので、ほんとは素性の知れない赤ちゃんを埋めたりできない。だけどどんどんそうした遺体の数が増えてったそうです。他に場所がないかと探したら、山手の駅のすぐ近く、根岸にもうひとつ大きな、割と忘れられた外国人墓地があつたんです。そこなら空いてるからっていうんで、どんどんどんどん赤ちゃんを埋めていった。びっくりしましたよね、私と同じぐらいの年に生まれて、そんなふうに闇に葬られた子どもがいたのかしらと思って調べてみると、どうもこれが事実らしくて、山手外国人墓地には以前、小さな木の十字架がたくさん並んでたそうです。それが整備されて、消えたんです。私が取材を始めた頃も市役所の人に尋ねると、「あつたかも知れないけど、なかつたということになってます」みたいなね、あいまいなお返事でしたけれども、それはあつたと考えて不思議ではないと思います。

エリザベスサンダースホーム*とかね、ありましたよね。そういうところに収容されたり、それから誰かに引き取られたり、それからお父さんとお母さんが結婚して幸せに育つた子もおりますけれども、随分とたくさんの子どもたちが栄養失調、その他で犠牲になりました。生きのびた子どもたちも、ハーフであるがゆえに差別をされたようです。ところが私が二十歳(はたち)ぐらいになつたときには、世の中で一大ハーフブームというのが起きて、前田美波里*さん、資生堂のコマーシャルに出ましたけど、前田美波里さんを筆頭に、歌手だのモデルさんだのハーフの人がいっぱい現れたんですね。日本人の価値観が変わつたんですね。何かこう、欧米文化に対するあこがれです。ゴールデンカップスの人気も無関係ではありません。このあたりのことを詳しく書いていますので、機会があれば『天使はブルースを歌う』という本を読んでいただけたらなあと思います。

街に立つた女の人たちは亡くなつたり、それから別の職業になつたりして消えていきましたが、ただ一人消えないですっーと残つたのがメリーサン*ですね。どんどんどんどん白塗りになつて。そのメリーサンも今は横浜から消えてしまつたけれども、私はメリーサンを見るたびに、戦争があつたということ、一番辛いところに立たされたあげく歴史から消されていった女性たち、そして闇に葬られた子どもたちがいることを、忘れてはいけないんだよって言われているような気がしたものです。

○司会:ありがとうございました。ちょっと場所を移して、本牧辺りのお話を少しうかがいたいと思っています。先ほどあの、マッカーサーを出迎えに行ったという貴重なお話を聞いたんですけど、マッカーサーが来たあととの本牧の様子について少しエピソー

*エリザベスサンダースホーム
1947(昭和 22)年、神奈川県大磯町に創立され、小・中学校を備えた児童養護施設。外国の兵士と、日本女性との間に生まれた児童を引き取り養育した。また養父母を募集し、養子縁組も行った。

創立から 6 年となる 1953(昭和 28)年には、児童数が 350 名となつたとされる。三菱財閥を興した岩崎弥太郎の孫娘、沢田美喜が園長を務めた。

*前田美波里
(1948~)
ミュージカル女優。アメリカ兵の父と日本人の母の間に生まれる。1966(昭和 41)年資生堂のポスター モデルとして一躍脚光を浴びる。その後、ミュージカル『コラスライン』等に出演。

*メリーサン
白塗りの化粧と、白いドレス姿で横浜市内の街角に現れた実在の女性。ドキュメンタリー映画『ヨコハマメリーサン』(2006 年公開)はこの女性を追つたもの。

ド、いただいておりますので御紹介いたします。

○(エピソード朗読) :「マッカーサーが来ると、まずあつという間に飛行場*を作り、飛行場ができたと思ったらかまぼこ兵舎*が作られた。接收された土地との境には金網が張られ、金網越しに米兵の生活が見えていた。子どもたちが金網の周りに集まって「ギブミー チョコレート」と言っていた。」

「家の蔵がアメリカ兵に接收された。蔵の扉を壊して、中にしまってあったカメラや兜、槍などを略奪していくのを、金網越しに見ていた。交番に訴えてもどうにもならず、とてもショッキングな出来事だった。」

「終戦後、まだ米軍が進駐軍といわれていた頃のことです。父が東電に勤めていた関係で、米軍接收地の本牧に変電所を作るときの話です。米軍の命令で一定の期日までに変電所を作らなければならないので大変だったと思います。私の家は空襲に焼けなかつたので割合に広い離れが空いていました。そこに作業をする人が7、8人泊まりこんで仕事をしたのです。まだ食堂だのないときでしたから、食事を作る母は大変でした。私は昼間は学校に通つて(かよつて)おりましたので工事についてはよくわかりませんが、朝晩は大所帯でした。街の中に高圧線を引くのに人の住んでいないところを通さないといけないので、場所の選定が大変だということでした。期日が迫るとコンクリートの基礎がまだよく固まらないうちに変圧器を乗せたりした。難しい工事だったと聞いております。そのようにして変電所ができて、本牧には夜間照明のある米軍野球場などが始まったのでした。」

○司会:片方では食べるものがいいといながら、片方では、野球場を作るという、この大きな違いが同じ横浜の地で巻き起こっていたわけです。本牧といいますと、私が30数年前に横浜に来たときに、本牧のあの米軍接收地の横の通りを通つたときに、ああ一、横浜に来たなあ一っていう、非常に能天気で申しわけないんですが、そういうアメリカのにおいを感じたものでした。

今まで野毛、伊勢佐木町中心でございましたが、本牧の思い出について、特に接收について何か思い出を語つていただける方、いらっしゃいませんでしょうか。じゃあ大久保さん、お願いします。

○大久保:えー、私は昭和19年に本牧に疎開してまいりました。で、すぐ大空襲がありまして、焼野原になったわけなんですが、一番記憶に残っているのは終戦後、すぐに上陸用舟艇(じょうりくようしゅうてい)*というのが本牧の海岸から上がってきたことなんです。船自動車(ふねじどうしゃ)とも言ってましたけど、船に車が付いて、それがガラガラガラガラ陸へ上がってくるんですね。その辺あたりで向こうの国と日本の国力の差を子どもながらに実感いたしました。それからすぐに小港、本牧原、あの周辺が接收ということになつたらしいんです。で、その辺りに住んでいた人たち及び焼け出された人々はすぐ立ち退かないと、ブルドーザーで家を壊されてしまうという立場になりました。で、身を挺してここをどかないという人は、じゃあ、お前の体ごとブルドーザーで片付けちゃうよって、そういうような米軍の言葉もあったそうです。実際に私の英語の先生はブルドーザーに轢き殺された人のおばあちゃんの幽霊を見たって、そんなことを

*飛行場
(地図②B-3, 4)
1945(昭和 20)年に小型飛行機専用の飛行場が作られ、人々を驚かせた。広さは1万坪以上に及んだ。現在は市街地。



*駐留軍のかまぼこ兵舎

『横浜の接收と財政』(横浜市財政局 1953年刊)より

*上陸用舟艇
両用戦艦艇のかつての俗称。特に波打ち際に乗り上げて直接上陸させるための軍用艦艇。

子ども心に聞いたことがありました。

ですが、立派に出来上がってみると海岸の、本牧の海の方面はエリアⅠという名前が付きまして、米軍の位の下の兵隊さんの家族のハウスになって、私も遊びに行ったことがありました。山側の方はエリアⅡという名前で、少し位の高い米軍の方の家族のおうちになりました。

で、本牧の商店の人たちは花屋さん、八百屋さん、魚屋さん、みんなすぐに英語を覚えて、簡単なプロウクンイングリッシュで会話をし、非常に商売繁盛していた記憶がございます。嶋田さんも同じような記憶がおありだと思います。

○嶋田：今の山手のトンネルを越えると、そこはアメリカナイズされた街でした。まずは広告がですね、横文字に変わった。かつて山手のトンネルを越えると潮風の吹く本牧というイメージがあったようですが、戦後はそこにアメリカの風が吹いていたという感じですね。

で、そういう中であそこを通過すると周りにね、鉄条網というか、フェンスに囲まれて、外国の方の生活があったわけですが、私は昭和22年、小学校に入ります。で、その頃の思い出をひとつ。本牧の、フェンスの向こうでですね、22年に小学校に入った頃、学校は二部授業です。午前の部、午後の部がある。そして非常に寒い冬はスカートの下にもんぺをはいて行く。家の暖房はこたつ、あるいは何でしょう、火鉢。そういう時代にフェンスの向こうではエリア全体が暖房されてるんです。で、半袖の、それこそ薄いワンピースの上に毛皮をぱっとはおって、アメ車がカーッと出てくる。本当にその当時の日本の生活とアメリカの生活の違いを目の当たりにしたのを覚えています。

○司会：はい、ありがとうございました。今、3時55分でございまして、3時55分なんですがまだ昭和20年代でございまして、なかなかどうも今日中には終わりそうもないという雰囲気になってまいりまして、うーん、どうしましょう。（会場から声あり） はい、そうですね。あの、もし皆様がまた来ていただけるという、お約束をいただけるのであればまた、またの機会を設けさせていただきまして、この続きを是非、お話をうかがいたいと思いますが、よろしいですか。（会場から拍手多数）

○司会：ありがとうございます。私だけここにいるという状態じゃ困るので是非、皆さんまたどうぞお越しになってくださいね。よろしくお願ひいたします。何だかパネラーの皆様も中途半端な終わり方で、申し訳ございません。是非またこの機会、設けますので皆様も図書館からのお知らせを見落としのないようにご注意いただきまして是非またお集まりいただき、またこの続きを、お話をしたいなと思います。今日はどうもありがとうございました。何か中途半端な終わり方で申し訳ございません。ありがとうございました。（会場から拍手多数）

5 パネルディスカッション

あの頃の、 ヨコハマは・・・

戦後編

(10月1日開催分)



当日の様子

平成23年10月1日（土）午後2時～午後4時30分

会場：横浜市中央図書館ホール

パネラーより自己紹介

小林光政

(こばやし みつまさ)

出生	横浜市中区花咲町 昭和6年9月18日生まれ
現住所	横浜市西区東ヶ丘
略歴	本町小学校 神奈川県立工業高校建築科 中央大学第二商学部 小林紙工株式会社社長
その他公職	横浜の観光を考える会会長 NPO法人黄金町エリア マネジメントセンター理事長 その他12か所役職あり

藤澤智晴

(ふじさわ やすはる)

昭和22年生まれの団塊の世代。少年時代は野毛周辺も空き地だらけ。いわゆる原っぱでワルガキとして遊びました。メンコにビー玉、ホンチ…駄菓子屋に入り浸っていました。サラリーマン時代を野毛の外で12年ほど過ごしたあと、昭和56年に戻ってきました。それから、30年。柳通りで定食屋の三代目としてやってます。

人は私を「野毛のトラブルメーカー」と言います。

大久保文香

(おおくぼ ふみか)

出生	昭和15年生まれ 昭和19年、本牧に住む。 昭和42年、矢口台に引っ越す。
略歴	横浜紅蘭女学校 横浜緑ヶ丘高校 関内の町作りに7年携わり、 その後野毛大道芸に携わる。

森直実 (もり なおみ)

出生	昭和23(1948)年 横浜市西区中央1丁目 藤棚、南太田、瀬谷、港南台、大口に居住
略歴	横浜市立南太田小学校 横浜市立老松中学校 横浜高校 武藏野美術大学造形学部油絵科 イタリア国立フィレンツェ美術学校中退 横浜市立中学校で、美術科の教員を務め退職 1986年～2005年、野毛大道芸実行委員 2005年～、NPOヨコハマ大道芸・AD 絵画、写真など、個展多数開催 横浜市中央図書館にて写真展「横濱百景」開催[平成23年12月1日(木)～18日(日)]
著作	『大道芸人』(編著)ビレッジセンター出版 『森直実写真集「野毛大道芸」』かなしん出版

司会：菊池 真理・黒岩 道子（横浜市中央図書館サービス課）

*ホンチ

蜘蛛を喧嘩させる遊び。1960年代まで横浜でよく行われていた。当時の子どもたちは、春になるとホンチ(ネコトリクモの雄)を求めて野山を駆け回ったとされる。ホンチのルールは唯一つ、「ホンチは自分で捕ること」だった。

○司会：それではお時間ですので、横浜市立図書館創立 90 周年記念パネルディスカッション「あの頃の、ヨコハマは… 戦後編」を始めさせていただきます。本日は御参加いただき、ありがとうございます。私は横浜市中央図書館サービス課の菊池と申します。本日の御案内役をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。(会場から拍手)

今回のパネルディスカッションなんですが、6月に開催いたしましたパネルディスカッション「あの頃の、ヨコハマは…」の戦後編となっております。6月には図書館の 90 周年記念ということで、90 年前の関東大震災の思い出からお話ををしていきました。

その際、御参加いただいた皆様から大変多くのお話をいただけたため、終戦を迎えたあたりのお話で、時間となってしまいました。そこで今回は戦後編といたしまして、第二回目を開催することになりました。

本日のおおよその流れを御説明申し上げます。パネルディスカッションの開催にあたり、皆様からたくさんのエピソードと写真を御提供いただきました。まず、そのエピソードを時代ごとに紹介申し上げます。また、それにちなんだ話題をパネラーの皆様と会場の皆様からお話しいただくというように進めてまいりたいと思います。

パネルディスカッションといいますと、パネラーの方だけが話されるという印象が強いかと思いますが、今日はみんなで昔話をしましょうというような会ですので、皆様もどうぞ積極的に御参加いただければありがたいと思います。

なお、今回は見聞きしたことをお話しいただく会ですので、こういう本にこういうふうに書いてあったとか、そのようなお話は、今日はちょっと御遠慮いただければと思います。

それでは、あいさつが長くなりましたが、本日お招きしたパネラーの方を御紹介申し上げます。まず、舞台の内側から御紹介いたします。小林光政様です。(会場から拍手)

○小林：皆さん、こんにちは。どうも。私は中区花咲町 1 丁目で生まれました。生まれた日は満州事変*が始まった日でございます。丁度私は満 80 を今月クリアできたと、こういうことでございます。小学校は本町小学校でございますので、友達がこの辺にはかなりおられます。現在は私、小林紙工株式会社の社長を務めさせていただきまして、ほかには公職が若干ございます。何しろ横浜のことしか知らないんですけれども、横浜のことでしたら生まれた時からのことについては若干、耳学問ですけれども、精通しているつもりでおりますので、また皆さんと仲良く話し合いをしてみたいなど、こう思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。 (会場から拍手)

○司会：ありがとうございました。では、次に大久保文香様です。 (会場から拍手)

○大久保：大久保文香でございます。私は昭和 15 年に東京都豊島区雑司ヶ谷で生まれました。そして 4 歳の時、昭和 19 年に父が、疎開先ということで中区本牧元町に引越してまいりました。その後ずうっと本牧で育ちまして、結婚してから地続きの矢口台というところに今も住んでおります。その周辺のこと、及び野毛、関内についてはいろいろと関わり合いがございますので、皆様方と一緒にお話させていただければ光栄と思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。 (会場から拍手)

○司会：では、続きまして藤澤智晴(やすはる)さんです。

○藤澤：藤澤といいます。えーと、私は団塊の世代の生まれなもんですから最近、とみに忘れっぽくなりまして、今日はあの、たった今、直前までですね、野毛の、「ちぐさ」*をどうやって復活させようかと、そういう話し合いの場がありましてね、つい熱中して

*満州事変
1931(昭和 6) 年 9 月 18 日に中華民国奉天(現瀋陽)郊外の柳条湖で、関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した事件。

*ちぐさ
1933(昭和 8) 年に吉田衛(まもる)が開店したジャズ喫茶。かつて野毛町 1 丁目に立地し、ジャズ喫茶の草分けとなった。1994(平成 6) 年に吉田が死去した後も、親族や常連客が営業を続けたが 2007(平成 19) 年に、74 年の幕を閉じた。

て、このことを忘れちゃったんですね。で、さっき電話があつて、慌てて駆けつけました。そんな調子で来たんで、いろいろまたポカやるかも知れませんけれども、どうぞよろしくお願ひします。（会場から拍手）

○司会：では、森直実さんです。

○森：こんにちは。森直実です。えーと、私は西区の中央1丁目が本籍として、藤棚で育ちました。暗闇（くらやみ）坂*を三輪車で降りて遊んでいた記憶があります。それから学校はこのすぐ丘の上の老松中学校*でして、当時この図書館も古い建物で、ヒマラヤ杉に似た木が、今と同じにあります。その中学生室で本を随分読みました。私の家（うち）には本が1冊しかなくて、源氏鶴太*か何かのサラリーマンものの1冊しかなくて、図書館を利用させていただいたのが思い出です。それから50年、半世紀が経ちまして、今、その図書館でこういう場所にいるっていう、不思議さを今日は感じております。どうぞよろしくお願ひいたします。（会場から拍手）

○司会：ありがとうございました。それではいよいよエピソードの御紹介に入ってまいりたいと思います。皆様には御入場の際にお手元に分厚い資料*をお渡ししております。こちらには事前に皆様からお送りいただいたエピソードを、時代ごとに並べてあるエピソード一覧。あと、テーマごとに分けさせていただいていますエピソード。あと、こちらからうかがわせていただいて聞き取ってまいりました様々な方のエピソードが、お1人分ずつまとめてあります。また、その後に皆様から御提供いただいた写真を、一覧とテーマ別に分けたもの。それから写真の画像等、載せてあります。

配布資料の自己紹介の紙の次を見ていただきますと、前回のパネルディスカッションのときに最後に終わってしまった戦時中の話と戦後の思い出話について、まとめたものを載せております。こちらをまず少し御紹介して、接収のお話から今日は始めさせていただければと思います。

進駐軍による接収

○司会：では、戦時中のお話をまず御紹介いたします。事前に寄せられたエピソードといたしまして、横浜より小田原に疎開された方のお話で、「長者町に立って港まで見通すことができた」というエピソード。また、「伊勢佐木町の辺りで娼婦の方が集まっている。また、アメリカ軍の兵士がわらじのような大きさの肉を食べていた。」というエピソードをいただきました。

そのエピソードを御紹介したところ、参加者の方から「天王町の辺りの空襲」のお話。また、「元町の現在のプラザ前に飛行機からアメリカ軍の兵士、兵隊が降りてきしたこと。」「マッカーサーが厚木の飛行場*から来たときに自分が迎えに行った」というお話。また、「戦前からこの近くにお住まいで、そこからずっと今も住み続けられている」というお話を参加者の方から前回はいただきました。

また次に、接収のときのお話として、「マッカーサーが来てから伊勢佐木に飛行場が出来、かまぼこ兵舎*が作られた」というお話。「自分の家の蔵がアメリカ兵に接収されて、物を持って行かれた」というお話。それから、「本牧に夜間照明のある米軍野球場が出来た」というお話を事前にいただいておりました。そのエピソードを御紹介したところ、パネラーの方から、「接収された横浜に身を売る女人がたくさん立つ

*暗闇坂

横浜市西区伊勢町3丁目と西戸部3丁目の境にある坂。坂名の由来は、坂の両側の木の枝が覆い被さってトンネル状をなし、昼も暗かったためとされる

*老松中学校

（地図②A-2）

*源氏鶴太

（1912～1985）

富山市出身の作家。1951（昭和26）年に『英語屋さん』で25回直木賞を受賞。『三等重役』が大ヒットし、題名は流行語ともなり、サラリーマン小説の草分けとなった。

*分厚い資料

当日配布資料を指す。「6資料集」（69～122頁）に収録。

*飛行場

*かまぼこ兵舎
(33頁参照)



ていた」というお話や、「本牧の商店の人たちが皆さん、すぐに英語を覚えて、簡単なプロウクンイングリッシュで会話をしていた」というお話や、「山手のトンネルを越えるとアメリカナイズされた街があり、日本とアメリカの生活の違いを目の当たりにした」というお話をいただきました。

では、今回はその接収のときのお話から、まず大久保さんにお話を聞いていただきたいと思っております。大久保さん、お願ひします。

○大久保：はい、私の家(うち)は三溪園*寄りのところに建っておりました。その頃の本牧は、戦前は非常に静かな漁港でしたが、終戦直後に上陸用舟艇(じょうりくようしゅうてい)*という、船自動車と言っておりましたが、本牧の海から続々と米軍が上がってきました。そして瞬く間に一番本牧の中でも平らな、一番いいところを接収して、自分たちの住所として。つまり、何でしょうね、作業を始めたということです。

本牧はそれから36年間、接収という憂目にあった。これは非常に本牧の発展についてはマイナスになっておりましたが、今から考えますとですね、その接収されたということから外国の、特にアメリカの文化。主に音楽ですが、それを新しい、良しとする日本の方、文化人、ミュージシャンの方が本牧を聖地のようにして、グループサウンズの人たちが来たり、それからいろいろな司会者がいたり、特異な本牧の文化っていうのを作ったような気がいたします。

そして昭和57年に、接収地が解除されたんですね。その直後、本牧は本当に空っぽになりましたが、また民間の施設によりマイカル本牧等ができたんですけども、残念ながら本牧は、昭和42年から、あの綺麗な海が埋め立てられてしまったんです。それは行政の御指導によるもので工場等が誘致されたという大きな大義名分があり、漁師の人は補償金をもらったそうですけれど、私達住民にとっては泳げない、あさり獲りができない。魚も獲れないという、一番本牧に住んでいて魅力だったところがなくなってしまったので、子ども心にも本当に情けない思いがいたしました。そんなことが本牧の接収についてあります。

細かいことですが私の父は食べるに困りましてですね、進駐軍の人たちに浮世絵とか、珍しい骨董品とか根付とか、そういうものをあげて、それで米軍のレーション*といいますか、あの軍事用の食糧、あんなのをもらって私達一家の飢えをしのいだ覚えが、子ども心にもはつきりしております。そのときに初めて食べたコンビーフとかチョコレート、あの味わいは今になっても忘れることができません。で、こんな文化をもった国と戦争をしたんだから、日本は負けたのが当たり前だなど、子ども心にも感じました。

*三溪園

明治の富豪として知られる生糸貿易商、原富太郎が、各地の名建築を収集してつくった純日本式の庭園。1906(明治39)年に一般公開された。三溪園のシンボルとなっている燈明寺三重塔は京都府加茂にあった。

*上陸用舟艇 (33頁参照)

*レーション

各兵員に配給される軍隊の携帯用食料のこと。

○司会：ありがとうございます。本牧にお住まいの頃の思い出ということでお話をいただきました。前に映っております写真、（「本牧米軍住宅」写真映写）こちらが米軍の住宅地周辺の前景でございます。また、ほかにも、住宅の様子やお店の様子、写真でご覧いただけます。

○大久保：あの、びっくりしたのは、アメリカの方っていうのは間(あい)の洋服っていうのを持ってないんですね。中間の洋服ね。夏服の上に毛皮のコートを着て、それで歩いているのを見て、びっくりした覚えもございました。日本の文化とはかなり違うという感じがしますねえ。

○司会：会場の方の中で、どなたか本牧の辺りの思い出をお持ちだという方、いらっしゃいますか。

○男性：あのお、私は田舎へ疎開したもんですから、焼けた頃の横浜を知らないんですが、22年頃に横浜へ帰ってきました本牧辺りを、あれしますと、将校の住宅だったと思うんですが、ものすごく広い芝生のところにぽつんと家が幾つかあります。それでその将校の家族が団欒をしてんだと思うんですけども、そういうのを柵の外から我々は見てですね、非常に屈辱的な感じもしましたし、また、羨ましくも思ったのを非常に記憶しております。本牧だけでなく、何か山下公園でもそういう将校宿舎があつたらしいんですが、それは私は実際に見てませんのでわかりませんけれど、そういう印象が残っています。

○司会：ありがとうございます。フェンスが張られて、仕切ってあってというお話をしましたね。ほかにも本牧に限らずに接收のときの何か思い出があるというお話を、ございますか。パネラーの方たちはいかがでしょうか。では、森さん、お願ひします。

○森：戦後生まれの若いほうなんですが、遊びに行きますと先ほどの金網、フェンスですね。今よりもちょっとゲージが太い針金のフェンスの、白ペンキの向こう側がアメリカで、今、おっしゃられたように芝生の広いところにぽつんと多分、白っぽいような建物が建っていて、バーベキューやってましたね。それで、今考えると、あの、バーベキューなんて大したことじゃないんですが、庶民の我々にとってはすごいことをやっているなというふうに思いました。あの、串に刺してですね。まあ、ピーマンとかね、肉のブロックですね。今考えれば単なる焼鳥みたいなもんなんですけど、あの、非常に驚いた記憶がありました。

○司会：ありがとうございます。最初の写真（「根岸米軍住宅周辺」（39頁参照）映写）でも、やっぱり敷地が日本の家屋と比べて随分大きくとってあるなというのが見えるかと思うんですが、一番最初の写真をもう一度出していただいていいですか。大きな道をはさんで左側のところが道が広くとつてあるお家ですね。このように写真からも少しあかるかなと思います。

野毛山動物園、日本貿易博覧会

では、接收のときのお話はこれでおしまいにして、次に少し時代が進みます。昭和26年、野毛山に動物園*が開園いたしました。今も近くにあります動物園なんですけれども、行かれた方も多いかと思います。動物園についての思い出話、何かある方、いらっしゃいますか。



(写真上・下)本牧米軍住宅
(1965 (昭和40) 年) (横浜市史資料室 提供)

じゃあ、最初にまずエピソードを御案内します。（市民の皆さまからの提供写真 55、56、63、64 映写）

「昭和 25 年頃、野毛山動物園にいた＜はま子＊＞が野毛を歩いたんだ。今にして思えば港に着いたはま子を運ぶ手段がなくて、港から野毛山までずっと歩いてきたんじゃないかな。丁度見ていた自分をはま子に乗せてくれたんだ。半ズボンをはいてたんだけど、象の皮膚って硬くてザラザラしていて、硬い毛が生えているんだよ。それがチクチクして痛かったなあ。」藤澤さんからいただいたエピソードでした。

○藤澤：そうですね。あのお、私が当時 4 歳ですね。当時の記憶というのは、まあ、皆さんもそうでしょうけれど、ほとんどないですよね。ですけども丁度、あの今の野毛の商店街。都橋を渡って野毛山に至るあの道ですけどね。あの途中で見てたんですね。誰かが象さんの上にポンと乗っけてくれたんです。びっくりしましてね。象さんっていうのは遠くから見るとすべすべのよう見えますけども、実はすごい毛むくじやらだったんです。半ズボンでね、乗っけられたもんですから、すごい毛がチクチクして痛かったことを覚えています。野毛山へ来た、この間、はま子が、いつでしたかね、亡くなったんですね。記事が載ってましたけれども、あー、あのはま子が死んだのかって、すごくあの、感慨深く思ったことを覚えてます。

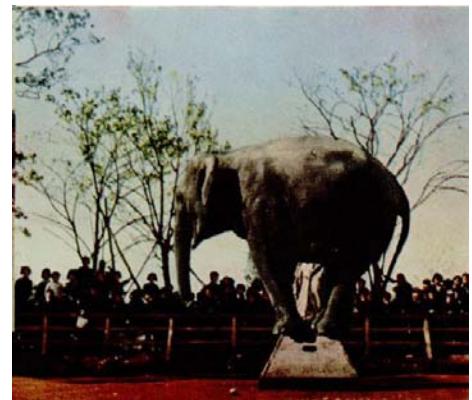
○司会：ありがとうございます。では、ほかにもエピソードを聞いておりますので、そちらを御紹介します。「昭和 30 年代、町田から遠足で野毛山動物園やマリンタワー＊に来た。あの頃は動物園といえば上野か野毛山動物園だった。」「野毛山動物園に陸橋ができたとき、息子がテープカットをした。息子が幼稚園の頃で、野毛山幼稚園の子ども達でテープカットを見に行った。10 年前の冬には孫が野毛山動物園のリニューアルのテープカットを行ったから、親子二代で野毛山動物園のテープカットを行ったわね。」このようなエピソードが事前に寄せられております。

野毛山動物園のエピソード、どなたかお話しになりたいなという方、いらっしゃいますか。では、どうぞ。

○男性：野毛山動物園の開園が、書かれてますように昭和 26 年ですけども、その前に、年配の方は御存知だと思うんですけど、確か復興博覧会っていうのがあったんですね。それは日本もだんだんと、戦後にいろいろなものができるようになったということで、第一会場と第二会場に分かれて、どっちが先だったかは忘れましたけれど、まだ野毛山公園が整備されてなかったんですね。今の、こちらに貯水池があったところ、ありますよね。あの辺りが中心になって会場が。あと、反町の今のスケートリンクがある辺りだったと思うんですけど、あそこが第二会場だったと思うんですね。

で、のちにそこに市役所が一時移るわけですけど、私は多分、あれは昭和 24 年だったんじゃないかなと思うんですけど、小学生でしたけれども、何が一番印象に残ったかというと、ひとつはテレビですね。そこで放映したんですね。テレビは戦前からアメリカなんかではあったんですけど、日本でもあったらしいんですけど、テレビで関東学院＊の方をずっと、こう、見せてですね。で、何かね、小学生なんかは舞台で歌を歌うのを見せてくれたりして、みんな驚いてですね、テレビがこんなに盛んな時

*野毛山動物園
1951(昭和 26)年開園。横浜市西区にある動物園。震災前は横浜の富豪・茂木惣兵衛の別邸で、その起伏に富んだ地形を利用して動物を収容している。2011(平成 23)年に 60 周年を迎えた。



*ゾウのはま子（絵葉書『ヨコハマ野毛山遊園地 動物園もある子供の楽天地』より）(1941-1964)（横浜市中央図書館所蔵）雌のアジアゾウ。1951(昭和 26)年から野毛山動物園に在園し、2003(平成 15)年 10 月 7 日に老衰のため、推定 59 歳で死亡した。

*マリンタワー
横浜開港 100 周年記念事業の一環として、市民からの発意により建設が計画され、1961(昭和 36)年に完成。2009(平成 21)年にリニューアルした。

*関東学院
1884(明治 17)年創立。1946(昭和 21)年金沢八景に旧制専門学校及び中学を移転した。1949(昭和 24)年に関東学院が設置された。

代じゃなかつたですから、これ一体何なんだろうっていうことをですね、感じたことがあります。

で、そのあとからだんだんと、いわゆる復興ということで貿易も盛んになっていったんだと思いますけども、あとはあの横浜の、丁度今あるそこの貯水池のすぐそばに天文台が作られたんですね。で、その天文台っていうのは結構大きなもので、あの、私達にも見せてくれたんですけども、やっぱりその時、驚いたのは、子どもだからわかんなかったんですけど、天文台の望遠鏡は逆さまに見えるわけですよね。それで丁度あそこからですと今の浦舟町の交差点辺りに焦点が当たってまして、7番の当時の市電がこんな大きくなっていますね、見えたことを覚えています。

で、それからもずっと天文台、だいぶ残ってまして、行事があって、いろいろなことが催されたと思いますけど、そのあとに多分、公園がきちんと整備されたりして、日本も変わっていっちゃったので、あの復興博覧会って意外と忘れられちゃってんだと思うんですけども、結構賑やかでいろいろなことがやられたのを覚えてます。今回、どなたも書いてなかったんですね、ちょっと付け足させていただいた。

○司会：ありがとうございました。テレビを見られたお話だとか、動物園に限らず出てきましたけれども。じゃあ小林さん、お願いします。

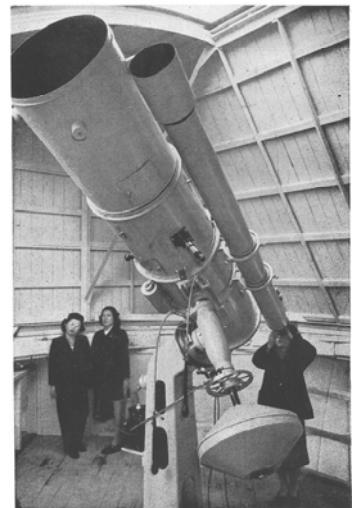
○小林：そうですね、復興博覧会っていいですか、貿易博覧会*っていうかたちで昭和24年に行われました。で、第一会場、メイン会場は野毛山でございまして、第二会場が反町ということです。

まあ、先ほどテレビの話を出ましたけれども、私も並んで見まして、やっとカタカナの「イ」という字*がですね、かすかに出てきたというのを私は見ました。あの、そんな経験をもっています。

今の迎賓館っていうのが建物に変わってますけど、その前の迎賓館、結婚式場だったわけなんですけども、それは当時、迎賓館として大勢の方の、貴賓室として使われたものを、民間の方がお買いになって、横浜迎賓館としてお使いになったと、こういうことですね、はい。そんなことしか覚えておりません。

○司会：今、天文台のお話をうかがったんですけども、こちらの方でも初めて聞くっていう声が挙がったんですけど、私もある博覧会の話はよく耳にして、見たわけじゃありません。耳にしていたんですけど、その、天文台のお話、ほかに御存知の方、どなたかいらっしゃいませんか。前から三列目の御主人、いかがですか、御存知ですかね。天文台っていうのはあまり聞いたことがないんですけど、どなたか御存知の方、いらっしゃいませんか。パネラーの方でも天文台って、あまり御存ないですか。野毛山の展望台*でしたら私も存じているのですが。

○小林：展望台でしたら第二世が出来上りました。三階建ての展望台があるんで



日本貿易博覧会の天文館
(野毛山会場) (『日本貿易博覧会』(日本写真文化協会、1949年刊)より) 当時、日本最大となる口径 50 cm の反射望遠鏡がすえつけられた。



第一科学館(野毛山会場)におけるテレヴィジョン実演の様子 (『貿易と産業』(日本電報通信社、1950年刊)より)

*日本貿易博覧会
1949 (昭和 24)
年 3 月 15 日～6
月 15 日開催。博
覧会の呼物とし
て野毛山会場の
第一科学館にお
いてテレヴィジョン
が展示、実演さ
れた。新聞紙大
の画面に、直接投
影させるテレビで
あった。

*「イ」という字
1926 (昭和元) 年
12 月 25 日に高柳
健二郎がブラウ
ン管上に「イ」の
字を写し出すテ
レビ伝送実験に
成功し、1927 (昭
和 2) 年には特許
を申請した。高柳
は日本のテレビ
の父と呼ばれて
いる。

*展望台
1966 (昭和 41)
年に設置された
が建替えられ、
2011 (平成 23) 年
8 月 1 日に二代目
展望台としてオ
ープンした。

すね。あれは確か40年代になってから出来たと私は思ってまして、46年に私が撮った写真があります。大変見晴らしのいいところですね。今、二代目が出来上がりまして、今度はエレベーターも付いておりますので是非皆さん、展望していただければありがたいなと、こう思っております。

○司会：ありがとうございます。ほかにも、自分もこういうのを見たよというお話、もしあればお聞かせいただきたいなと思うんですけれども。じゃあ、どうぞ。

○男性：すいません、ちょっと時代は下っちゃうんですけど、昭和30年代に元町小学校で、だいたい2年生のとき、遠足は野毛山動物園と掃部山(かもんやま)*が定番なんです

よ。今も多分そうかな。で、1年のときは三溪園。わけわかんないのに行かされて、僕たちはとにかく三溪園でも池の魚を獲ろうかという感じで(笑)、建物なんかは全然注意してなかつたんですけど、それで今、ちょっと野毛山で思い出したのが、やっぱり動物園に入ったときに、その、マントヒヒ*がですね、こう、木のところの大分高いところからおしっこをしたんですよ、見学のときに。すごい何かそれが印象的で、学校に帰ってから絵を描かされるんですけど、私はそのマントヒヒがおしっこをしたところを描いて、で、ほかの絵の上手い子は、やっぱりはま子ですよね、象を描いたりで、僕は何故かそこだけがすごい印象に残ったんで、そんなのを描きました。それとあと、ゴーカート。知り合いに連れられて、遊園地の方ですけど、色とかそういうのは全然覚えてないんですけど、とにかくカートってのかな。その、こうハンドル持ってて、とにかく下手くそでだめなんですよね。すぐぶつかっちゃって、ゴンゴンゴンゴン。で、ちなみに後ろからハンドルを持ってもらって、やった覚えがあって、そのときにも将来、車の免許なんか取れないなと。その時、小学校1年だったと思いますけど、いま、大型とかいろいろ持っていますけどまあ、乗れるんだなということがわかりました。(会場から笑い)

○男性：私も横浜市の生まれで、ずっと育ったんですけど、まあ、小学校の低学年のときにはやっぱり野毛山の、あの遊園地で飛行塔とか、そういういたものがあるときに来た覚えがありますし、あと、野毛山地区のどのエリアか忘れましたけれど、老松中学校のそばかなあと思うんですけど、その頃やっぱり野球が流行っていました。その頃、紅梅キャラメル*って御存知ですか。今はないですけどね。紅梅キャラメルを買うとカードが付いてまして、それにジャイアンツの選手のカードがついていて、それをいっぱい貯めるという、そういう子どもの遊びがあったということですね。

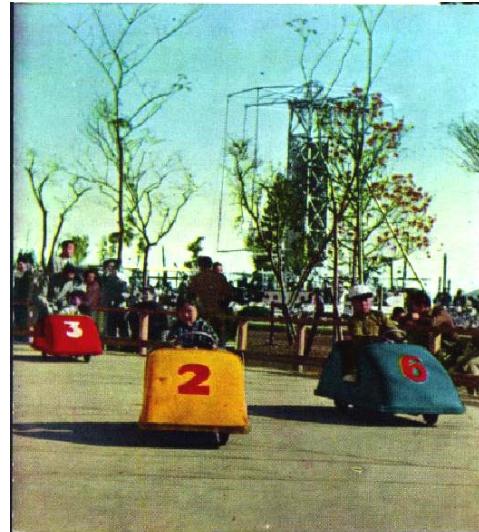
それから、あとは、私の個人的なあれですけど、図書館の、今、敷地の中に入ってしまったんですけど、老松会館*。ここは私が式を挙げた場所です。そんな思い出が野毛にあります、今は、この近くに住んでます。

○司会：とても大切な場所なんですね、野毛が。ありがとうございました。あの、そのカードのときに随分皆さん、御反応がありましたけれども。

○小林：貿易博覧会のあと、そうですね、遊園地になったんですね、一時ね。ですから

*掃部山公園
横浜市西区にある公園。横浜みなとみらいを見下ろす高台にあり、園内には横浜開港に関わった井伊直弼の銅像が立つ。

*マントヒヒ
野毛山動物園にマントヒヒ舎ができたのは1957(昭和32)年10月のこと。現在はアカエリマキキツネザル舎となっている。



野毛山遊園地のゴーカート

(絵葉書『ヨコハマ野毛山遊園地 動物園もある子供の楽天地』より)
(1941-1964) (横浜市中央図書館所蔵)



*紅梅キャラメル
(『さようなら紅梅キャラメル』(沢里昌与司/著、東洋出版、1996年刊)より)巨人軍のプロマイド入りで、一箱10円で販売されたキャラメル。昭和20年代後半に販売され、わずか6年で消えたとされる。チーム分集めると野球道具一式がもらえました。

*老松会館
(13頁「震災記念館」参照)

*水原監督

(1909~1982)

水原茂。現役時代は巨人で活躍し、引退後に巨人監督に就任。11年間に8年ものリーグ優勝を達成した。その後は、東映フライヤーズ、中日ドラゴンズの監督を歴任した。

そういう思い出をかなり皆さん、お持ちだろうと、こう思います。

○藤澤：あの紅梅キャラメル、なかなか水原監督*が出なくて、全部揃わないんですね。あれを売っていた駄菓子屋さん、<なまこや>*っていいますけど、今でも残っていますね。あの大岡川のすぐそばで、<かもめ座>*という映画館があったんですけど、その真ん前。今もあるんですよ、ええ。是非、駄菓子屋さんに寄ってあげてください。（会場から反応）

○男性：あの、紅梅キャラメルの話って懐かしいとおもうんですけど、さっきの方がおっしゃったのはですね、こういうことがあったんですよ。その今、平沼さんの家

がありますよね。あの辺に何か来たんですね。で、それで何をやったかっていうと、
紅梅キャラメルが主催して今の関内ホール*になっているところが、昔あれ、東宝*だ
ったと思うんですね、映画館だったんですけど。そこでですね、選手が。川上選手だ
とか千葉選手とか青田選手とか、みんな古い人ですけど、来てですね、あそこで何か
イベントがあったんですね。私は近いもんですからそこまで見に行って、野球の選手
ってこんなに体が大きいのかってのを覚えてるんです。で、それからずっとぞろぞろ
ついて行って、その、今の関内ホールに横浜東宝か何かあったんですけど、そこでイ
ベントがあって、サインボールを投げたんですね、選手が。私は拾わなかつたんだけ
ど一緒に行った友達が拾ってですね。ちゃんとサインが入っているボールでした。
当時、珍しいものだったので喜んだ記憶がありますし、とにかくあの頃、小学生は紅
梅キャラメルばかり買って、さっきの方がおっしゃったように、なかなか出ない
んですね。実はホームランっていうのが一枚、一番何点かななりまして、何点か貯める
と今、おっしゃったように大岡川の近所に交換してくれるところがあって、私なんか
も歩いてよく行きました。ちょっと余計なことですけど。

○男性：えー、ちょっとあの、子どもの遊びが出来ましたんでね、古くなった話をさせ
てもらって恐縮ですが、私は宮川町に住んでおりまして、丁度戦前のときに小学校へ
入ったんですが、そのときは尋常小学校っていうんじゃなくて、国民学校って言った
んですよ。その老松小学校に入りましたね。学童疎開して。で、戦争が終わる前に戻
ってきて、こちらで、焼け野原の中で子ども生活を送ったんですが、そういう中でや
はり、まずマッカーサーが来たときにですね、女、子どもは大変だっていうんで、す
ぐみんな街の人は逃げましたですね。半月ぐらいして、安心だって戻って来て、それ
からまあ、先ほどの「ギブ ミィ チョコレート」だとかね、そういうことだったん
ですが、子どもの遊びとしましてはですね、丁度イタリアで『自転車泥棒』*っていう
映画があったわけなんですけども、自転車の輪っぽを外しましてね、あれをこう、回
す遊びが流行ったと。

それから、えーと、吉田町の関内ですね、まだかまぼこ兵舎がなかったんで、あの
辺はもうまるっきり焼け野原の中で、磁石を使って、その、何ていうんですか、あれ、
砂鉄といいますかね、そういうものを紙の上に置いて、磁石を下から動かしておどる
様子を見るというような遊びとか。それからメンコ遊びで高校、当時は旧制中学とか
学芸、えー、民間の実業団かな。それから映画のスターですよね。これがメンコ遊び
ですね。先ほど出た紅梅キャラメルもそうですが、メンコ遊びとベーゴマ遊び。こう
いうものとビー玉。これが男の子の遊びの三種の神器です。まあ、こんなようなこと
で遊んだと。そんな思い出でございます。以上です。

*なまこや

*かもめ座

(地図②B-2)

*関内ホール

(地図②C-2)

前身は横浜宝塚劇場。接收をまぬがれ1945(昭和20)年活動を再開、1953(昭和28)年に洋画専門館へ移行した。テレビの普及で観客が減り、1969(昭和44)年に閉館し、1970(昭和45)年横浜市民ホールとして再出発した。

*東宝

(地図②C-2)

横浜東宝会館。現在の関内ホールの斜め向かいにあった。1956(昭和31)年に馬車道に開館した。ひとつのビルに4スクリーン(のちに5スクリーン)をもち、「映画のデパート」と呼ばれた。

*『自転車泥棒』

1948(昭和23)年に公開されたイタリア映画。戦後混乱の都会で、唯一の商売道具の自転車を盗まれた父子が、丸一日その行方を捜し歩く。当時のイタリア庶民の姿を描き出し、アカデミー外国賞を受賞。

露天商の登場

○司会：ありがとうございました。子ども時代にこういうふうに遊んでいたというお話を聞くことができました。では、野毛山動物園が昭和 26 年に開園しまして、その頃、野毛の街にも登場していたものがあります。露天商が野毛の街に登場しておりました。写真にも写っておりますが道の脇に露天商が並んでおりました。まず、事前に寄せられたエピソード、紹介させていただきます。

「野毛には大きい店はなく、小さい商店が多くあり、自分で買物用の籠を持って商品を買って回っていた。おせんべいや飴も 1 個ずつバラ売りしていた。木造りのアーケードや露天商もあり、賑やかだった。露天商はバスが通るときに邪魔になるので、なくなってしまった。都橋の横の 2 階建ての建物*に移り、今も残っている。夜遅く露天商に遊びに行ったりしていて、楽しかった。食べものも着るものも、やかん、鍋、日用雑貨も野毛にいれば何でもそろった。」というエピソードをいただいております。

ほかにも、「昔は露天商が野毛の大通りから都橋までずうっと並んでいたが、それがなくなったのがこの辺りの一番大きな変わったこと。露天商には食べもの以外のほとんどのものが売ってあった。今のくにぎわい座>が中区の税務署だったけれど、露天商には判子も売ってあった。露天商には何でも売ってあって、どの世代の人も買いに行ってた。露天商がなくなったのはオリンピックの影響。」ほかにも、「昭和 39 年のオリンピックを機に、露天商を都橋沿いの建物に押し込めた。」というエピソードをいただいております。

それでは、会場の方からもお話をいただきたいと思いますが、露天商が並んでいた野毛の様子、御記憶にある方、いらっしゃいますか。これは都橋の方から見た野毛本通りの様子です。昭和 37 年に撮影された写真です。では、小林さんにちょっとお話をいただきたいと思います。

○小林：私は丁度、終戦の年が 14 歳でございました。家族が多くてですね、兄弟が 6 人おりまして、次男だったもんですから、私まではどうしても生計を立てるために働かなければならぬと、こういうことでございまして、働きながら学校へ行ってたと、こういうことでございまして、その働きながらは一体何を働いたのかといいますと、露店を、お店の番をしてたと、こういうことでございます。

まず最初からお話をいたしますと、私の父が美濃から美濃焼を、しょって買ってきました。それを米軍相手にですね、お土産として売ろうじゃないかと。で、一体どこで売ったらしいのかということで一番その、米軍が一番通るところが当時、馬車道*だったんですね。で、その今は神奈川県立博物館になってますけれども、その当時は正金(しょうきん)銀行*だったんですね。で、その通りの歩道の上でですね、風呂敷を敷きまして、そこに水差しとか花瓶とかですね、あと湯呑、ポットとかですね、そういうものを並べて。これは戦前、アメリカへ輸出していたものがですね、途絶えて、ですからアメリカ



都橋から見た野毛本通り
(昭和三十七年)
(広瀬始親氏撮影寄贈・横浜開港資料館所蔵)

*都橋の 2 階建ての建物

都橋ビル(地図② B-2)を指す。1964(昭和 39)年に建設された。露店 62 店がこのビルに入居した。これにより野毛に残っていた露店がすべて街から消えた。

*馬車道

1867(慶應 3)年頃、開港場としての横浜が町を整えていく中で、商店が競うように、柳や松を植え、これが近代的街路樹のはしりとなつた。さらに、1872(明治 5)年、日本で最初のガス灯が設置された。

*横浜正金銀行

貿易通貨(正金)の供給・流通を促進する機関として 1880(明治 13)年に本町 4 丁目開業、1904(明治 37)年に南仲通に移転し、八角形のドームをもつ、ネオ・バロック様式の壮麗な本店が落成した。現在は神奈川県立歴史博物館(地図② C-2)。国の重要文化財・史跡に指定されている。

人には大変好まれる、全体は赤であり、模様が全部、金でできてるんですね。ですから、米軍の人たちは競って私のものを買ってくれたんですね。持つて来るのが間に合わないくらいの繁盛をしたんですが。で、たまたま父と私でやってたんですけども、父は戦前、ちょっと英語を勉強してましたので、英語ができた。それを私が聞いて片手間の英語で売つてたんですけども、ある日、父が事情がありまして、私だけで商売をしました。そこへおそらく市の人だと思うんですけど、坊や、こんなところで商売をしてはいけないよということで、今、野毛でこういう露店をですね、集めているから、すぐに野毛に行きなさいということで、私は店をしまつてですね、正金銀行の小遣いさんにお願いをして、父が来たらば野毛に行ったと伝えてくれという具合に言づけをしてですね、野毛に行きました。

もう夕方近く、4時頃でございまして、うろうろして場所を探そうと思っていたんですけども、もうほとんど大人の人たちが占拠してまして、場所がなかったわけですね。ところが泣き出しそうな顔して途方に暮れてたら、ある人が声をかけてくれました。坊や、何しに来たんだと。場所を取りに来たんだと、こう言いましたところ、それじゃ俺の隣へ焼けトタンを敷いて、10枚ぐらい敷いてその上に座つてなさいと。こういうことでした。何故、その人が声をかけてくれたのかといいますと、やたらに広くは取れなかつたんですね。募集はあくまでも一間(いっけん)。ですから1メートル80センチですね。その間口しか取れないということがわかつて、余分に取つたので私にその分を分けてくれたと、こういうことで、大変な恩人なんですね。それからその日のうちにですね、屋台を作りまして、私はその上に寝てしまつたんですね。で、夜の11時頃になりましたら父が見つけてくれまして、無事にそこに掘つ建て小屋を作つて、商売をそのあくる日から始めたわけですけれど、一体何を売るのかって。まあ当初、その花瓶とかですね、水差し、そういうものしかなかつたんですけども、紙関係の仕事をしていましたので、紙のルートはあつたもんですから、そこからいろいろなチリ紙とかですね、障子紙とか、そういうものを美濃から仕入れまして、売り始めたんです。間口一間で、です。それを始めたのは昭和20(1945)年、終戦の年の11月でございます。ですからもう寒かったです。で、お店はどちらかといいますとこの大通りの方に向かつて商売をしているということからスタートしました。

それからもうひとつ、その、所場代(しょばだい)といいましょうか、場所代ですね。おそらく市の代理をしている人だったんだろうと思いますが、町の代表の方が場所代を取りに來たわけですね。で、それは電灯一灯についていくらということで毎日、料金を払いました。それから約1年経つて昭和21(1946)年の11月にですね、うちの店は、今度は向きが変わりました。今度は歩道に。今、これ見ますと(45頁写真)歩道に向かつて商売をしてますけれども、そういうかたちになります。といいますのは、商売を前からやっておられた方が徐々に帰つて来られまして、本建築でお店を作るようになったんですね。ですから真向いにはちゃんとしたお店が、私たちの露店の前にあって、挟むようにして歩道をお客様が歩くという。多少、もう車も通るようになつたので、それで向きを変えたということになります。それは昭和21(1946)年11月でございます。その頃になりますと所場代というのは電灯一灯ではなくて売上げ歩合、売上に対して何パーセントということで日々、上納してたと、こういうことでございます。それは多分、おそらく税金もですね、その中に入つていたんだろうと思うんですね。実際に私も15歳ですから、まあ、税金の問題も父がすごく悩んでましたので、日々インフレでどんどんどんどん、毎年毎年、税金の額が上がつてくるというように父がかなり苦しんでおりましたので、私自身も、これは税金も入つてゐるんだなと、そんなことを思いながら店番をしてました。当時の学校は二部制でございまして、私は午後番でございましたので、午前中に私が露店をやり、

午後からは兄が替わると、こういうことで兄弟で3年間、露店をやりました。

その中で一番、私どもで儲かったものは何かというのをちょっとお話しいたしますと、煙草を巻く紙ですね。皆さん専売公社*からはですね、<きざみ>しか配給がなかったんですね。実際、どうやって吸うんでしょうか。煙管(きせる)ではちょっと小さすぎますし、そこで朝鮮煙管というのがですね、かなり出回ったんですね。これはマドロスパイプぐらいの容量のものがありまして、日本の煙管と同じように、真鍮でできているんですね。竹の、羅宇(らお)*っていうんですかね、それが付いてまして、それで吸うと、きざみでも吸えるわけですけれども、紙の配給がなかったんですね。そこで私どもの父が、紙を切るのが専門ですので、小さく煙草の大きさに切ってですね、お店へだしたところ、飛ぶように売れまして、大変実は儲かったわけですけれども、ある日、専売公社に父が捕まりまして、これは専売公社法違反だということで一日留置をされたんです。そこで、私はもらい下げに行きました。このきざみだけを持ってきて煙草を吸ってくださいということですが、どうして吸えるんでしょうかと聞きました。そうしましたら、紙がなければ吸えないと、こういう答えが来ましたので、その紙を供給してんのに何故悪いんだということですね、私は赤ペンでサインをして、二度と売りませんということを誓約をして、父をもらい下げをしてきた、そんな記憶があるわけでございますけども、そういう具合に大変変わった時代でございました。私は学校でやはり勉強しなけりやならないので、3年間で露天商は辞めさせていただきました。(笑)

○司会：ありがとうございます。露店に直にお店を出されていたという小林さんのお話を聞くことができました。会場の方で何か買ったとか歩いたことがあるとか、ございますか。

○男性：今、ここに出ております、そのちょっと前の写真を出してくれませんか。(45頁写真映写)自動車が2台走っています。2代目の左側に何とか株式会社って書いてあります。それは稻垣薬品っていう会社です。

私はその頃ですね、昭和33年頃に、その会社におりました。それからずっといたんですけども、うちの会社はですね工業薬品を主に売っておったんです。で、工業薬品を売ってる中にですね、重曹、御存知でしょうかけれど重曹がですね、あれ一袋が25キロとか50キロっていう袋なんです。でもこれ、普通にいえば売っちゃいけないと。切符がなければ売れなかつたんです。ところがうちの前に出てる露天商の方はですね、ほんの少しですね、すごい値段で売るんですよ。私のところでその25キロ一袋を売るよりも高い値段なんです。(会場から笑い)ですからね、いくら何でもこりやひどいじゃないかというような思いがございました。以上です、どうぞ。

○小林：大変申しわけございません。(会場から笑い)

○司会：ありがとうございます。ほかの方はどうなたかいらっしゃいますか。

○小林：では、私の方からひとつ。私が丁度露店をやっているときにですね、これは確か昭和21年の春だったと思いますけれども、新円切替(しんえんきりかえ)*というのを皆さん御存知でございましょうか。えー、それまで戦前から使ってたお札とか硬貨、硬貨は使えたんですけども、お札に関してですね、新しいお札に替えるという通知があったんです。これはおそらくインフレを抑えるためのものだったのでしょう。実際に銀行に取り換えて行つても、当時100円まで。100円というと当時、まあ、月給ぐらいなんですね。100円ぐらいまでは取り換えたんですけど、それ以上は取り換えない。あとは銀行でその預金の方は全部作り替えるということです。それ、御記憶の方はおら

*専売公社

1949(昭和24)年に大蔵省の外局である専売局を大蔵省から分離独立させて発足した特殊法人であり、国家が全額出資する公共企業体。1985(昭和60)年に日本たばこ産業株式会社(JT)が設立され解散した。

*羅宇(「らお」又は「らう」)

竹で作られた煙管の中間部の名称。雁首(きせる)の火皿の付いた頭部)と吸い口をつなぐ。

*新円切替

1946(昭和21)年2月に発令された通貨切替政策に対する総称。戦後のインフレーション対策として行われた。

流通している日銀券をすべて一度銀行へ預け入れ、新円と交換する。払い戻し額は、1か月につき世帯主300円、家族1人につき100円までというも

のであった。

れますか。ああ、やはりおられますね。じゃあ、そのお客様の方から御意見を聞いていただい

て。

○司会：そうですね、はい。では、前の方、お願いします。

○男性：私はまだ子どもでしたから新円の切替ってことの意味は全くわからなかったんですけども、親父が税理士をしておりまして、昭和19年の8月に、私は徳島へ強制疎開したんですが、親父はまだ仕事があるもんですから横浜に残ってたんです。えー、はっきり記憶がないんですけどもが昭和20年の2、3月頃になって親父はもう、住まいは豆口に住んでたんですけども、その家を売っちゃって、戦争が激しくなってきて危ないからっていうことで田舎へ引き上げちゃったんですね。それで田舎、徳島へ帰っちゃったんですが、それで、終戦になってから昭和21年の半ば頃に、横浜へ親父は先に帰って来たんだと思うんですけども、それでどういうわけだかよくわかんないんですけども手紙が来て、徳島の銀行へ、淡路銀行っていう銀行へ行って、それでその預金をどうとかしろとかと言われて、はっきりした記憶がないんですけども、それが新円の封鎖の手続きか何かだったらしいんですけども、生まれて初めて私、銀行へ行ったのもそうですし、その新円切換でどうとかって言ってて、お金が封鎖されちゃって使えないんだよっていうような話を中学1年になったばかりのときですから、経済のことなんかさっぱり、お金のことなんかもさっぱりわからないんで、何かよくわからないけれども、そういうことで銀行へ行かされたっていう記憶がありまして、それが新円の封鎖の、預金の手続きだったらしいってことが、記憶に残ってます。

○小林：ありがとうございます。新円の切替のときにですね、大金持ちの人は実は品物を買っちゃうんですね。その期日がありますからその前にその、お金をどんどん使っちゃうんです。品物で持っていたわけですね。で、後から売るという。これはひとつは脱税防止でもあったんだろうと思いますし、皆さんの財産を役所が管理する、一番の基になったんだろうと思います。で、ちなみにあの、新円のデザインは皆さん、御記憶でしょうか。十円*でいいますと米国(べいこく)という日本的なデザインなんですね。ブルーと紺で印刷されてまして、まだ印刷がそんなにできない頃でございまして、これ、新円と替える量がなくてですね、新円がなくて、シールを皆さんに配布して、旧紙幣にシールを貼って*流出をさせたと、こんなことも実は私、覚えております。以上でございます。



*新円切替時に発行された十円券（写真出典：日本銀行ホームページより）国会議事堂を囲む模様が「米」、その右が「國」の字に読めたことから「べいこく」とも呼ばれた。



*シールを貼って流通（写真出展：日本銀行金融研究所ホームページより）

新円紙幣の印刷が間に合わないため、回収した旧円紙幣に証紙を貼り新円として流通させた。証紙付き紙幣は後に新紙幣との引換えが行われた後に廃止され無効となった。

○司会：会場でもうなずいていらっしゃる方が何名かいらっしゃいますね。では、ちょっと写真を御紹介します。今、お見せしているのは野毛の本通りに並んでいる露天商の写真なんですけども、都橋に入ったあとの写真がありますので。これですね。（「野毛都橋商店街ビル」写真映写）都橋商店街ビルに露店が入ったあとの写真です。昭和40年の、これは撮影された写真



*『港町横浜の都市形成史』

横浜市企画調整局/編、横浜市企画調整局、1981年発行

*池田内閣

池田勇人(1899～1965)を内閣総理大臣とする日本の内閣。池田は第58～60代内閣総理大臣に就任した。

*六大事業

横浜市中心部の再生と活性化を目的として昭和40年代から進められた事業で次の6つの事業を言う。
①みなとみらい地区造成、②金沢地先埋立、③港北ニュータウン開発、④高速鉄道(地下鉄)整備、⑤高速道路整備、⑥ベイブリッジ建設。

ですね。手前の方は靴屋さんですかね。

では、露店に限らず、野毛の昔の生活について少しお話をしてみたいと思います。パネラーの方でどなたか、昔の野毛の生活の様子、遊びの様子、御紹介いただけますか。

○藤澤：私が覚えているのは昭和28年頃ですね。昭和30年になる前ですね。まだ物が少なくて、で、うちは飲食店を経営していたんですけどね、米がなくて。配給だと間に合わないんで闇屋さんに、お遣いに行かされました。近くに闇屋さんがありましてね。そんなのだと、それからお酒も足りなくてですね、しょうちゅう水で薄めてました。いや、今はそんなことしてません。（会場から笑い）お客様もそれ、ちゃんと知ってましてね。あの、あまり今日は薄めないでとか言って、うちのお母さんが「はいはい」とか言いながら、でも、適当に薄めて売つてたのを覚えてます。何しろ物がなくて、本当にやりくりして、基本的な食品がまだ昭和28年頃でも十分でなかった。そんな感じをもちました。

横浜市の六大事業

○司会：では、野毛もこのように変わってきました、昭和39年に東京オリンピックが開催されます。これを機に街がどんどん変わっていきました。街が変わっていった様子について、すいません、続けてなんですが、小林さんに少しお話をいただければと思います。

○小林：あの、丁度横浜市ではですね、この、『港町・横浜の都市形成史』*という横浜市から発行されている本があるんですけども、開港当時からずう一つですね、何年から何年までは何という期だとかですね、そういうことなんですが、実際にその戦後、昭和20年から35年までをですね、戦災復興期という具合に名付けております。それから36年から53年までをですね、都市成長期と、実はこういう具合に区分けをしてるんですね。

で、昭和20年から35年っていうのは戦災復興期。これはもう当然、35年は池田内閣*のですね、所得倍増論が発表になった年でございますので、正にこういう復興はですね、だいたい終わったと、こういうことでございまして、36年から53年で、何故53年なのかと、こういうことですけど、この間は都市成長期なんです。で、53年はですね、横浜の人口が270万人になってるわけでございまして、大阪、勿論名古屋も途中で抜いて大阪を抜いた年が53年なんですね。

で、そういう中で実は後々(あとあと)、オリンピックから現在までの間にいろんなお話が出てくるわけすけれども、その基本的な成長期にですね、横浜市の将来をどういう街にするかということで、いろいろ議論がございます。で、その中で横浜市はですね、六大事業*という計画を立てました。で、これを実際に実行することになったわけでございまして、この六大事業についてちょっとお話しさせていただきます。

まず、港北ニュータウン*ですね。で、これは、人口急増地域でございますので、そのまま放置をしますと、どんどんどんどん住宅地になってしまふ。で、せっかくの田園風景っていうものがなくなるということでですね、やはり網をかぶせまして住宅地と農地、そういうものをきちつと区画をしてですね、将来の発展に期そうということで、この港北ニュータウン構想が生まれました。で、現在、それが進められてほとんど完成しているわけでございます。それからもうひとつは都心臨海部の開発ということでございます。これは今でいうMM地区*でございます。それから新港埠頭ですね。この二つの開発がどうしても必要だと。といいますのは旧市街地の中で伊勢佐木町、元町、中華街。それと横浜西口ですね、まあ、これがやはり一体化することによつてですね、対都市間競争の中に勝てる商店街になるだろうと、こういうことでございまして、その中間の、この新港地区、それからMM地区もですね、やはり業務地域として開発する。但し、その理念はですね、東京へ働きに行く人ですね、多くて、横浜の昼夜間人口の差がですね、38万人の差がありました。昼間になると38万人が減ってしまうんですね、横浜の人口は。土、日はちょっと違いますけれども、普段のウイークデーはだいぶ減ってしまう。その半分の19万人をこのMM地区で復活させよう、人数を生もうと、こういうことで計画をしました。それもほとんど今、だいぶMM地区も出来上がってきているわけですね。それから土地の、もうひとつの土地は金沢のですね、埋立地。これは幸浦(さちうら)、福浦*というところですね。これはハ地区(はちく)までは、イロ、ハまでは埋立が済んでまして、丁度飛鳥田*市政のときでございますので、今度この金沢の埋立地が計画により乗りました。

それは何故かといいますと、市内にあります問屋さんとかですね、小さい工場はですね、車を置いて道路で積み下ろしをする。そこで、将来モータリゼーションの時代になるということを想定してですね、街の中をもっと機能的にですね、活用できるようによしよしということで、そういうものの移転先を埋立地に求めたと、こういうことでございまして、まあ、現在運送業とか卸売業とか、私どもの会社もそこに出ているんですけども、そういう計画がそのときになされていると、こういうことです。

それから交通関係ではですね、高速鉄道という名前でございますけれど、決して高速鉄道ではないんですけども、地下鉄ですね、これ、四路線を計画したわけでございまして、今、二路線だけはできているわけでございます。それから環状道路ですね。横浜に、環状道路をやはり作るということで、今、2号線、4号線が作られておりますけれども、それももう少しで完成するわけでございます。それからもうひとつは、臨海部のですね、輸送の円滑化を図ろうと、こういうことでございまして、これはベイブリッジですね。この六つの計画をですね、まあ、昭和40年代になりまして計画を立てたと。それが現在、皆さんの、横浜市民の役にたっていると。横浜はですね、この六大事業がもしかしたら、大変混雑をしてしまうし、今の繁栄はなかったように私は思います。この六大事業は大変大事な、私はひとつの街づくりの節目というぐらいに考えておりますし、また、他の都市の手本になっている計画であったという。先日亡くなられました田村*さんがこの六つの、基本的な計画をしたわけでございますが、それが実行されて現在にあると、こういうことでございます。それをちょっと頭に入れて、次の話題に進んでいただくとありがたいと思います。

*港北ニュータウン
横浜市都筑区茅ヶ崎を中心とするニュータウン。
都市農業を確立して都市と農業の調和を保つ市街地の形成を目指して計画された。

*MM地区
みなとみらい地区の略称。所在地は横浜市西区の沿岸部。

*幸浦、福浦
横浜市金沢区にある町名。幸浦は1977(昭和52)年の富岡地区埋立、福浦は1980(昭和55)年の柴町地区埋立に伴い新設した町。幸浦と対にして「幸福」となるよう願って名付けた。

*飛鳥田一雄
(1915~1990)
1963(昭和38)年、横浜市長に当選、以来1978(昭和53)年まで4期15年間革新市政をいた。

*田村明
(1926~2010)
元横浜市技監。都市政策プランナー。1968(昭和43)年に請われて横浜市庁入りし、企画調整局長として横浜市六大事業を推進。のちに横浜市技監を経て法政大学教授を務めた。

電車運転系統図

横浜市  交通局



昭和35年当時の運転系統図

最盛期の運転系統図(1960(昭和35)年当時、横浜市市電保存館ホームページより)

市電の思い出

○司会：ありがとうございました。横浜の街づくりのお話を少ししていただきました。今も高速鉄道という中でお話が出ていましたが、市営地下鉄が開通するまで、横浜には市電が走っていました。市電に乗ったことあるという方、手を挙げていただいてもいいですか。たくさんいらっしゃるかなと。残念ながら私はないんですけども。ちょっとこれから市電についての思い出を話そうかなと思います。まず映っておりま

すのは路線図(51 頁参照)ですね。ちょっと細かくて見づらいんですが、たくさんの市電が走っていたことはこちらからもわかります。野毛は丁度真ん中辺りでしょうか。ちょっと小っちゃいですね、すいません。では、市電について寄せられたエピソードを紹介します。

「野毛には市電が走っていた。どこかへ出かけるのはほとんど市電だった。市電では 25 円で野毛から杉田まで行けた。よく海水浴に行



った。電車は桜木町*までしかなかった。杉田や蒔田に行くには市電に乗らなければ行 *桜木町

けなかった。」「市電の線路は途切れているところがあった。川沿いに露店が替わったためらしい。桜木町駅前に市電が集まり、不夜城のようだった。」「市電は交通渋滞の元凶のようにみられ、全国各地で路面電車が次々に廃止されていった。横浜でも昭和 47 年 3 月 31 日で遂に全廃されてしまった。同じくこの年、市営地下鉄伊勢佐木長者

初代横浜駅の改称によって桜木町駅となった。桜木町駅は国鉄と市電の発祥の地である。

町駅から上大岡間が開通した。」というエピソードが寄せられています。乗っていた方がたくさんいらっしゃったので、会場の方からも市電にまつわるエピソード、ここに出かけたことがあるとか、思い出話がいただけたらなと思いますが、どなたかエピソードを御紹介いただけますか。では、あちらの方、どうぞ。

○男性：お話のように市電は正に生活の基盤、基本として、お風呂に行くにもですね、子安まで電車に乗って行ったとか、杉田にパンを買いに行くんで乗ったとか、とにかく生活の中心は市電そのものでした。今のお話、桜木町が中心の地ですから、そういう意味ではそこへ人が集まってるんで、米軍に、何というんですか、消毒をするんですね。DDT*をかけられたとかという、まあ、そんな思い出があります。以上です。

○男性：あの、市電は確かにいろんな意味で市民の足だったと思います。私が覚えているのは近所に市の交通局に勤めていた人がいたので、こういうことを覚えているんですけど、朝、4 時半か 5 時頃になると乗務員を迎えるために市電が来るんですね。特に警笛を鳴らすんです。で、私は住んでるところは藤棚の近くだったんですけど、4 番の市電が通っていて、4 番っていうのは三溪園の方まで行く路線だったんですね、保土ヶ谷駅から。そうするとそれが、こう、警笛を鳴らすとですね、職員がみんなそれに乗りこんで、で、職場に行くっていうんで、何でそんなに早くから来るのかなと思って、今でも 4 時か 4 時半頃になるとよく鳴ってたのを覚えています。

あと、市電っていうのは私達子どものときに遊びに使ったことを覚えてるんですね。我々の小さいときにあんまり、戦後ですけど遊ぶものがなかったんで。ただで乗った

* DDT
かつて使用された有機塩素系の殺虫剤のひとつ。現在の日本では環境汚染防止のため使用禁止となっている。衛生状態の悪い戦後に、シラミなどの防疫のために用いられた。

ことはないんですけどね。一時、循環線ができたことがあったんですね。何系統だか忘れましたけれど、生麦からずうーっと来まして保土ヶ谷を通って、で、弘明寺へ行って、弘明寺から伊勢佐木町のところを通って生麦の方へ帰って、1番とかっていう系統だったと思うんですけど、それ、1回ぐるっと回ってきても確か私のときには、さっき誰かが言ってたように25円かよりもっと安いときだったんで、10円か13円とかってときだったと思うんですけど、友達と一緒に行くところがないから乗るとか、うちの祖母なんかは私が子どものとき、これは戦前ですけど、泣いてしようがないから市電に乗ってですね、一回りしてくるんだって言ってましたけれど、今考えれば悠長な時代なんですが、非常に市電がなくなったのは今でも残念に思ってます。

確かにモータリゼーションによって、ものすごく車が増えて渋滞になりました。私が唯一覚えているのは昭和28年、27年だったと思うんですけども、高島町の交差点っていうのはすごい長い線だったんですね。ものすごい車の渋滞がありまして、あそこから桜木町まで行くのに非常に時間がかかる。で、市電はまあ、優先的に軌道を走れるわけですが、周りに自動車がいるわけですね。で、私が勘定したことがあるんですね。何でそんなことをしたかというと、中学校のときだったと思うんですけど、

ある先生が転勤をしまして、その先生に手紙を出すときに交通渋滞の話を書いてあげようかなと思って、280台だったと思います、280台。昭和28年頃ですから、今、考えられないと思うんですけど、ものすごい大渋滞があって、その後だんだんとですね、なくなって私も結構写真なんかも撮っていたのも思い出があるので、持ってたという記憶があります。

○女性：私は今、南区の八幡町というところに住んでおりまして、もう、すぐ中区との境界で、昔は中区の一部だったそうなんですけれども、市電が走っておりまして、私、昭和31年生まれなんですけど、よく昔はやっぱりあの、小さい私達子どもに母が、市電の通る道を電車道って、よく子どもの言葉として「遊びに行っても電車道を越えちゃだめだよって」、よく言うんですね。で、あそこで私達、小っちゃい子ども同士で渡ろうとすると、もう31年のあとですから、やっぱり交通渋滞で市電のほかに車とか来てて危ないっていう意味だったと思うんですけども、一応そんな感じで言われてまして、で、親と一緒に連れてってもらって乗ったこともありますし、だんだん自分

でも乗れるようになって、丁度高校に入った年が市電の終わりの年だったんですね。で、中学のときまでは友達と乗ったりもしたんですが、あの、私は市電が好きだったので、高校が弘明寺の方でしたので、毎日乗って通えるなど楽しみにしてましたら、3月に花電車*か何かで終わってしまい、すごくがっかりしたという記憶があります。以上です。

○司会：ありがとうございます。では、そちらの女性の方からまず、お話をお願いします。

市電の運賃(大人)

市電は1972(昭和47)年3月31日で廃止となった

大正10年4月1日	7銭	昭和22年9月1日	2円
大正15年4月1日	6銭	昭和23年6月1日	3円50銭
昭和4年10月1日	7銭	昭和23年8月1日	6円
昭和18年5月10日	10銭	昭和24年6月5日	8円
昭和21年2月1日	20銭	昭和26年12月25日	10円
昭和21年6月1日	30銭	昭和28年5月1日	13円
昭和22年2月20日	40銭	昭和37年5月1日	15円
昭和22年6月19日	1円	昭和41年4月18日	20円



*花電車（横浜市史資料室提供）

多くの慶祝行事のときに走り、装飾を施して運行された。見るもので乗ることはできなかった。この写真は、市電が廃止となる1972(昭和47)年に撮影。

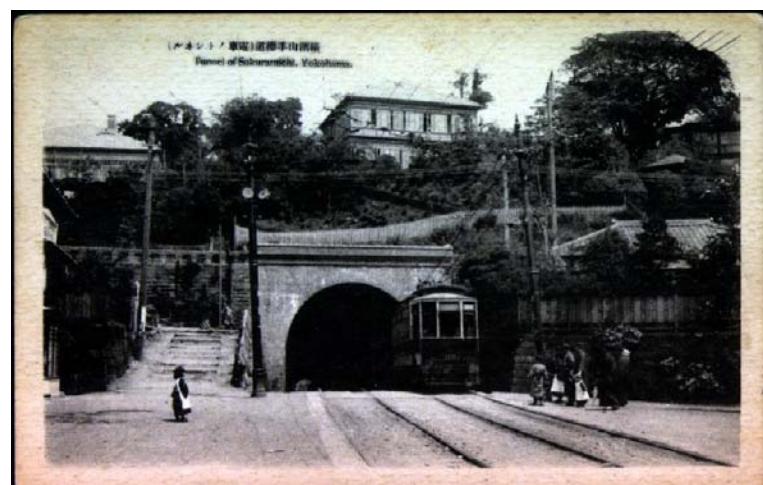
○女性：私も子どもの頃、市電であちこち行ったりましたんですけど、皆様のお話と重なるところが多いです。あの、市電だと軌道がありますので、どこで曲がるとか、何番がどういうふうに行くってのが子どもでもわかるんですね。ですからどこで乗り換えたらいいかとか。で、親も子どもだけで出してくれるという、そういう利点がありました。えー、それから、さっきの市電の系統図を見ますと、だいたい横浜の範囲っていうのが市電のあるところっていうイメージなんですね。えーと、それから、自動車や何かが多くなってっていうお話をありましたけれども、あのぉ、本当に市電の軌道に車が入って市電がほとんど動けないっていう状況も経験します。で、その点、今の『コクリコ坂から』*なんぞというのを見ますと、とてもお行儀よく走っていますので、あれはちょっとあの時代にはなかったなって思いました、はい。

それから、後ですね、小港の方のところを走りますと、丁度先ほどの一番初めの話、接収の話、ありましたけど、今、沖縄に行きますと両側がフェンスになってますけども、あのイメージでした。あと、市電が終わるときに花電車をやっぱり経験して、それから終わるときもそうですけど、始まるときに、保土ヶ谷の方を通るときに何か花電車、通ったなあって、かすかな記憶があります。最後に、あちこちに今でも市電の敷石が残って利用されてますので、そういうのを見かけると、ああ、懐かしいなあっていうのを、いつでも思います。以上です。

○男性：えーと、私は港中学に通ってたときに、本当は仲尾台に行かなきゃいけなかったんですけども、越境入学してまして、上野町から吉浜町まで歩いて行ってたんですけど、やっぱりモータリゼーションで市電の方が遅いんですよね。こっちのが歩いてって着いちやうくらいで。一度だけ元町のトンネル、赤レンガで出来てたんですけど、陸上部に入っていて、その帰りにですね、元町側から何かちょっと冗談半分で友達と話してて、麦田までトンネルの中へ入ってみようかと。で、二人でトンネルの中へ入ってつちゃったんですよ。で、中は凄く、レールのところはもう上からの、何ていうんですかね、沁みるっていうか、ポタポタと落っこってて、ぐじやぐじやなんですよね、レールのところが。それとあと、コウモリが中にいたんですよ、暗いから。

まあ、200メートルぐらいのトンネルなんですが、そこをもうとにかく必死で走って、市電が来ないようにね。何とか麦田まで出たときは市電が来なかつたのでね、怒られなくてすんだんですけどね、まあ、そんなことがありました。それと陸上部のときに帰りがけに、かなり大雪が降ったとき、吉浜橋のところで、市電が通ったときに反対側から互いに雪合戦をした覚えがありますね。で、何か今、コクリコ坂、言ってましたけど、西の橋っていう駅はないんですね、電停がね。あれ、ちょっと僕も見てないんですけど、何かあれはちょっと違うなと。(会場から笑い) そういう歴史的なところから見ちやうとだめなんですね。だからそういう目で見ないようにしてもらった方がいいかも知れません。

*『コクリコ坂から』
2011(平成 23)年に公開されたスタジオジブリによるアニメ映画。
1963(昭和 38)年の横浜が舞台。



*麦田トンネル(絵葉書『横浜山手桜道 (電車ノトンネル)』より)
(発行年不明)(横浜市中央図書館所蔵) 元町から桜道下(現在の麦田)をつなぐ全長約 260m(貫通当時)のトンネル。市電にとってはじめてのトンネル工事であり、1910(明治 43)年 11月に開始された。貫通させたときの工事関係者の喜びようは、大変なものだったという。

○男性：皆さんのお話よりちょっと前になりますが、戦争中の横浜の市電ですが、まず、車庫がですね生麦*と、それから、あそこは何て言いましたかな、杉田の方へ行く途中、滝頭*ですか。それから麦田*と、車庫は三つくりしかなかったんですね。で、生麦の車庫はですね、市電の番号でいくと1番、2番、3番なんです。そして4番と5番が麦田の車庫。そして6番から9番まで、戦争中なんかは確か9番までしかなかったんですけど、それは滝頭の車庫ということで、麦田の車庫が一番小さかったんです。で、私はその頃は西平沼というところ、扇だとか、そこら辺から通っていたんですけどね、その当時は三中っていいました。今は緑ヶ丘ですが、そこへ通ってたんですけども、市電はすごくのろいという、さっきの話、のろいんです。何故かっていいますとですね、運転席の出力レバーは、直列か並列かというところに最初に持ってきてまして、それからグウッと手前に引くとモーターがガアッと、早く回るようになってるんです。ところがですね、電気を使うからというんですね、その最初のところまでいって、もう下に支え棒が出来ちゃってですね、進めないんですよ。ですからスピードがとてもものろいんです。そうしますとお話のようにですね、扇田町から乗ろうとしてもですね、行っちゃいますと、すっとんで駆けていきますと次の駅でちゃんと、停留所で間に合うんですね。それほど市電はのろかったんですね、戦争中は。

で、先ほど高島町ってお話をありましたけれど、高島町が一番賑やかだった交差点として大変だったのは1番、2番、3番、4番、5番、6番、これと7番も通っていました。そこをその線路が全部、四つ角じゃなくてまた斜めにも来るというかたちで、ものすごく複雑だったんです。ですから信号が1回、こう、終わりますと次に来るまで随分時間がありましてねその間イライラして待ってました。そんなような記憶がありますね。まだたくさんありますけど、一応このくらいにしておきますけども。

○男性：今のお話の続きみたいになりますけど、ちょっと高島町の交差点が何か複雑だったらしいんですけど、そこにですね、電信柱みたいな柱が立ってて、その上に何か部屋がありましたよね。で、そこで何か監視をしているらしくて、信号か何かの切替があったんですね。一種の小屋なんですよね。ガラス張りで、何ていうんだろうなあ、灯台みたいな感じのものがありましてね、そこで信号の切替か何かをやってたようなこと、今、話を聞いてて思い出しました。それから、私は弘明寺の商工高校に通ってたんですが、本牧の千代崎町から通って、尾上町で乗り換えて弘明寺までの終点まで毎日、通つてたんですが、生徒の時代は定期で通つてましたから別に不自由はなかったんですけど、戦前は確か乗換切符*ってのをくれたと思うんですね。それで、例えば千代崎町から尾上町で乗り換えて弘明寺へ行くんであれば、何か細長い、鉄を入れたか入れないかよく覚えてないんですけども。すごく小さい子どもの頃ですけど乗換切符って、こんな細長いのをもらうと、それを見せるとその次の路線に行かれたように思いますんで、一回料金を払うずっとどこまでも行けちゃうんじゃなかつたかなと、はつきりした記憶じやないけど、それはあります。

*生麦車庫

横浜市鶴見区。
1928(昭和3)年に
完成。これにより
高島町にあった
車庫は生麦に移
転した。

*滴頭車庫

横浜市磯子区。
1912(明治 45)年
に完成。最大の車
庫で工場も併設
していた。最後に
廃止された車庫
で、現在はバスの
車庫になってお
り、一角に市電保
存館が立地する。

*麦田車庫

横浜市中区。
1928(昭和3)年に
車庫が完成。
1970(昭和45)年
に廃止された。



*昭和3年の電車乗換券をデザインに取り入れた記念乗車券(地図式)（横浜市市電保存館提供）料金が均一性、乗り換えなしになる前の切符は、停留所名がずらりと記載されている「駅名式」と、路線が地図のように書かれている「地図式」などの形をしていた。当時の車掌は、切符を裏返しにしておいて、駅名に裏からパンチを入れ、表の地図の目的停留所に穴をあけられるという“名人芸”を競ったという。なお地図式は昭和17年で廃止された。

それから、千代崎町で麦田の、先ほどお話が出た麦田のトンネルを越えて行きますと元町の西の橋っていうんですかね、あれは、橋がありまして、そこからずうーっと吉浜橋、花園橋、えー、横浜市役所の前からずつとまっすぐ行くわけなんんですけど、今の根岸線がありませんから、根岸線の下が川だったわけで、その川の向こう側にですね、晴れた日ですと、特に冬なんかは富士山が真正面に見えるんですね。で、素晴らしい風景なんですが、今、あれは全然見られませんし、ビルがたくさん建っちゃいましたから、えー、根岸線に乗っててもほとんど富士山を見ることは出来なくなっちゃったと思いますが、私はもう毎日、富士山を見て通ってた時代を思い出しました。

それからもうひとつ、その市電で面白いのはボギー車*っていってですね、四つの輪っぱの付いたところに、あの、市電のボディーが乗っかってるのが前と後ろにあるやつを、それをボギー車って、確か言ってましたけれども、それは割合安定して走るんですけども、もっと短い電車はですね、車が四つしかなかったような感じがして、こういうふうに揺れるんですね。もう揺れて揺れてしまうがないように揺れるんですが、それで長く通ってたせいかですね、ちょっと気分の悪いときでも、その市電に乗っちゃうと、すっかり気分が良くなっちゃって、平和な、そういう経験がありますし、そのあとですね、学校で大島へ修学旅行に行ったことがあるんです。で、東京の桟橋から船に乗っていって、三十何人か同級生が一緒に乗ったんですけども、そのとき海が荒れたのか何かよく覚えてませんけど、船酔いしなかったのは私ともう一人、二人しかいなかつたんです。で、それ、よくよく考えてみると徒歩通学してた人は皆、酔っちゃったんです。(会場から笑い) ところが私は普段、毎日その市電のこの揺れに、こう、体が順応してたのか、(会場から笑い) 全然酔わないで旅先でびっくりした。私もひょろひょろしてましたから、よくお前は酔わないなあなんて言われたのを思い出しました。

○司会：ありがとうございました。市電の思わぬ効果が。じゃあ、後ろの、今の方の二列後ろの。お願いします。

○女性：はい、失礼します。通学の話が出てきましたんで、ちょっと今まで区名があまり出ませんでしたが、私、神奈川区に住んでまして六角橋から11番に乗って中学時代、大和町まで通ったんですね。で、そのあと、そこからずうーっと学校の丘からぐるっと回って、で、11番のあの辺の間門とか、その辺からまた乗って帰れたんですね。えー、実は今でも車で通りますが、その当時は閑内牧場*って言われてまして、本当に戦争の痕がそのまま残っている。そして、学校の丘から行きますとY C A C*から、要するに外国人の、兵隊さんのすてきなハウスが並んでるところへ、不思議に入れたんですね。まあ、今はとてもMP*さんがいてだめですけども、そしてちょっとそこにいる子ども達と、中学生ですので英会話

*ボギー車

路面電車は誕生当初は全長8mほどの車体の4輪車(単車)でスタートしたが、乗客の増加に対応するため、車体を長くする必要があった。しかし単車ではカーブを曲がりきれず、きしみを生じた。

そこで前後2組の4輪の台車の上に車体を乗せ、車体と台車が相互の位置を回転できスムーズに曲がることのできるボギー車が開発された。初のボギー車は昭和3年製造で、全長13.4mだった。

*閑内牧場

1945(昭和20)年の横浜大空襲で閑内は、県庁、横浜正銀などの建物を残して一面焼け野原となつた。そこに米軍が進駐、接収した。1952(昭和27)年接収解除が進んだが、閑内の復興は遅れ、一面に雑草が生い茂った様から、こう呼ばれた。



写真上：接収中の閑内の一帯、写真下：接収解除直後（『横浜の接収と財政』1953年刊より）

*Y C A C

会員制クリケットクラブが前身。横浜カントリー・アンド・アスレティック・クラブの略称。ラグビーの日本での発祥となる1901(明治34)年の慶應大学との対戦を行ったほか、野球も日本国内に伝えた。

*M P

Military Policeの略。アメリカ陸軍の憲兵。

の真似事をして、そして山を下りて三溪園あの辺からまた、定期ですから乗って帰ると。その代わりに今は市営バスを、何ですかシニアバスをもらえるようになって、まだもらえるっていうよりは少し前なので自分でまだお金を出しますが、市営バスなら1か月3000円でどこでも乗っていいというので、昔そういう市電に乗った記憶を辿りながらあちこち、ちょっと遊んでられます。あー、でも、その中学時代の思い出っていうのがすごく横浜の復興と重なって、その後の大発展に繋がってるっていうので、この取組もそういう意味ではすごく、何かこういうのを記録に残すと横浜の庶民史みたいなものが積み重なるかなぁと思って、楽しみにしております。以上です。

○男性：市電の思い出はですね、私住まいが、実家が三吉橋なんです。で、現在私は横須賀なんですけど、一番の市電の思い出っていうのは、あの、屏風ヶ浦*っていうんですか、あれから先が満潮になるとね、もう線路まで水が来ちゃうんですよね。あれが一番印象に残ってますねえ。それから、昭和20年か21年ですか、ともかく焼け野原でもって風呂もないし、で、おふくろと弘明寺まで風呂に入りに行つたことがありましたね、市電に乗つかって。弘明寺と、それから横浜駅*の東口。あれ、何のビルだったか、ビルにやはり銭湯がありまして、それが非常に印象に残ってますねえ。ですから僕、小学校の当時3年ですけれど、やっぱりおふくろと同じ女湯に入ったんですね、小学校3年で。そんな思い出があります。それから、これ、話はあれですけど、森さん、(会場から笑い)横浜高校ですか。私、横中です。それで、小林さんね、先ほど博覧会の件ですけど、野毛と、それから反町でやりましたね。

というのはですね、僕は小学校が三吉小学校*だったんです、浦舟町の。で、そこで疎開しまして、帰ってきたのが南吉田小学校なんです。三吉小学校がもうなくなっちゃって。そんであの、中学へ入ったときに、横中に。

試験が出たんですよ、たまたま今、横浜で博覧会しているけど、どことどこなのかと。で、もうさあ一つと手を挙げて。それからもうひとつ覚えているのは光と音とどっちが速いかって問題で、僕は光ですって。そしたら、そうか、本当かななんて言うから、いや、音ですって。まあ、結局光なんんですけど、で、そのとき覚えたのが光が1秒間に地球七回り半ですか。で、音というのは1時間でもってこの辺から下関までがだいたい1時間ぐらいらしいんですね。そんなようなことを覚えております。

それからですね、あと、いろいろもう、私も横浜で勿論生まれて、おじいちゃんから横浜なんです。ですからいろいろ思い出がありまして、もう戦後、何てたってマッカーサーが来てがらっと変わったように、まあ、ともかく見るも聞くもびっくりびっくりでもって、まずもう、ダンプカーだとかね、それからもうともかく機銃車とか、いろいろなもう、何てたってもうアメリカ、アメリカでもって、ですから僕なんかは「ギブミィ チョコレート」の時代です。それでもう、いろいろあるんですけど、年代からいたら昭和26年ぐらいですかね。これは今の英國のエリザベス女王*ですね。あの人の戴冠式というのがありますと、で、今の天皇陛下が皇太子の時分に横浜から船で行った

*屏風ヶ浦
横浜市磯子区。
屏風ヶ浦の市電停留所は、道路の縁が海岸だった。



*横浜駅(三代目)(絵葉書『Yokohama, Station. (大横浜名所 横浜駅の美觀』より)(横浜市中央図書館所蔵)
現在の地に開業したのは1928(昭和3)年。三代目の横浜駅にあたる。初代の横浜駅は現在の桜木町駅、二代目は高島町駅の場所にあった。

*三吉小学校
(16頁「市大の医学部のそばにある学校」参照)

*エリザベス女王
(1926~)
ここではエリザベス2世を指す。
(在位:1952(昭和27)年~)。イギリスの女王。

んですよね。船の何だかというのをちょっと僕、覚えてないんですけど、そんでその皇太子が乗ってきた車というのが、おそらくロールスロイスじゃなかつたかと思うんですけど、運転席と後ろと遮断されてまして、全部ボタンなんですねえ、右へ回れだと左だと、ゆっくりだとか早くだとか、どうのこうのだとあって、それが何か非常に印象に残つてまして、で、それをずう一つ見てて。で、今思うと不思議なんですけど、よくあんなのを我々が自由にそばまで行って見れたなあと思うんですけど、まあ、時代が時代なんですかねえ。そんなような思い出がありますね。

○男性：あの、今のお話の続きなんですけれども、私も小学生の5年か6年のときですね、今の紅葉坂*ですね。あそこで、学校で皇太子がエリザベス女王の戴冠式に行くので並ばされて、立って送ったことがございます。そのとき一番驚いたのは、車を見た印象はないんですけど、その前に散水車がザーって通つていったので、ああ、こういうことがあるんだって、それがすごく印象に残つております。

それと市電の話ですけれど、私は17年生まれで、えーと、二十歳(はたち)まで12番の終点の弘明寺に住んでおりました。で、親は藤澤さんと同じで飲食店をやっております。今だに三番目の兄が、継いでやつてるんですけど。市電の印象というと12番で行くと宮元町の辺り、ずう一つとかまぼこ兵舎があつたっていうこと。それで、かまぼこ兵舎の払い下げがあつたんでしょうかねえ。弘明寺の国大の法学部の前にかまぼこ兵舎が一つだけ残つていたんですよ。そこが図書館になって、私も図書館派です。結構、本を読ませていただきました。えーと、石油ストーブの匂いがすごかったのを覚えております。

あと、戦前ですが、父親の体がちょっと具合悪かったときにキリンビールの方の人が何か、市電を使い、今じゃあそんなこと出来ないでしょうけれど、市電を使って何か製品を、弘明寺まで持つてきてくれたってことが。で、市の交通局の方、結構お客様で来てたんで、それでやつていけたことがあつたようですね、ええ。大岡川が氾濫したときもやっぱり市電の12番、弘明寺の終点の方までビヤ樽が転がつていつたことがございましたね。そういうことも思い出しました。あと、一番上の姉が結婚して曙町っていうところで、中郵便局の向かいのところでやはり飲食店をやっておりまして、そのとき、お酉さん*のお手伝いに行ったことがあるんですよ、酉の日ですね。酉の市ですか。そのときに朝か夜、風呂が何か終夜営業みたいで朝に帰つたんですよ。そのとき切符が何か安かつたような、安い値段で乗れたような覚えがちょっと残つてゐんですけど、それがちょっと記憶が確かじやないんですけど。以上です。

○男性：私、団塊の世代で戦前のことは知らないんですけども、昭和30年頃、丁度野毛から山元町に行くのが市電3番が通つてまして、この市電は山坂が多いので、運転席の横に必ず砂袋ってのが置いてあって、で、雪なんか降つたときに坂、登れないんですね、滑っちゃつて。で、その車掌が砂袋から砂を出して市電の前に撒きながら登つていくと。そういうことを、ほかの電車はよく知らないんですけど、3番の電車は、よく。山元町のところ、もう、すごい坂ですからね。

あとねえ、すごく、我々団塊の世代の男の子は多分、こういういたずらをほとんどの人間がしてたんじやないかなあと、悪ガキの頃なんですけども。市電のね、線路の上にね、釘を置くんですよ。（会場から笑い）これ、多分ね、ほとんどの人がやつてたんじやないかと思うんですよね。釘を置いてね、路地に隠れているんですよね。市電が、そのね、ガターンと通るとね、釘がペっちゃんこになってね、それをこう、弓

*紅葉坂
(地図②B-1)

*お酉さん
(21頁「お酉様」
参照)

矢の先に使うんですよね。それがね、変に置くと曲がっちゃうんですよ。まっすぐ置かないと曲がっちゃうんです。だんだんだんだんエスカレートしてね、あの、石とか置いたりするんですよね。（会場から笑い） そうすんとね、それ、発見されて電車が止まっちゃうんですよね。そうすんとね、急いで逃げてね。（会場から笑い） 多分、団塊の世代の男の、ガキ、悪ガキ、多分同じような経験、してたんじゃないかなって気がします。

○森：やりましたやりました。（笑）（会場から笑い） あの釘が磁石になるんですよ。それでの、砂鉄を集めたりとかね、みんなやりました。それからあの、瘤瘻玉を撒いて、車が通るとパパパーンとかね。そんなことばっかりやってましたね。（笑）

○司会：悪ガキトークがありましたら、皆さん、うなずいている方もお見受けしたので、たくさんの方がもしかしてやられたのかも知れないですねえ。ほかに何かお話しになりたいという方、いらっしゃいますか。では、真ん中の方から先にお願いします。

○男性：地下鉄の話になるんですけども、えー、昭和47年に上大岡と伊勢佐木長者町間で営業を開始したわけなんですけれども、現在では例えば上永谷には地上の基地があります。この最初、開業した当時の上大岡と伊勢佐木長者町の間には地上の基地はありません。で、じゃあこの、漫才みたいな話ですけれども、その車両はどこから入れたんだ。（会場から笑い） これ、ちょっと疑問で私、ちょっと調べたんで知ってるんですけど、それは内緒にしといて、どうやって車両を入れたか御存知の方、いらっしゃいますでしょうか。

○司会：どうでしょうか、御存知の方、手を挙げていただけますか。あつ、お一人。

○男性：あれ、どこから入れてるかということですか。

○男性：そうです。

○男性：あれ、上永谷じゃないですか。

○男性：いえ、上永谷までは地下鉄の駅は行ってません。上大岡までまでしか。

○男性：上大岡までのときですね。それは知りません。

○男性：その前のことをいただきたいと。

○小林：私の記憶では確か弘明寺の辺だったと思うんですけど。地上から入れたと。

○男性：実はその、蒔田の駅の西に杉山神社ってのがございます。その歩道に、その時にここから入れたんだっていう記録が書かれております。何でもそのところを上から掘りまして、で、車両をトラックで積んできて、そこから吊るして車両を。もう線路が敷いてありますから、そこへ乗せて、それで蓋をしちゃったと。で、当時4両*だけを入れて、それで行ったり来たりするのが、これが最初だったそうです。丁度私もいろいろな方に聞くんですけども、知らない方が多かったんで、誰か知っていらっしゃる方、いるかなあと思って、ちょっとお話をしました。

○司会：ありがとうございます。地下鉄が始まったときの秘話でしたでしょうか。では、一番前の方、お願ひします。

○男性：先ほどから戴冠式*のお話が出ていましたけれど、船の名前はプレジデント・ウェイルソンかプレジデント・クリーブランドだったと思いますんで、その頃はもう、船が盛んな時期でした。で、よく港に見に行った記憶がございます。それとあと、市電の件ですけど、えーと、小学校の低学年のときに遠足、春の遠足がありまして、その帰りに丁度、桜木町の前に止まって、通ったときに桜木町事件*の黒焦げの国電を見た記憶があります。小学校低学年でしたね。それから後は、まあ、先ほど釘の話も出ましたけど、まあ、それ、私が言う前に言われて（笑）、そんな記憶がございます。まあ、勿論その辺

*4両

発言では4両とあるが、初めての横浜の地下鉄は3両編成であった。1971(昭和46)年3月16日に、地下鉄車両が2台のクレーンで、地下に吊り入れられた。深夜にもかかわらず、工事現場には100人以上の市民が集まつたとされる。

*戴冠式への皇太子出席

1953(昭和28)年3月30日、プレジデント・ウィルソン号で横浜港を出航。同年10月12日帰国。

*桜木町事件

1951(昭和26)年4月24日に国鉄桜木町駅構内で発生。電車の1・2両目が炎上して106名が焼死した。

り、例えば10円玉とか1円玉なんてやった記憶もあると思うんですけど、まあ、そんな遊びが、遊びっていうか、まあ、悪さがありました。

それから、まあ、今、市電が全くなくなってしまいましたけど、何とかやっぱり横浜に一路線くらい観光用の、よく、まあ、富山とか、ああいうところで非常に盛んに動いているような一路線、あつたらいいなと。今、私なんか思ってるのは今まで走っていたところの例ええば3番系統、ああ、3番かな。あの山元町へ行く電車、あれ、3番でしたっけ。そうですね、あの路線なんかは坂もあって、山手の丘の方に経由して歩いて行けるような、あれがありますんで、非常にこれを期待しているところです。

○森：今お話しにあった釘の方もやりました。それで、やんちゃな奴は京浜急行でやったのがいまして、あれだとすごくペっちゃんこになるんですね。車両の数でしょうか。ただ、飛ばされちゃうんですね。で、それを探すのが大変で、探しているうちに次の京浜急行が来ちゃうんで、非常に危険なことをやっておりました。（会場から笑い）今、京浜急行の関係者の方まさか、いないといいんですが。（会場から大笑い）えーと、市電はガキ大将が指図していて、曲がり角でやると脱線するかも知れないのでやめろというような指示が出ていました。本当に脱線するかどうかはわかんないんですけど。それを細い笹にひもで結わいて弓矢にして。お金のある子はピストル持ってるんで、西部劇やって、お金のない貧乏人の子はその弓矢でアパッチの方をやりまして、それで、暗黙のうちに顔から上は狙うなっていうことになつてんですがね、うつかりすると飛んできて刺さるんですよね。それで太ももに刺さった友達のを僕が引っこ抜いたんですけど、笹の方だけ抜けちゃって、釘が深く刺さって、これが取れなくて、えらいことになったことがある。

それから、この路線図(51頁参照)で左上方の横浜国大がございます、「文」って書いてあるところですね。あそこ下の前里町四丁目の、そばに住んでおりましたから、割にどこでも行けるんで、先ほどの乗り継ぎでもって杉田の辺まで行きまして、春先ですね、潮干狩りでバケツ持って乗って行って、あそこは漁業権がありますんで、バケツに1杯獲っちゃうと30円ぐらい取られちゃうんですけど、子どもですとお目こぼしがあって、楽しいからいっぱい獲るんですが、上がるときにまた撒いてきて、バケツに三分の一ぐらいにしてですね、監視のおじさん、いい人を知っていますから、その人だとお金取らないんですね、子どもは。それで往復、先ほど13円という値段があったんですが、確かこのくらい。子ども料金だったんでしょうか。それから往復乗車券を買うと確かに1円安くなった記憶があつて、それで杉田から前里町四丁目まで帰つてきました。

もうちょっとエピソード言いますと、あそこ直角に曲がっていますけれども、すごい急カーブで、あそこは天皇陛下が葉山の御用邸に行かれる時に必ずあそこを通るんですね。それを子どもの情報で何で知ったのかはわかんないんですけど、毎年あそこで捕虫網(ほちゅうあみ)を持った少年達、半ズボンの私達が天皇陛下の来るのを待つてた記憶があります。天皇陛下の乗った車も90度曲がりますので、あそこでスローダウンするんですね。そのときに天皇陛下は毎年、子ども達がそこで迎えているのを知つていて、窓を開きましてね、縁なしのメガネがきらっと光って、まあ、戦後生まれなんですが、恐れ多いというあればなんですが、何か直立不動になりまして、天皇陛下は確かにほほえんだ。昭和天皇ですね、ほほえんだ記憶が前里町四丁目にはあります。

それからこれ、昭和35年の路線図で全盛期だと思うんで、一番多かった頃のじゃないかと思うんですが、これ見て認識したのは「私の横浜」ってこの範囲だったんだなあという。で、市電には、お小遣い10円あるかないかの頃ですから、なかなか乗れなくて、このエリアをほとん

ど歩いていたような記憶があります。よほどお金がないと子どもは乗らなかつたですね。潮干狩りはさすがに遠いですからね、乗つたと思いますけども、以上でございます。

○司会：ありがとうございます。市電の写真をたくさんいただいているので、少し皆さんにもご覧いただければと思います。(市民の皆様からの提供写真 27~29、39、65~81 映写)

○森：それから、このことがあるからじゃなくて一昨日、実は滝頭の市電保存館*に行つてきましたら、懐かしい市電が並んでおりましたけど、私の頃はブザーではなくて車掌が紐を引っ張って「チンチン」って、あの、運転手に鳴らせて知らせてましたね、発車のね。あれがないんでがっかりして、全部ブザーになってましたんで、えーと、投書でもしてやろう、1台そういうのを作れと。(会場から笑い) いわゆるチンチン電車の語源になった、その設備がなくて、全部ブザーでした。それからワンマンになってましてね、非常に残念に思いました。

○司会：ありがとうございました。では、写真をどうぞご覧ください。(市民の皆様からの提供写真 72~74 映写)根岸湾が奥に見えるようですね。こちらは下ぎりぎりに市電が見えますが、奥が磯子駅だそうです。(写真 79~81 映写)右上に見えてる車両が根岸線の車両で、市電は真ん中の木の陰に見えるものですね。こちらは芦名橋で折り返している様子が写真に撮られているものです。これは待機中です。

○小林：この頃のパンタグラフはですね、受電装置*、屋根に付いてますね、パンタグラフ、ああいう具合になってますけれども、その昔は一本の棒だけだったんですね。それで先の方に車が付いてまして、それで受電をしてたんですね。よく交差点で曲がるときにですね、それが外れちゃうんですね。そうしますと車掌さんが、後ろの窓を開けて乗り出してですね、それをこう直すんですが、なかなかそれが決まらないときがあるんですね。そうすると乗ってる人からバカとか早くやれなんていうような声が飛び交うんですけど(笑)、それが面白かったです。そんな記憶があります。

○司会：車がたくさん横に。先ほどカウントされたという方もいらっしゃいましたが。

○小林：先ほどのお客様の中からお話がありました柱のようなものが一本立って、その上にお家があってですね、その中で見張ってるというようなお話をしましたが、あれは、右へ行ったり左へ行ったりするときのレールの切替をあの中でやってたんですね。で、私も一回、あの中を見せていただいたことがございまして、えー、そうですね、1メートル20センチぐらいのポールにガチャっと。ガチャンと引っ張るんですね。そうしますと機械式ですね。ですからあそこは年中油をぬってたと思うんですね。で、冬なんかですとちょっと温めてたと、そんなような記憶があります。

○司会：(市民の皆様からの提供写真 69 映写)今、映っているのが杉田線の廃止をお知らせする看板ですね。昭和42年の7月に撮られています。(写真 39 映写)えーと、これが昭和47年で、もう廃止される年の市電ですね。桜木町の駅前で撮られている写真です。このような市電の写真が皆様からたくさん寄せられました。どうもありがとうございます。

横浜スタジアム

○司会：市電のお話で大変盛り上がりまして、そろそろ4時になりました。昭和53年に横浜スタジアム*が完成いたしましたので、そのお話を少しさせていただきたいと思います。横浜スタジアム、今、出ている写真がゲーリックスタジアムの写真ですね。今、出ているのが今のスタジアムです。では、横浜スタジアムについて寄せられたエピソード

*市電保存館
横浜市磯子区滝頭。市営バス滝頭車庫に隣接して立地。1973(昭和48)年開館。

*受電装置
横浜に路面電車が登場した当初は「ツノつき電車」の名の由来ともなった2本のポールが集電装置となっていた。しかしカーブや坂道では架線から外れやすいという欠点があった。戦後、ばねの力で架線に押しつけることで、外れる心配のない「ビューゲル」が考えられ、1949(昭和24)年から採用された。

*横浜スタジアム
1929(昭和4)年に関東大震災復興事業の一環として「横浜公園球場」が竣工。1945(昭和20)年終戦後の駐留軍の接收で「ルー・ゲーリック球場」と命名され、日本初の夜間照明灯が完成する。接收解除後の1955(昭和30)年、球場改修に伴い「横浜公園平和野球場」と改名。1978(昭和53)年日本初の多目的スタジアム「横浜スタジアム」としてオープン。

を少し御紹介します。

「現在の横浜スタジアムは、戦後はゲーリックスタジアム*という名前で、夜になるとアメフトの試合をやっていた。終わり近くになると無料で入れる席があったため、近所の子ども達で席に残った食べ残しの缶詰のピーナッツを集めたりした。」

ほかにも、「横浜スタジアムは前は平和球場って呼んでたけど、球場下には卓球とか遊べる施設があった。区役所もまだなかったから、あの辺

り一面、広場でね。5月のみなと祭りにはバザーをやっていた。見世物屋も来ていて、お化け屋敷や食べものの露店、ヨーヨーや鉛筆つかみもあって、とても楽しみにしていた。」というようなエピソードが寄せられています。

皆様の中で平和球場の時代ですとか、何か思い出のあられる方、いらっしゃいますか。では、真ん中の辺りの方、お願ひします。

○男性：今の横浜スタジアムの前のゲーリック球場で、これはプロ野球ではジャイアンツが大変、横浜では人気があって、最終戦ですね、川上がホームランを打ちまして、青田とともに25本の、同時にホームラン王*というのをゲーリック球場では記憶しています。それから、今の横浜スタジアムでは細郷さん*が横浜市長で、丁度あの頃、市民球団ってことで株をだいぶ上げたと思うんですね。そういう中で細郷さんが始球式をしたんですが、の方はスポーツマンですがね、東大でヨット部、ヨット部というか船の関係ですね、ボートの選手だったようですが、それで始球式をしたところが、自分の真ん前に投げて、キャッチャーまで全然球が行かなかつたという記憶が。以上でございます。

○男性：昭和24年の話になるんですけども、ここに出てる横浜球場はゲーリック球場といつておりましたが、その横浜公園の中にはこれのお隣に野外音楽堂ってのがありました。で、昭和24年に米軍からの食糧の援助があったので、その感謝大会が神奈川県の主催で行われたんですが、たまたま私、そこに行く機会があったときにですね、アトラクションとして何かあるということで期待してたんですけども、実はその、ちっちゃな女の子が白いドレス着てパタパタっと出てきまして、「東京ブギウギ～」って唄い出したんですね。これが美空ひばりだったんです。で、その後すぐ、野毛の国際劇場*ってのがありましたね。その舞台に出て、それすぐに今度は浅草の国際劇場っていうように。だけど一番最初の美空ひばりを見たところになるのかと。

○男性：川上がホームランを打ったっていうお話をしたんですが、この写真を見ますとね、夜間照明の塔がないんですよ。確かね、ナイター*設備がこの後に出来たのかも知れないんですけども、おそらくナイターは横浜球場がプロ野球で最初じゃないかと思うんですけど、はっきりした確信はありませんけれども、そんな感じをもっておりますけども。

○小林：では、私から。戦時中の話に戻ってちょっと申しわけございません。私の記



*ルー・ゲーリックスタジアム（1951(昭和 26)年）
(横浜市史資料室 提供)

*川上、青田のホームラン王争い
川上哲治と青田昇（ともに巨人）は1948(昭和 23)年に激しいホームラン王争いを繰り広げた。シーズン最終戦で川上がホームランを打ち、川上、青田が25本塁打でホームラン王を分け合うこととなる。最終戦はゲーリックスタジアムではなく、川崎球場で行われた。

*細郷道一
(1915~1990)
1978(昭和 53)年に市長就任。依頼3期当選。みなとみらい21計画を推進した。

*野毛の国際劇場
(地図②B-2)
横浜国際劇場のこと。1947(昭和 22)年、現在の日本中央競馬場ウインズ横浜の場所に開場。新国劇、新派、歌謡ショー、演芸などのスターが出演した。1948(昭和 23)年に当時10歳の美空ひばりが出演した。

*ナイター
ゲーリック球場には1946(昭和 21)年に日本初の照明灯がとりつけられ、米兵たちがナイターを楽しんだ。
日本人が始めたのは1946(昭和 21)年9月のハマの早慶戦(横浜高工ー横浜高商)。プロ野球史上初のナイターは1948(昭和 23)年8月17日の巨人ー中日戦であった。

憶では、あそこは捕虜収容所*になってまして、今のグラウンドは畠になってた記憶がございます。私はそれを見させていただいたことを記憶しております。そんなことをご記憶の方はおられますでしょうか。それともうひとつ、新しい今の球場を作るときでございますけれども、市民から株主を募集*したんですね。で、一口 250 万円ってことで 800 口を皆さんからお金を集めまして、で、それでこれを作つて、建物そのものは横浜市に寄附をしましたので、スタジアム、横浜スタジアム株式会社が現在所有をしておりません。横浜市の所有になっております。で、土地は国有地でございます。

○藤澤：スタジアムの公園の中に昔はフライヤージム*っていうかまぼこ型の大きな体育館があつて、あそこで室内競技のですね、県大会とか市の大会とかをやってましたね。それから、今の噴水辺りに大きな教会堂がありましてね、チャペルセンターって。主に米軍の関係の方々の礼拝だとか、それから結婚式だとかをやってました。で、特に宗派を決めないで誰でも使える。それから日本人の人でもあそこで結婚式を挙げることが出来たんですね。私の友人もあるそこで挙げまして。わずか 50 人ぐらいしかいなかつたのに、広い教会堂で、えらく何かこう、間の悪い結婚式だなあなんて、そんなことを覚えてますね。

○大久保：あの、私もその公園のそばの教会に、たまたま子どもの頃ですがクリスマスの日の前に行ったことがありまして、米軍の方がきれいに着飾つて教会に入るのを、何か映画のワンシーンのように覚えております。

○男性：あの、今のフライヤージムのお話が出たんですけど、あそこに体育館が映っていますよね。あれってフライヤージムじゃないですよ。あのねえ、フライヤージムは今のが集堂っていう本屋さんがありますよね、伊勢佐木町に、オデオン*のそばに。あそこにあつたんですよ。あそこにあって、私が何故記憶しているかというと、初めてオーケストラの一団、日本人の森正(もりただし)*さんがあそこで指揮をして、あそこで何か音楽会があつたんですね。で、中学生のときだったと思うんですけど、みんなその、珍しいからっていうんで行つたことがあつて。あそこから多分、そっちへ移つたんだろうと思



横浜市庁舎周辺、フライヤージム、平和球場、山下埠頭
(1959(昭和 34)年) (横浜市史資料室 提供)



*オデオン座（絵ハガキ『(大横浜名所) 伊勢佐木町通り』より（1923-1940）（横浜市中央図書館所蔵）左手ほどにオデオン座が見える。1911(明治 44)年に開業。輸入フィルムを東京より早く公開し「封切り」という言葉をうみだしたと言われる。のちに横浜東亜映画劇場、横浜松竹映画劇場、連合国軍占領下ではオクタゴンシアターと改称した。2000(平成 12)年に閉館。

***捕虜収容所**
戦時色の高まりを背景に1943(昭和 18)年を最後に野球大会が中止され、グラウンドは芋畠となつた。その後軍隊に接収され、捕虜収容所となつた。

***株主募集**
横浜スタジアム建設資金を集めるために、一口 250 万円の株券が発行された。購入者には横浜スタジアム、内野指定席一席が 45 年間貸与された。

***フライヤージム**
1945(昭和 20)年進駐軍の体操場として伊勢佐木町に建設。
1953(昭和 28)年接収が解除になり、巨大なまぼこ型の建物は横浜公園に移つた。

***森正**
(1921～1987)
フルート奏者としてデビュー。その後、指揮者に転向し東京交響楽団、藤原歌劇団、京都市交響楽団の常任指揮者を歴任。1979(昭和 54)年より NHK 交響楽団の正指揮者を務めた。

うんですね。だから初めは、私が行ったのは伊勢佐木町にあったのと、それとどう違うのかなというものが疑問だったんですね。それでの、調べてみたら昔の地図にフライヤージムの位置が今の、弘集堂さんていう本屋さんは昔からありますよね。丁度あの弘集堂さんはね、逆の方にあったんですよね、前は。で、あの辺りにフライヤージムってのがあって、その道路に面していて、そこで音楽会をやって、で、森正が来て、確かあのときにみんなで聴きに行って、で、やった曲もラデッキ一行進曲と、それから何か幾つかですね、有名な曲をやって、初めてオーケストラって聴いたのを覚えているので、それで今、おっしゃったのは私もそこだとばかり思ってたんですよ、あの平和球場の横のところかなと。

○藤澤：私は昭和 35、6 年の頃はあそこはフライヤージムって、僕ら言ってたんですけどね、違ったか。

○男性：ああ、いや、そうじゃないの。私のはね、もうちょっと前です。私はね、昭和 27 年ぐらいですから、あの、言われてるとおりに移転している可能性があります。どうもすいませんでした。

地名の話あれこれ

○男性：ちょっとパネラーの方にお聞きしたいんですけど、大したことじゃないんですけど、あのお、今、大桟橋(おおさんばし)*って言っていますね。あれ、僕なんか子どもの頃は大桟橋(だいさんばし)って言ったんですよね。で、ローマ字ではずっと<OSANBASHI・オサンバシ>って書いてあって。というのはこの間ですね、外国人の人からね、「おさんばし、これでいいのか」って聞かれたわけなんですよ。最初僕はオサンバシって何かなあと思ったら、要するに大桟橋(おおさんばし)のことなんですよね。<おおさんばし>ってのは僕なんかは<だいさんばし>なんですよ。これ、どうなんですかねえ。まあ、どうってことない話かも知れないですけど。で、僕なんか、桟橋には月に何回も船を見に行きましたね。で、そのときは何も<おおさんばし>だとか<だいさんばし>なんて関係なかったんですけど、最近あれ見てみるとみんな、<おおさんばし>、<OSANBASHI・オサンバシ>って書いてあるんだよね。だからおかしいなあと思って、どっちが正しいっていうか、何ていうんですかねえ。僕なんか<おおさんばし>っていう、

それがどうしても頭に入りますもんで、そこんとこどうなんですかねえ。大した問題じゃないかも知れませんけど。

○森：あの、よろしいですか。あのお、大小みたいな漢字は平仮名ふらないもんですから、その辺でわかんなくなっちゃうケース、あるんじゃないかと思うんです。で、私が子どものときは<おおさんばし>っていう言い方、既にしてまして、大学、東京だったものですから、そこで会った友達が<だいさんばし>って言うもんだから、いや、あれは横浜では<おおさんばし>って言うんだって、直させた記憶があります。それで、そういうものはほかにもたくさんあって、簡単な小学校で出てくる漢字の振り仮名はふらないので、読み方は微妙に変わる可能



*大桟橋 (絵ハガキ『(大横浜名所) 大桟橋 Pier of Yokohama』より) (1923-1940) (横浜市中央図書館所蔵)

横浜港にある埠頭のひとつ。「メリケン波止場」とも呼ばれ港の観光の中心。横浜港唯一の客船埠頭でもある。大桟橋入口から突端まで全長 966m。1 万トン級の船が 6 隻接岸でき、時には 6 万 7 千トンの大客船も停泊する。

性ってあるんじゃないかなと思います。

○藤澤：そうですね、この間の震災でもそうですね。大津波(おおつなみ)、大津波(だいつなみ)ってあるしね。大震災(だいしんさい)、大震災(おおしんさい)。あの辺もだから大(おお)と大(だい)がどういうふうにあれかって、すごく疑問なんんですけどねえ。私も<おおさんばし>って言ってたんですけどね。学生時代、丁度ね、1970年ちょっと前でしたかね、65、6年だったか、あそこにね、<おおさんばし>に行く手前にジャパンエクスプレスって会社がありましてね。そこでアルバイトやったことあるんですよ。で、当時、桟橋にナホトカから、ロシアですかね、客船が着きましたね。その客船の中からバゲッジをですね、こう、上に上げていく、そんな仕事をですね。それからトラックの上乗りだとか。今の赤レンガ倉庫が当時まだ稼働してましてね、赤レンガ倉庫の中ででっかい、何かほこりだらけの袋を担いであちこち動かしたりとか。それから、もっとすごいのは、沖にある船から船への荷物の上げ下ろしですね。私はやんなかったんですけど私の弟がアルバイトに行ったときに、丁度たまたまこの仕事に回されて、それで生の牛の皮をですね、かぶらされて、それでの、もう下、40メートルぐらいの海面のところを僅かなこんな、こんなようなところを渡らされて、で、頭からべたべたになって帰って来た、そんなようなことを覚えてますね。1970年ちょっと前ですから40年ちょっと前ですかね、そんなようなアルバイト、港の周りでね、学生達が随分やってたなってなことを、あの周辺のことをふと思ひ出します。

○森：ここに参加させていただく上で私はちょっとお聞きしたいことがひとつだけあります、それは町名なんですが、金の港、金港町(きんこうちょう)*ですね。これ、現在のそごうの辺りが金港町なんですが、これは小学校のときですから昭和30年代前半ですが、小学校の先生から、金港っていうのは、国にとっての主力の第一港のことを、表玄関のことをゴールデンポートという。で、ゴールデンポートの直訳が金港であるという、そういうふうに聞いた記憶があります、これは子どもながらに横浜は金港などと誇りに思つたもんで、えー、50年も経つても記憶しているわけなんですが、この金港って言葉がほとんど死語になっています。

それで金港タクシーとか金港スポーツとかあるんですね。それで金港タクシーの運転手さんに聞くと、多分本社が金港町にあったからじゃないかっていうような話しか出てきません。それから横浜市の、こちらプロがいらっしゃいますけど、本の中にね、横浜市の町名の辞典*のような本があるんですね。それで私も金港町を見たんですが、錦の港であるから、それが金港になつたっていう記述しかないんですよ。で、小学校の先生、もうお亡くなりになつちゃつてますから、これ、どうなつたのかって、で、辞書を調べますとゴールデンポートそのものが辞書に載つてないんですね、新しい辞書には。その辺の調査の仕方は私、学間に弱いんで出来ないんですが、どなたかその辺、お調べいただけだとありがたいなと、御教授願えたらと思っているんです。で、これは横浜税関の前を通りかかったときに、その課長さんにお会いして、たまたまお会いしたその人はちょっと知っているんですよね。

で、そういうことで六つ港*を開いて、神戸、新潟、函(箱)館とか開港時に開いたときにくじ引で決めたんだそうで、長崎が元々、開港前の江戸時代から長崎が国際港であったので、長崎を第一の港とすべきであるということだったらしいのですが、くじ引で横浜が第一港を射止めると。つまり横浜が日本の表玄関になったということですね。で、これが今はエアポートの時代。飛行場が港になったわけで、エアポートですね。そ

*金港町
(横浜市神奈川区)「金港」の由来は「金川(神奈川)の港」と同時に「錦(にしき)の港」を意味し、横浜港を指す」とある。(転載／『横浜の町名』(横浜市発行)34頁より)



*横浜市の町名の辞典
『横浜の町名』(横浜市市民局総務部住居表示課、1996年刊)を指す。横浜市内の町名を別々に紹介。町名の設置時期、由来などが解説されている。

*六つの港
1858(安政5)年日米修好通商条約で開港となつたのは、横浜、長崎、函館、新潟、神戸の5港。日米和親条約(1854年調印)で開港した下田と併せて6港となる。下田は1859年に閉港。

れでいくと第一港は成田なのかどこなのかって言う、そういういろんな疑問がわいてくるんです。これ、先ほどの、私もくださいさんばし>って子どもの頃に言ってた記憶もあるんですね。それ、非常に曖昧な部分でして、こういうような庶民の集いって言いますと失礼な言い方になっちゃうのかも知れませんけれども、市民史ですね、要するに民衆史。これは非常に、文献に残りにくい部分が結構話されるわけですね。ですからそういったことにおいてちょっと私が横浜市の町名で気になっているのは金港町という町名が何だったのかということですね。それから、それに対して、では銀港町というのがあるのではないかと思いまして、神戸市役所に電話で問い合わせたんですが、神戸市内には銀港町という町名はないそうです。この辺もまさか小学校の先生がでたらめ言ったとも思えないんですが、どこにも載ってないんです、正直言いまして。ですから、この場でちょっと投げかけるというと大げさなんですが、ささやかな話なんですがね、実はね。ただ、その<おおさんばし>、<だいさんばし>ひとつにとってもですね、本を読んでも平仮名はふる必要のないような簡単な用語については時代とともに変わっていく。平氣で変わっていっちやってどれが正しかったのかわからない。ただ、それで生命、関係ないんですけどね、ただ、そういう意味でこういう会っていうのは私は必要だと思っておりましたんで、長くなりましたが最後に発言させていただきました。どうも。

○男性：年配の方に聞きたいんですけども、私も年配なんですけど。昔の地図を見ますと今の桟橋ですけど、南埠頭って表示があるんですよね。で、中央埠頭ってのが今はもうなくなりましたけど、昔、引き込み線がありまして、中に税関みたいのがあって、あそこに直接、東京から来た人が入って、アメリカ航路だったと思うんですね。で、メリケン波止場っていうのも昔、言葉があったんですよね。だから私なんかは昔の地図を見ると、あれ、南埠頭。中央埠頭ってのは既になくなりましたけれど、私は写真、撮っておきましたけど、引き込み線があって、中にステンドグラスなんかがあって、で、結構立派なのが残ってたんですね。

だから<おおさんばし>っていう、私も<だいさんばし>ってあまり聞いたことないんで<おおさんばし>っていう言葉だったんですね。で、今もおっしゃったように確かにオーラルヒストリーっていうかね、結構大切なんですね。で、これ、ちょっと変な話なんですけど小林さんに質問なんですけどね。こう、ものの、地名の呼び方ってありますよね。で、例えば関内(*1=<かん>強調読み)とは言わないはずなんですよね。私ね、関内(*2=<かんない>平坦読み)って言ったはずなんですよね、昔の人は。小林さんなんかは関内(*2)だと思うんですよ。それからね、呼んでるときにおかしいのはですね、綱島(*2)<つなしま>=平坦読み)って言ってんですよ。あの、東横線は。あれ、綱島(*1=<つな>強調読み)なんですよね。だから昔から住んでいる人はね、そんなのどうだっていいっていやあいいんですけどね。やっぱりそういうところから変わっていくのかなと思うんですけども、だけど私は関内(*2)はね、ものすごくね、拘っていてね、うちじやあ昔から、明治時代から横浜の人間ですからね。小さいときから関内(*2)、関内(*2)って言われてたのに、いつからか関内(*1)、関内(*1)って言ってるから、うちの息子も私に、いやあ、あれはおかしいって言うんですけどね。まあ、それはいいんですけども、そういうのを正せとはいわないけど、変わってってもいいんだろうけど、結構知らないうちにですね、まあ、横浜はいろんなところの人が来るから、そうなっちゃうんでしょうけども、小林さんなんかはいろんな立場があるでしょうから、そういうようなところをもう一回整理していただいて、ああ、本当はこう読むんだよっていうのをですね、言っていただきたいと思います。どうもすいません。

○小林：大変難しいことなんんですけど、私は関内(*2)ということをですね、<かん>にあまり力を入れないで関内といつておりますけれども、若い人達は関内(*1)って言う、いつ頃からで

しょうかねえ。そう言われるようになりましたね、ええ。関内(*1)って<かん>の方に力を入れるんですね。どうでしょうか、これは。やはり大事な提言ですね。

○司会：ありがとうございます。

○森：えーと、関内(*2)っていうふうに聞いてた記憶があるんですね。関内(*1)と関外(*3)=<かん>強調読みじやないですか。外と内で。関内(*2)ですよね。

○男性：祖父があの辺で仕事をやってたんで多分、間違いないんじゃないと思うんですけどね。今、おっしゃるように。

○藤澤：関外(*4)=<かん>強調読みだと変ですよね、明らかに。対になっている言葉だから関内(*2)の方が正しいのではないかと。気がしますけど。昔はあの辺を関内(*2)牧場って言ってたんですよね。関内(*1)牧場じゃないですよね。

○男性：私は後から横浜に来た人間なんで、並みいるネイティブ横浜っ子にはあれなんですけども、えーと、駅の名前の呼び方に対しては多分、普通の人が関内(*1)って言ってて、普通の人というか、これくらいの年代の人は関内(*1)っていう人のが多いんだと思うんですけど、我々よりもずっと若い人は日本語の全体の発音の平板化の中で関内(*2)っていう言い方をしてると、逆になってると思うんですよ。

それで、JRの車内放送というか駅に付いてるホームの放送なんんですけど、あれ、気がついたんですけど二つ言ってるんですよね。最初、関内(*1)って言って次、関内(*2)って言ってるんです。で、桜木町も。いや、二回言ってるんですよ。で、桜木町も桜木町(*1)=<さくら>強調読みって言って、次に桜木町(*2)=<ぎちょう>平坦読みって、違う発音で別々、二回言っています。私はだから最初のが年寄り向け、我々向けで、（会場から笑い）二回目のがもっとかなり若い人、30代くらい以下の、ええ、もう変わろうとしているのが二回目に言っています。だから渋谷もそうですね。渋谷(*2)=<しぶや>平坦読み、渋谷(*1)=<しぶ>強調読みとか何とか。あの、皆さんそういうふうに気をつけて言つてると。あの、年寄り発音と若い発音と両方言ってますんで。（会場から笑い）

全然ちょっと関係ないんですけど、それで私、新参の横浜なんで、ちょっとあの、せっかくなんで教えてほしかったんですけど、市電の話にちょっと戻つて申しわけないんですけど、桜木町と高島町の間の雪見橋の辺りに、多分市電のせいだと思うんですけど道が斜めに走っているところがあつて、で、さっき高島町の交差点がすごいことになってたっていう話があつたんですけど、何で高島町で回らないで、あそこの斜めの道があるのかっていうのがずっと疑問だったんですけど、どなたか御存知の方がいたら教えていただきたいと。

○司会：どなたか。いらっしゃいますか。では、お願ひします。

○男性：あの、市電に関係ないと思うんです。あれ、斜めにある道はですね、えーと、岩亀楼(がんきろう)*とかっていうのがあつたところで、あれは、あそこは川でしたから。今、道路になっているところは。川ですから市電が通るわけはないと思うんで、川の上を走ることはないんで、橋があつただけですから多分、それはないと思いますね。

○小林：あの、これは私の記憶ですけど、確か岩亀横丁(がんきよこちょう)*からですね、あそこに横浜ドック*の入口があつたんですね。それに合わせたと私は思うんです。そのためにちょっと斜めになつたと思いますけども。いかがでしょうか。それから先ほどの駅名なんですかとも、隣のお婆さんがですね、次の駅はどこですかと言つたら「きくな(菊名)」って言つたってんで。（会場から笑い）これ、落語の世界で菊名(聞くな)、でございます。

*岩亀楼

港崎遊郭にあつた遊郭。岩亀楼はその中でも当時珍しい三階建ての大店（おおだな）で、内装や華麗な踊り舞台などから「さればひとたび此の樓に遊べるものは、魂有頂天にのぼり、更に家に帰るのを忘れるべし」と歌われた。しかし1866(慶応2)年、1871(明治4)年、二たび火難に遭い、高島町に移転。高島町でも岩亀楼は三階建ての楼閣が夜目にも美しかったと伝えられている。

*岩亀横丁

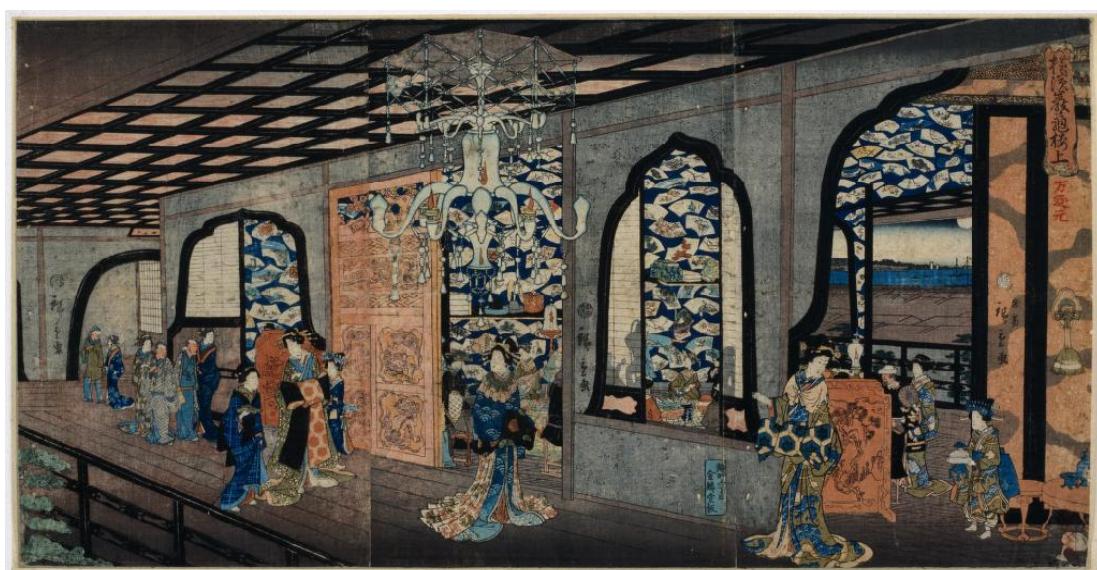
現在も西区戸部に残る通りの名前。名の由来は、岩亀楼の遊女が静養のため利用した寮がこの通りにあつたことから。

○司会：面白い笑い話がありました。では、そろそろもうお時間が4時半になろうとしておりますので、ここら辺で今回のパネルディスカッションを終わらうと思います。昭和53年の横浜スタジアムの完成までのお話がありまして、その後、まあ、横浜接收が解除されたりとか、みなとみらいの開発があつたり、いろいろなことが起こり今に至るわけです。

前回のパネルディスカッションと今回のパネルディスカッションで90年前からの横浜の様子、皆さんの暮らしの様子を、本に載ってない情報までいろいろお聞きできたのはとてもよかったです。皆様にこうやって積極的に御参加いただきて、とても嬉しかったです。今回、90周年事業ということでこのような機会を設けましたが、また皆さんでこのようにお話しできる機会があれば御参加いただければと思います。

では、本日はこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。

(会場から拍手)



岩亀楼（錦絵『横浜岩亀楼上』（二代目広重、1860）より）
(横浜市中央図書館所蔵)



高島町遊廓岩亀楼（『開港七十年記念横浜史料解説』（横浜市、1928年発行より）

*横浜ドック
イギリス人技師
パーマー（日本初の近代水道を横浜に建設）が基礎設計した石造ドライドックのこと。パーマーの死後は日本人技術者たちによって実施設計と施行がなされ、1896（明治29）年に完成。安山岩約3万5千個によって築かれたこのドックでは、昭和50年代まで、多くの艦船の修理がなされた。現在はドックヤードガーデンと呼ばれ市民が憩う広場となっている。国的重要文化財。

6 資料集

- ・市民の皆様からお寄せいただいた『エピソード』と『写真』です。
- ・図書館の責任において、若干の編集を施させていただいたことをお断りいたします。
- ・お寄せいただいたエピソードと史実との照合はいたしておりません。



(1) エピソード一覧(テーマ別)

- ・81～96頁で、エピソードのご提供者の別に掲載しています。
- ・提供者欄に「参加者」とあるのは、パネルディスカッションへ御参加いただいた皆様からお寄せいただいたエピソードです。提供者別の頁へは掲載しておりません。

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
1	吉田新田	吉田新田は開拓から400年になるが、横浜は開港からまだ150年で、横浜は孫みたいなもの。江戸の大火で材木商として財をなした吉田勘兵衛が、仕入れで通る横浜に目をつけ、幕府に埋め立てを願い出たのが吉田新田の始まり。将軍も吉田新田に鷹狩りにきていたらしい。		ク	86～87
2		震災後、野毛大通りの道幅が広がった。その時家の土地を無償で提供した。		カ	84
3	震災	震災後2年経ってから生まれたが、当時は震災で怪我をした人が身近にかなりいて、震災が現実の問題だった。		ク	86～87
4		「復興小学校」というものが横浜にもあった。 また、野毛坂下ったところに「復興アパート」があった		テ	96
5	野毛山プール	野毛山にはプールがあって、50mもあるプールで、まわりがコロッセオみたいになってるんだけど、そこでプロレスの興行とともにやってたなあ。遠藤幸吉っていう力道山のパートナーの事務所が近くにあって、遠藤幸吉もそこで興行やってたなあ。 そのプールは大会とかにも使えるような立派なプールだったんだけど、叶屋のもう亡くなった御主人がそのプールで泳いだことがあるって自慢に言っていたな。	1949年(昭和24)年 噴水池として野毛山公園プール誕生	ウ	81～82
6		野毛山のプールには10mの飛び込み台があった。子供は一番上の段からの飛び込みは禁止されていたが、競って高いところから飛び込んで遊んだ。		ツ	95～96
7		野毛山公園のプールには、主人が息子を連れて行っていた。 水泳大会のアナウンスが聞こえてくると、夏が来たと感じた。		イ	81
8	野毛山	正月には門松をたてたが、正月明けに雪が降ると、門松の竹を二つに割つてスキー板にした。それで野毛山を滑った。		キ	85～86
9		野毛山のあたりは、昔官庁街だった		テ	96
10		野毛にはパチンコ屋さん（モナコ、ホームラン）とか映画館とか遊ぶ場所がたくさんあったな。遊びと食事は野毛が一番って感じだった。 今のJRAは吉本劇場や国際劇場っていう映画館だったんだ。		ウ	81～82
11	野毛	映画館って言っても、当時は映画だけじゃなく、歌謡ショーとともにやってたんだ。そこで美空ひばりはデビューしたんだよ。		カ	84
12		今JRAがある場所は、戦前は憲兵司令部だったが、その後、マッカーサー劇場・国際劇場となり、今では180度イメージの違う建物になった。		キ	85～86
13		有隣堂や、マッカーサー劇場、国際劇場があったのを覚えている。金物店を営んでいたが、店に美空ひばりがスリッパを買いにきたことがある。		テ	96
14		美空ひばりはデビューした劇場がこの辺りにあった（今のJRAか？）。 美空ひばりの像がある辺りなのか。			参加者
15	娯楽施設	伊勢佐木町3丁目辺りには両国屋（喜楽座）や賑座があり、東京でやるような芝居を伊勢佐木町で見ることが出来た。 また、デパートの前身である勧工場が芝居小屋の下にでき、だんだん独立した勧工場ができてきた。	1880(明治13)年 賑座開業 1899(明治32)年 喜楽座(前身は両国座)開業 1911(明治44)年 オデヲン座開業	工	83
16		明治になって、芝居小屋が映画館に変わっていった。 特に戦後は映画の絶頂期だった。オデヲン座は洋画の封切館（封を切つて一番に放映する映画館）だった。 賑座や両国屋も東映、松竹、ピカデリー座などに変っていった。		工	83
17	伊勢佐木	明治7年に埋めたてが完了し、羽衣町にあった芝居小屋、寄席、的に矢を打つ遊び場などが伊勢佐木町に移ってきた。 このエンターテイメント施設と松坂屋の跡地にあった常清寺を目当てに人がどんどん集まってきた。		工	83
18		「昭和10年頃のハマの活弁時代の想い出」 概要：石崎町という市電の停留所があり、その前に日本館という映画館があった。小学校6年生であった昭和10年、母親と一緒に見に行った。日本館は無声映画が主力で、スクリーン横には弁士が立ち、スクリーンと客席の間には樂師たちのスペースがあった。 日本館がある通りでは大都映画の撮影の控え所になる店があり、大都映画巣鴨撮影所のトラックが毎日のように止まっていた。俳優たちが自宅の店によく煙草や切手を買い物に訪れた。		ス	91

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
19	伊勢佐木	伊勢佐木町周辺にたくさんあった映画館が思い出として残っている。		参加者	
20		明治32年、大きな火事があつて辺り一帯焼け野原となつた。その結果、伊勢佐木町には大きな道が出来た。この頃に、伊勢佐木町はエンターテイメントの街から商売の街に変わっていく転換期を迎えたように思う。	1909(明治42)年 野沢屋呉服店、伊勢佐木町支店開業	工	83
21		伊勢佐木町に野沢屋、松屋（元町で呉服屋として出てきた）という大手企業が進出してきて、商売の街に変わってきた。 その後、震災まで伊勢佐木町は商業地となつた。	1953(昭和28)年 接收解除後、「野沢屋」として開業	イ	81
22		戦後は、伊勢佐木町にも遊びに行つていた。野沢屋さんのマークが丸だったので、「いりく」と呼んでいた。		ケ	88
23		松坂屋には、従業員も入つことのない秘密の部屋があった。お客様からは見えない、バックヤードにあつた。松坂屋は増改築を繰り返していくために、そんな部屋が出来た。		ケ	88
24		松坂屋の建物は、歴史的建造物のため、外壁沿いに足場を作つて、壁面落下防止の作業を行つた。その際に間近に外壁を見たが、装飾は素晴らしい、落下物を記念にもらつたりした。		ケ	88
25		自分が伊勢佐木で働くうと思ったのは、小学校の頃、母親に連れられて、一度だけ「野沢屋」に来たことがきっかけ。その時の野沢屋の店員さんがとても親切で記憶に残り、伊勢佐木の百貨店に勤めることになった。		ケ	88
26		家族で伊勢佐木町や中華街に食事に行った。		参加者	
27		父親の代から、曙町で「岡野乾物店」という食料品店をやつていた。砂糖や小麦粉を扱つていて、「みのや本店」にも卸していた。		サ	89~90
28		伊勢佐木の商店をマス目にした双六（昭和10年発行）にも店の名前が載つていて、それが家に飾つてあつた。 戦争中はみんな配給切符を持って、買い物にきていた。			
29		昭和20年の終戦まで、商業の独壇場だった。横浜唯一の商店街だった。昭和30年に接收が解除され、ビルがどんどん建つた。平沼市長から、「古くて新しい町」と呼ばれていた。		工	83
30		昭和30年から昭和40年の間に横浜駅の西口にダイヤモンド街などができ、発展してきた。こういう風に各駅のまわりが発展していくつて、商業が一極集中から分散型へと変わってきた。分散することで、伊勢佐木町の力が弱まつていった。		工	83
31		平成7年に元コトブキヤだった松屋が馬券売り場になつた。 また、イセザキモールにパチンコ屋が出来、良く捉えればエンターテイメントが復興した。イセザキモールの通行人は元町より1時間当たり1000人通行人が多い。		工	83
32	吉野町	今は松坂屋がないのに人通りがある。今年の12月末に松坂屋の生活館がオープンしたら、もっと人通りが増え、活気づくだろう。イセザキモールは、全国で唯一の終日歩行者天国の場所。		工	83
33		伊勢佐木の商店街のDNAは変わらない。伊勢佐木町は、イベントを多く行い、人を集め。埋立地だったため、人を集めて地を踏み固めていた頃に始まり、見世物小屋で人が集まれば飲食店も増え、自然に商店街となつた。コンサートや寄席というようなイベントは今も多く、町本来の生き方をしているのが伊勢佐木。ユニクロ等の進出から、ビジネスチャンスとしての伊勢佐木の活力も証明されている。		ケ	88
34		昭和10年の生まれで、小さい頃子供たちはみんな伊勢佐木町のあたりを裸足で走り回つていた。		カ	84
35		小さい頃、吉野町の市場まで、さつま揚げなんかを買いにお使いに行っていた。		カ	84
36	戦争	カンカン屋などの肉体労働者の人たちが、路上でヒロポンを注射していた。戦後しばらくは麻薬や壳春の黄金地帯などと呼ばれているような地域もあつた。		ク	86~87
37	北方町	末吉町は、西洋野菜の発祥の地である。		ク	86~87
38	北方町	北方町に松島館という芝居小屋があり、小学校四年くらいの時初めて、曾祖母さんと一緒に芝居を見に行つた。		コ	89
39	野毛	野毛に憲兵隊隊長などの官舎があつた。		カ	84
40	野毛	小学校時代、都橋の向こうに見えたカマボコ兵舎が強く印象に残つている。		カ	84

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
37	野毛	「野毛山公園で占領軍兵士に人形を売る」 概要：昭和20年10月ごろ。占領軍兵士が日本の美術品などを言い値で買つてくれると聞いた当時10歳の私は母と二人で野毛山公園に人形を売りに行った。公園の広場は物を売る人、空腹の日本人などでごった返していた。		チ	94
38		横浜には運河が縦横無尽にはしっていた。中村橋のところにある山の土を使って1859年に港を埋め立てるときに土を運ぶのに運河を使うなど、運河あっての横浜の港だった。 吉田橋 の下も、昔は運河だった。吉田橋の下の運河を埋め立てるのに神奈川宿と保土ヶ谷宿から野毛の切通しを通って人足が集まつた。吉田町は人足町として栄えた。有隣堂も吉田町にあった。		工	83
39	伊勢佐木	空襲の数日後、疎開先の小田原より横浜に入った。川の水が流れなくなるくらい死体が散乱していた。焼夷弾から逃れるため川に飛び込んだが、絶壁の河岸を登れなかつたのではないか。ぼつぼつとビルが焼け残っていたが、あたり一面が建物がなく、長者町に立つと港まで見通すことができた。		ク	86~87
40	伊勢佐木	伊勢佐木町の角のあたりに下士官用の慰安施設があり、その周りに娼婦が集まつてきていた。米兵たちは、わらじのような大きさの肉を食べていた。その食べ残しや缶ビールの飲み残しを拾い、川沿い（大通り）で食べている人がいた。		ク	86~87
41		将校用の施設として、伊勢佐木の不二家が接収されていた。		ク	86~87
42		伊勢佐木町の不二家は、横浜に来てはじめて入ったお店だった。			参加者
43		火事や震災、商業の分散などいろいろな危機があったけど、伊勢佐木町はそういう危機を力に変えていってどんどん発展した。		工	83
44		伊勢佐木町1丁目には、朝鮮戦争で負傷した米軍の偉い人がかかる病院があった。そのために、伊勢佐木町に滑走路があった。		ツ	95~96
45	戦争	元町は、小さいころは今みたいにお店が多かったわけではないけど、オリジナルの商品を扱っているお店が多くて面白かった。 輸入のさいふや靴を扱っていたフクゾウ、帽子屋のウルベ、イギリスの輸入品を扱っていたポピー。ミハマで買った靴を履いて旅行に行ったときは、いい靴だって褒められたわ。やっぱり色々な国の輸入品があった。 川も交易の場でぎわっていたしね。三井物産の船から、不良品を譲ってもらったりもしてね。川もきれいだった。		オ	83~84
46	元町	元町にあった「大活」大正活映で、曙町出身（「岡野乾物店」）のオペラ歌手、紅澤葉子が俳優をしていた。 『横濱行進曲』という劇でこの紅澤葉子の役を、五大路子が演じていたこともある。	1920(大正)9年 大正活映開業	サ	89~90
47	本牧	マッカーサーがくると、まずあつという間に飛行場を作り、飛行場ができると思ったら、カマボコ兵舎が作られた。接収された土地との境には金網が張られ、金網越しに米兵の生活が見えていた。子どもたちが金網の周りに集まって、ギブミーチョコレートと言っていた。		ク	86~87
48	本牧	家の蔵がアメリカ兵に接収された。蔵の扉を壊して、中にしまつてあったカメラや兜、槍などを略奪していくのを金網越しに見ていた。交番に訴えてもどうにもならず、とてもショッキングな出来事だった。		ク	86~87
49	本牧	「あかざ、しろざ、残飯の想い出」 概要：昭和20年夏。空襲で焼け野原となった箇所に野草の「あかざ」、「しろざ」がたくさん自生していた。米の配給が十分ない當時、癖のない「あかざ」、「しろざ」を雑炊に入れて食べていた。 戦後、父が進駐軍の残飯を買って来た。当時、常に空腹だったため、ものすごくおいしく、こんなに美味しいものを食べているアメリカ軍と戦争をして勝てるはずがないと思った。		チ	94
50	本牧	東電に勤めていた父親が、終戦後米軍接収地だった本牧に変電所を作る工事に関わっていた。街中に高压線を通すというので、大変だつたらしい。この変電所ができ、本牧では夜間照明のある米軍野球場等が始まった。		コ	89
51		本牧小港の米軍接収地が思い出になっている。			参加者
52		本牧に米軍のハウスがあった。			参加者
53		小港で海水浴ができた			参加者
54	戦争	山手 タイトル：「このような英語なら俺達でも話せる」 概要：昭和27年。山手のアメリカ人家族が住む白い家に若い日本人女性のメイドがいた。英語が話せるのかとか感心していつも見ていたが、ある日彼女がY e s, N o程度しか話せないのを見、この程度なら俺達でも話せると高校の同級生達と話した。		チ	94

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
55	山手	タイトル：「空襲警報と警察」 概要：昭和19年ごろ。空襲警戒警報が発令された、国民学校からの帰り道に、山手警察署に逃げ込んだが、巡査に追い出され、自宅の防空壕に入つた。なぜ警察署に避難していけなかつたのか、いまだに疑問である。		チ	94
56		マッカーサーの親戚が山手に住んでいた。そのおかげで山手に空襲がなかつたらしい。		ツ	95~96
57		山手付近を歩くと坂など雰囲気がよく、故郷の長崎を思い出す。		参加者	
58		大桟橋は横浜市に一番初めに返された桟橋。東神奈川付近には、「ノースピア」というまだ返還されていない桟橋もある。		ツ	95~96
59		小さい頃よく行った大さん橋。横浜に住んでいる人にとっては普通の風景だが、こういうものがないところに行くと、ああ珍しいものなんだなあと感じる。		参加者	
60		昭和39年から40年頃、港に船がいっぱいいで、港に入るために船が50日くらい待っていることもあった。		テ	96
61		横浜港はGHQが使うために開発された。		ツ	95~96
62	戦争	「横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」」 さすがにこのころの移民船は珍しく、この船が最後の出港となつた。ブラジルへの移民で若い夫婦が多かった。家族・親戚が抱き合つて別れを惜しんでいた。農業大学などの後輩は元気よくあちこちでエールを送つていた。		ソ	91~92
63		赤レンガ倉庫は米軍の刑務所だったことがある。		テ	96
64		米兵の子どもと友達になり、家に招待した。お返しに、山下公園にある高級将校の家に招待された。家中はまさにアメリカという感じだった。クリスマスとか楽しみにしていたが、プレゼントを用意するのに苦労した。		ク	86~87
65		Y校に通っていた。帽子に校章のYの字が入っていたが、戦時は敵国の字ということで、「Y」ではなく「横商」という字を使っていた。		サ	89~90
66		Y校の5年生に上がる前に、縄上げ卒業となって軍需工場に動員になつた。		サ	89~90
67		小学校に上がる前に横浜大空襲にあった。		参加者	
68		本郷台のあたりは軍用の燃料倉庫が多かった。弾薬庫もあつた。		ツ	95~96
69		横浜大空襲の時は、横浜の方の空が赤くなっているのが国府津から見えた。		ク	86~87
70	桜木町事件	桜木町事件。電車が燃え多くの死者が出た。 この事件以後、独立していた車両1両1両が幌でつながり乗客が通り抜けができるようになつたり、窓も大きく聞くようになった。 慰靈碑が桜木町駅の近くにあつたような…	1951(昭和26)年 桜木町事件 ※国鉄桜木町駅構内で電車の1・2両目が炎上し、106人が焼死した。作業ミスによって架線が垂れ下がっていたことによる事故。	テ	96
71		桜木町事件のことをよく覚えている。90人~100人くらい亡くなったのではないか。 そのとき小学校5年生だったが、当時はビルもなく、学校の教室や屋上から現場が見えた。		キ	85~86
72		野毛には鯨通りがあった（たくさん鯨料理の店が並んでいた）		テ	96
73	テ桜木町	桜木デパートっていうのが今のぴおシティの横にある駐車場にあつた。 2階建てで、1階には不二家があって2階はバー街になつてたんだ。		ウ	81~82

テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
野毛山動物園	野毛山動物園の動物たちも、終戦の境のあたりに注射で殺された。		ク	86~87
	昭和25年頃、野毛山動物園にいたハマ子が野毛を歩いたんだ。今にして思えば、港に着いたハマ子を運ぶ手段が無くて、港から野毛山までずっと歩いてきたんじゃないかな。 ちょうど見ていた自分をハマ子に乗せてくれたんだ。半ズボンはいてたんだけど、象の皮膚って固くてざらざらしてて、固い毛が生えてるんだよ。それがチクチクして痛かったなあ。	1951(昭和26)年 「野毛山遊園地」として野毛山動物園開園。ぞうのハマ子来園	ウ	81~82
	ハマ子はインドから来た	1971(昭和46)年 野毛山動物園入口付近に歩道橋架設	ツ	95~96
	昭和30年代、町田から遠足で野毛山動物園やマリンタワーに来た。 あの頃は、動物園といえば上野か野毛山動物園だった。	2003(平成15)年 野毛山動物園改修工事終了、全面開園	ツ	95~96
	野毛山動物園に陸橋が出来た時、息子がテープカットをした。息子が幼稚園の頃で、野毛山幼稚園の子ども達でテープカットを見に行つた。 10年前の冬には、孫が野毛山動物園のリニューアルのテープカットを行つたから、親子2代で野毛山動物園のテープカットを行つたわね。		イ	81
	野毛山動物園前の入口を憶えている。		参加者	
	野毛山動物園に幼稚園の遠足で行き、象のバッヂをもらう		参加者	
露天商	露天商が昭和30年くらいまであったと思うが、当時は一番野毛が華やかな時代だったのではないか。なんでもそろうし、なんでもOKという感じだった。泥棒なんかもいて、家からなくなつた家具が家具屋にいくと売られていたりした。		キ	85~86
	野毛には露天商がたくさんいた。道路の上に60件くらい並んでいたと思う。“おとりさま”を仕切っているのは“とび”だった。		ク	86~87
	昔はいろいろな商売があった。呉服屋とか疊屋とか。露天商では靴とか洋服とか時計を売っていた。だんだん飲食店が増えてきた。今の大岡川沿いに靴屋が多いのは、露天商がなくなった時に靴屋がそこに移った名残。		キ	85~86
	野毛には大きい店ではなく、小さい商店が多くあり、自分で買い物用のかごを持って、商品を買って回っていた。おせんべやあめも一個ずつバラ売りしていた。 木造りのアーケードや露天商もあり、にぎやかだった。 露天商は、バスが通るときに邪魔になるので無くなってしまった。都橋の横の2階建ての建物に移り、今も残っている。夜遅く露天商に遊びに行つたりして、楽しかった。 食べ物も着るものも、やかん、鍋、日用雑貨も、野毛にいれば何でもそろつた。		オ	83~84
	昔は露天商が野毛の大通りから都橋までずっと並んでいたが、それがなくなったのがこのあたりの一番大きな変わったこと。 露天商には、食べ物以外のほとんどの物が売つてあつた。ジーパンとか洋服をよく買つて行った。今のにぎわい座が中区の税務署だったけど、露天商にはハンコも売つてあつた。もうなくなつたけど、横浜銀行野毛支店つていうものもあった。露天商にはなんでも売つてあって、どの世代の人も買つて行つていた。 露天商がなくなったのは、オリンピックの影響。		ア	81
	昭和39年のオリンピックを機に、露天商を都橋沿いの建物に押し込めちゃつた。オリンピックで世界中から人が来るのに、戦後を引きずりたくないなかつたんだろうと思う。露天商が並んでいた頃の町のイメージは「怖い、汚い、暗い」だから。 露天商が無くなつたことで、野毛に来るお客さんが減つた。露天商が無くなることに反発した人たちもいたんだろうが、野毛のあたりにはやくざ者も多かつたから、そういう人たちの力もあって整備されてきたんだろうな。		ウ	81~82
	露天に行けば、あらゆるもののが売つてあつた。野毛もにぎわつていて、村田家もいつだつて行列になつてゐた。あらゆるもののが野毛に集まつてゐた。その分、ヤクザ者も多かつた。		ウ	81~82

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
88	露天商	東京オリンピックのときに露天商を都橋の建物に押し込んでしまい、それで野毛の賑わいが減ってしまったと思う。		力	84
89		ヤミ市と屋台（オリンピックのため撤去された）が思い出として残っている。ザキと野毛にはずらつと並んでいた。		参加者	
90	図書館	受験勉強の図書館をよく利用した。当時はまだ古い建物だった。チラシの建物に見覚えがある。		キ	85~86
91		横浜市立現中央図書館に約60年前のノラクロのマンガを読みに来て楽しかった。		参加者	
92		中学受験の時、野毛の図書館を利用していた。席をとるために朝早くから並んでいた。本は貴重品で、当時は貸出はやっていなかった。		ク	86~87
93		野毛には、どうもろこしを持ち込むと、10円くらい？でポン菓子を作ってくれる店があった。		力	84
94		川で拾ったとうもろこしなどを、野毛の爆発屋でポン菓子にしてもらつた。		キ	85~86
95		小学校のころは崖をのぼったり、木登りしたり、たこ揚げをしたり。テレビがなかった。テレビがきたのは昭和39年くらい。力道山の試合なんかを、電気屋さんのテレビでみた。当時はまだ子どもで、前の方じゃないと見えない。早く行って、場所取りをしたりした。		キ	85~86
96		昔は風呂屋がいくつかあった。自宅に風呂がないので、みんな風呂屋にいった。風呂屋はコミュニケーションの場所だった。		キ	85~86
97		昔と言えば、昭和30年代半ばまで、野毛には馬車が来ていた。乗るためじゃなく、水洗トイレが無かったから、汲み上げた物を積みに来てたんだ。夏の暑いときに、ちょうど砂利からアスファルトに道を整備してたんだけど、ならしたばかりのアスファルトに馬が小便をするから、アスファルトに穴があいちやつたりしたのを覚えている。		ウ	81~82
98	野毛の様子	野毛に来たころ（昭和32年ごろ）は、野毛の大通りには食べ物やさんは會星樓（中華）しかなかった。 今も残っているのは、會星樓とお茶屋の三河屋さん。他は、時計やとか金物屋とかがあったくらい。このあたりで古くからある店は村田家と松本薬局、かめや（寿司屋）。		ア	81
99		昭和26年ごろ氷の販売をしていた。ホテルニューグランドに納品をしていて、それが今でも続いている。		キ	85~86
100		野毛はお父ちゃん・お母ちゃんでやっている店が多い。お客様を大事にするし、お客様の話を聞いてあげたりする場所になっている。店の方も2代目、3代目と受け継がれていっているが、お客様の方も長く付き合って2代目、3代目になつたりしている。お客様と心でつながっている場所だと思う。		キ	85~86
101		草競馬の馬券場が日ノ出町の駅の辺りにあった		テ	96
102		昔は、日ノ出町と桜木町を結ぶ道路は村田家の前の野毛仲通り（当時は野毛駅前仲通り）だったんだよ。今でも、日ノ出町から桜木町までまっすぐ伸びているでしょ。		ウ	81~82
103		野毛には米軍も遊びに来ていて、チョコレートやガソリンとか売っていた。米軍は、野毛にそういうものを売って、そのあとMPとして取り締まりに来てたんだから、全くひどい話だよ。 伊勢佐木町と野毛の間くらいに「根岸屋」っていう24時間営業のお店があって、舟で横浜に着いた船員たちが遊んでいたよ。外国人の人にとっても野毛は遊ぶ町だったんだよ。		ウ	81~82
104		あとは、野毛といえば旅館だね。旅館には2つの目的があって、一つは売春、もう一つは外国への移民のための宿泊所。移民の手続きには日数がかかることがあったからね。黄金町と日ノ出町の間にある山城屋さんなんてその一つだよ。		ウ	81~82
105		野毛浦という浦があったので、今でもウナギ屋が多い。		イ	81
106		昭和30年頃は、どこに働きに行っても、お米の登録証とお布団を持って行っていた。お米の登録証が人口調査をかねていて、お米屋さんが町内のことを探していたのよ。だから町にはお米屋さんはあるでしょ。		オ	83~84
107		今通りにあるマンホールは、家の井戸だった。今はN T Tが使っているが、井戸の内側の淵を囲う竹はそのまま残っている。		力	84
108		通っていた老松小学校の校庭はアスファルトだった。夏場は裸足で立っていると足の裏が暑く、足を踏みかえ踏みかえしていた。		力	84

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
109	野毛の様子	教育委員会主催で藏王にスキーに行く、「市民スキー」というものがあった。野毛や伊勢佐木町の仲間で問題を起こしてしまい、それ以来野毛地区の人間は出入り禁止になった。		力	84
110		食料が配給制だった頃、規制を受けない華僑が野毛に集まって料理屋をやっていた。		力	84
111		野毛には銀行が多かった。浜銀や帝国銀行、三和銀行、三井銀行。経済がしっかりしていたということだと思う。		キ	85~86
112		130年近く続いた「魚幸」は、野毛山の茂木惣兵衛の家や、山を越えた原三溪の家、病院などに仕出もしていた。 ラジオ関東によれば、大正8年10月には山田屋に対して、1860円の売り上げがあった。現在の価格では、2000万円くらいになるらしい。		力	84
113		ある冬、茂木惣兵衛がナスを食べたいと言い出したがなかなか手に入らず、魚幸に依頼がきた。店の若い衆が、鑑賞用のナスがあるのを見つけ、それを買ってきました。		ク	86~87
114	日雇い労働	昭和40年頃、桜木町から都橋にかけて日雇い労働者が集まる場所があった。人が多く集まるため、食堂や飲み屋がたくさんできた。日雇い労働者の日当は1500円くらいだったような（当時の公務員の月給が1万円）		テ	96
115		野毛には税務所や区役所があった。職安もあって、一日はたらいて240円とかだった。日雇いの仕事にあぶれた人が立飲み屋で飲んでたりした。		キ	85~86
116		日雇いの労働者はトラックに詰まれていき、船着場で荷運びをしていた。		キ	85~86
117		野毛には港湾関係の仕事を求める肉体労働者が集まっていた、そういった人たちのハローワークや飲食街になっていた。		ク	86~87
118	ダンス	昭和40年ごろ、「ハマジル（＝横浜ジルバ）」があった。横浜独特のダンスだった。		テ	96
119	遊園地	「全盛期の横浜ドリームランド」敷地面積が一番広かったころの「横浜ドリームランド」。ここへ行くまでのモノレールも珍しかったし、大規模な施設にビックリしたものだった。私のお気に入りは水中を眺められる潜水艦。写真はゲートを入ってすぐの大花壇を見たもの。この日は平日で人出は少なかった。	横浜ドリームランド 1964(昭和39)年開園 2002(平成14)年閉園	ソ	91~92
120	桜木町駅	昭和40年代後半から昭和50年代にかけて、野毛がすたれてきた。三菱造船所が閉所したし、桜木町が終点じゃなくなったらから、桜木町で降りる人が減った。駅と野毛がだんだん遠くなってきた。	1964(昭和39)年 根岸線桜木町-磯子 間開通	ウ	81~82
121		JRは桜木町が終点だった。みんな桜木町で降りて、野毛を通って伊勢佐木町へ行った。	1983(昭和58)年 三菱造船所閉所	キ	85~86
122		今の高島町のあたりが桜木町駅だった。碑が立っているのではないか？		テ	96
123	横浜駅	相鉄線の横浜駅は木造だった		テ	96
124		横浜駅西口には映画館が何館かあった		テ	96
125		横浜駅西口は石炭置き場だった。川があって、そこに石炭が積まれていた。		キ	85~86
126		横浜東口によく遊びにきていた。新橋から汽車に乗るのが楽しみだった。		参加者	
127		昭和39年頃は、野毛から杉田まで市電が通っていた。	1904(明治37)年 横浜電気鉄道により 開業 1921(大正10)年 横浜市が横浜電気鉄道を買収し、市電となる 1972(昭和47)年 市電廃止	オ	83~84
128		野毛には市電が走っていた。どこかへでかけるのはほとんど市電だった。		キ	85~86
129		市電は25円で野毛から杉田まで行けた。よく海水浴にいった。		キ	85~86
130		電車は桜木町までしかなかった。 杉田や蒔田へ行くには、市電に乗らなければいけなかった。		テ	96
131		野毛のあたりには市電が走っていた。生麦、杉田、前里町、洪福寺のあたりを走っていた。		ア	81
132	市電	市電の線路が途切れているところがあった。川沿いに路線が変わったためらしい。		サ	89~90
133		桜木町駅前に市電が集まり、不夜城のようだった。		参加者	

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
134	市電	「廃止直前の横浜市電」 交通渋滞の元凶のように見られ、全国各地で路面電車が次ぎ次ぎに廃止されていった。横浜でもこの年(1972年)3月31日でついに全廃されてしまった。同じくこの年、市営地下鉄伊勢佐木長者駅～上大岡間が開通した。		ソ	91～92
135		磯子に市電が走っていて海が見えた		参加者	
136	鉄道	相鉄線は神中線（じんちゅうせん）という名前だった。神中線は砂利を運んでいた。砂利置き場は今の高島屋の場所。		テ	96
137		昔は海岸線を横須賀まで軍用物資を運ぶための列車が走っていた。単線だった。今もあるかはわからないが、山下公園に続く道に線路が残っていると思う		ツ	95～96
138		市営地下鉄は初め、上大岡駅～伊勢佐木長者町駅間で開通した。 伊勢佐木の商店街は初め地下鉄に反対していたが、いざ駅ができるとなると、自分たちの名前も入れるよう要求したため、「伊勢佐木長者町駅」という長い駅名になった。	1972(昭和47)年 市営地下鉄開業	サ	89～90
139		「閑散としていた新幹線「新横浜」駅前」 新横浜駅は開業してしばらく経っても、こんな状態が続いていた。駅前には広大なタクシー乗り場があり、タクシーが手持ちぶさたにしていた。遠くに「新横浜国際ホテル」だけがポツンと立っている。	1964(昭和39)年 東海道新幹線新横浜駅開業	ソ	91～92
140		当初は地下の区間しかなかったので、薛田の杉山神社に大きな穴を掘って車両を下ろした。その頃はどうやって地下に電車を入れるかという漫才が流行っていた。		サ	89～90
141	横浜スタジアム	横浜スタジアムは、前は平和球場って呼んでたけど、球場下には卓球とか遊べる施設があった。 市役所もまだなかったから、あの辺り一面広場でね。5月のみなと祭には、バザーをやっていた。見世物屋も来ていて、お化け屋敷や食べ物の露店、ヨーヨーや鉛筆つかみもあって、とても楽しみにしていた。	1945(昭和20)年 横浜公園野球場は、アメリカに接収され「ゲーリック球場」と改称	オ	83～84
142		現在の横浜スタジアムは戦後はゲーリック・スタジアムという名前で、夜になるとアメフトの試合をやっていた。 終わり近くになると無料で入ることができる席があったため、近所の子どもたちで、席に残った食べ残しの缶詰のピーナツを集めたりした。	1952(昭和27)年 接収解除され、市営の平和球場となる 1978(昭和53)年 横浜スタジアム開場	カ	84
143	大岡川	石炭とか、大岡川を利用して運搬している業者が多かった。		キ	85～86
144		いまみなどみらいにある鉄橋は昔は貨物の通り道だった。そこから飛び込んで泳いだりしていた。昔は大岡川もきれいだった。		キ	85～86
145		昭和28～35年までの風景・写真（大岡川周辺）を憶えている		参加者	
146		子供の頃、マリンタワーに遊びに行った思い出がある。		参加者	
147		マリンタワーへよく行った。外の階段を使って上つたこともある。		参加者	
148		仕事場が閑内なので思い出深い。		参加者	
149		海が埋立てられたことで途絶えていた奇祭・三〇〇年も続いてきた根岸八幡の祭りを、昭和六十年八月三十年振りに復活させた。担ぐ神輿は白滝不動の水で清めた柳の枝だけで造ります。		シ	90
150	その他横浜について	中学生（昭和50年代）の頃、森林公園でマラソン大会があった。		参加者	
151		薛田公園の近くに寿警察署があった。今は市の施設になっていたよう…		テ	96
152		磯子の山の上は別荘地だった		ツ	95～96
153		プリンスホテルは皇后様の家の土地だった		ツ	95～96
154		磯子駅のあたりも海だった。産業道路あたりまでは海だった。あのあたりの漁師は埋め立てにあたって賠償金（立ち退き料？）をたくさんもらつただろう		ツ	95～96
155		昭和40年付近に、二歳の娘が根岸喘息と診断された。光化学スモッグなどが発生し、健康被害の話を聞くようになった。		シ	90
156		根岸の丘陵地にある根岸競馬場が接収解除された。競馬場を記念して馬事公園も作られている。		シ	90
157		町の人々の健康を支えてくれていた「横浜日赤病院」は「港湾病院」と合併、「みなと赤十字病院」と名を改めて、中区新山下に移転。病院の跡地には、三三〇戸を数える巨大なマンションが建った。		シ	90

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
158	その他横浜について	洋服は、既製品はあまりない時代だったでしょ。舶来ものを扱っている生地屋で好きな生地を買って、洋裁店に持つて行って、洋服に仕立ててもらっていた。 昭和33年当時、4000円のブラウスを、三愛で買ったわね。高島屋が出来る前ね。		オ	83~84
159		藤棚商店街のあたり、現在さびれてしまったが、中学・高校時代の青春の思い出。季刊誌「横濱」にも取り上げられていたと思う。		参加者	
160		昔は、南太田から屏風ヶ浦や野毛山まで海水浴や遠足に行っていた。 屏風ヶ浦まで歩いて行ったため、実際泳げたのは1時間ぐらいだった。		ツ	95~96
161		三溪園裏砂浜での潮干狩りが思い出として残っている。		参加者	
162		三溪園近くで潮干狩りをしたことが思い出として残っている。		参加者	
163	みなとみらい	みなとみらいが小学校だった。		参加者	
164		みなとみらいが少し前はさびしかったが、だいぶにぎやかになった。		参加者	
165		横浜博からのみなとみらいの発展が思い出となっている。		参加者	
166		みなとみらいが変わったことが思い出となっている。		参加者	
167		「大成功を納めた横浜博覧会」 概要：市政100周年・開港130周年を記念して、「宇宙と子どもたち」をテーマに横浜博が開催された。入場予測を上回る大人気で成功をおさめた。	1989(平成元)年 横浜博覧会開催	ソ	91~92
168		「建設中のランドマークタワー」 1989(平成元)年10月、横浜博覧会(YES'89)の終了とともに、その跡地に建てはじめられたランドマークタワー。このころようやく姿を現はじめて、空高くどんどん伸びていった。4つのクレーンが建築の主役で、最後まで大活躍していた。	ランドマーク 1990(平成2)年着工 1993(平成5)年開業	ソ	91~92
169		露天商が消えてしばらくはまだよかつたが、その後伊勢佐木町のデパート、銀行が5、6年で一斉になくなってしまって不便になった。会社の横浜支店といつた馬車道にあるものだったが、この頃から横浜駅西口に移っていました。		ク	86~87
170		野毛の中区税務署もなくなった。中税の署長と言えば出世コースで、池田、佐藤、福田、大平などの歴代総理は20代の頃みんな中税の署長をやっていた。ノンキャリの副署長もここで無事署長を送り出すことができれば、自分も他の税務署の署長になることができた。		ク	86~87
171		今のにぎわい座の場所は、昔中区役所か中税務署だった		テ	96
172		今のにぎわい座の場所には税務署があったんだ。 野毛は物、金、人が集まって潤っていたから、銀行もたくさんあったし、税務署もあったんだ。横浜銀行の野毛支店とか、5つくらいの銀行があつた。税務署は福田赳夫とか大平正芳とかが税務署長としていたことがある有名税務署なんだ。 にぎわい座ははじめは馬車道のところにあって、伊勢佐木に移り、そのあと野毛に移って来たんだ。	2002(平成14)年 横浜にぎわい座開業	ウ	81~82
173	税務署・にぎわい座	今のにぎわい座のところに横浜ニュース劇場があった。マンガもやっていたのでよく見にいった。大人も子どもも30円ぐらいじゃなかったかと思う。 マンガはディズニーとかで、トムと杰リーを見た覚えがある。力道山の試合もやっていた。一週間のニュースというのをやってたから、一週間に一回は通ったよ。	1947(昭和22)年 横浜国際劇場、マッカーサー劇場開業 1950(昭和25~)年代 ニュース劇場開業	キ	85~86
174		にぎわい座は、前は税務署でね。ニュース劇場やマリウス(レコード屋)もあって、野毛は本当に横浜で栄えていた。まだ横浜の西口にも何もなかつたからね。		オ	83~84
175	野球	「横浜ベイスターズ優勝パレード写真の笑い話」 概要：自分がパレードを写した写真に、神奈川新聞社のカメラマンが市役所の屋上から写真を撮っている姿が写っていた。神奈川新聞社のカメラマンが写した写真に、私の写真をとる撮影の姿が写っていた。お互いに写しあつたことになる。		セ	91

テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
176	<p>東急線が廃止されることになってでてきた振興策の中に、大道芸があつた。野毛の人たちで、野毛の振興のために何かやろうって言って、昭和60年の春「野毛祭（のげさい）」を実施した。</p> <p>集まった人たちそれぞれの伝手で、絵を描く人、神輿、ジャズ、フリーマーケット、大道芸をやることになった。そしたら、この大道芸が大人気だったから、翌年からは大道芸で行こうって事になった。</p> <p>そもそも大道芸は、投げ銭をもらうから、道路での商売とみなされて、それまでは違法だったんだ。伊勢佐木警察署にも何度も掛け合ったけれどなかなか許可が出なかつた。人事異動で小田原から町興しにかかわってきた署長が異動てきて、そこでもう一度お願ひに行ったら許可がでたんだ。地元の協力あっての警察だから、警察も地元の力にならなくっちゃといつてくれた。</p> <p>こうやって、全国で初めての合法の大道芸は始つたんだ。今でも野毛大道芸は有名だし、最盛期には80万人の人が来ていた。</p>	2004(平成16)年 横浜 - 桜木町駅 東急東横線廃止 1985(昭和60)年 野毛祭開催 1986(昭和61)年 野毛大道芸として開始	ウ	81~82
177	<p>東急線には、ざくばらんに人が来た。クリスマスイヴにケーキを持って、帽子をかぶって訪ねてくるような町。おなじみさんが多くて、親子4代で通つていて、昔からのお客さんが多い。</p> <p>東横線が無くなつても、おなじみさんは通つてくれた。野毛手形をきっかけにいらっしゃる新規の方もいて、「野毛に来るとほつとする」と言われる。</p>		イ	81
178	昭和50年代半ば頃に野毛から店がなくなり、人が減り、5つくらいあつた銀行が全部なくなった。昭和59年くらいだったかな。		ウ	81~82
179	このあたりで一番大きく変わつたのは、東横の桜木町駅がなくなつたこと。当時商店街に10億円の補助金が出たり、駐車場が入つたりした。		ク	86~87
180	東横線が世田谷まで走つていて。電車に油がしいてあって、ニキビにしみて痛かつた。すごく混んでいた。		キ	85~86
181	松坂屋で販売促進の仕事を担当しており、商店街とのイベントなどに多く携わつていて。閉店後とはいえ、松坂屋の前で路上ライブを行つてゐるのをほつとくわけにはいかないということで、「ゆず担当」が出来た。ゆづは、毎週日曜夜10時から、松坂屋前で路上ライブを行つてゐるので、正面柱の奥に待機していた。紅白に出る際は呉服を用意したり、「ゆずの地元」として取材を受ける中で、ゆづとの関わりが出来た。松坂屋でゆづグッズを販売したこともある。		ケ	88
182	<p>2003年には、松坂屋にゆづのモニュメントが出来て、12月には紅白で松坂屋の前でライブを行つた。紅白出場が決まり、松坂屋の前でライブをしたいという申込みがあつた。当然会場は伏せられていたので、締口令がしかれ、本当に31日の朝まで情報は出なかつた。NHKの中継車を見て人が集まり、ライブの際には人があふれる程だった。</p> <p>松坂屋では、屋内でゆづが通るところに「お帰りなさい」シールを貼つておいて、本人達も気付いてくれた。警察は有隣堂のベランダから警備指揮を取つた。</p>		ケ	88
183	2004年には、松坂屋の屋上に壁画を作成。これは、昔あつた伊勢佐木をプリントして残していこうという「思い出の中の伊勢佐木」という企画の一部で行われ、映画館の看板を描く技師さんが壁画を作成。 ゆづの壁画の前で出会つた、ゆづに励まされたというファンの親子に、松坂屋でのゆづとの関わりの話をした。後日、親子から手紙が送られてきて、人と人との出会いやつながりを感じた。		ケ	88
184	ライブハウス「CROSS STREET」は、ゆづに名前を付けて欲しいという声から、ゆづに命名してもらった。		ケ	88
185	伊勢佐木商店街の人達は、ゆづに対して非常に礼儀正しいという印象を抱いていた。路上ライブをしている二人に対して、商店街で音響設備を買つてあげようか、ライブの際の交通整理など協力しようかという話もあったが、ゆづのファンはマナーも良くその必要もなかつたため、見守つていだ。		ケ	88

(2) みなさまから寄せられたエピソード(提供者別)

ア もみじ菓子司舗 和菓子製造販売 西村さま

昭和32年から野毛に住んでいる。昔は露天商が野毛の大通りから都橋までずっと並んでいたが、それがなくなったのがこのあたりの一一番大きな変わったこと。露天商には、食べ物以外のほとんどの物が売ってあった。ジーパンとか洋服をよく買いに行った。今のにぎわい座が中区の税務署だったけど、露天商にはハンコも売ってあった。もうなくなったけど、横浜銀行野毛支店っていうのもあった。露天商にはなんでも売ってあって、どの世代の人も買いに行っていた。露天商がなくなったのは、オリンピックの影響。オリンピックがあるのに見栄えが悪いっていうことで、撤廃して、あの川沿いの2階建ての建物に全部入れられた。

野毛のあたりには市電が走っていた。生麦、杉田、前里町、洪福寺のあたりを走っていた。

野毛に来たころ（昭和32年ごろ）は、野毛の大通りには食べ物やさんは會星樓（中華）しかなかった。今も残っているのは、會星樓とお茶屋の三河屋さん。他は、時計やとか金物屋とかがあつたくらい。このあたりで古くからある店は村田家と松本薬局、かめや（寿司屋）。

もみじのお菓子は、昭和32年ごろと何も変わっていないといつてもいいくらい。

イ 福家 おかみさん

野毛山動物園に陸橋が出来た時、息子がテープカットをした。息子が幼稚園の頃で、野毛山幼稚園の子ども達でテープカットを見に行つた。野毛山動物園のプールには、主人が息子を連れて行つてた。水泳大会のアナウンスが聞こえてくると、夏が来たと感じた。10年前の冬には、孫が野毛山動物園のリニューアルのテープカットを行つたから、親子2代で野毛山動物園のテープカットを行つたわね。

戦後は、伊勢佐木町にも遊びに行つてた。野沢屋さんのマークが「兎」だったので、「いりく」と呼んでいた。昭和32年にお嫁に來た。野毛浦という浦があったので、今でもウナギ屋が多い。野毛には、気軽に人が來た。クリスマスイヴにケーキを持って、帽子をかぶつて訪ねてくるような町。おなじみさんが多くて、親子4代で通つていて、昔からのお客さんが多い。東横線が無くなつても、おなじみさんは通つてくれた。今は、野毛手形をきっかけにいらっしゃる新規の方もいて、ありがたい。「野毛に來るとほっとする」と言われる。息子の同級生の男の子たちは野毛に今でもいて、息子は町づくり会に参加している。先日、朝市をやってくじらの唐揚げをやつた。若い人が集まつてくれてうれしい。一国一城の主なので意見が合わないこともあるけれど、ぶつかりあつて、良いものが生まれる。

ウ 村田家 藤澤さま

昭和39年のオリンピックを機に、露天商を都橋沿いの建物に押し込めちやつた。オリンピックで世界中から人が來るのに、戦後を引きずりたくなかつたんだろうと思う。露天商が並んでいた頃の町のイメージは「怖い、汚い、暗い」だから。露天商が無くなつたことで、野毛に來るお客様が減つた。露天商が無くなることに反発した人たちもいただろうが、野毛のあたりにはヤクザ者も多かつたから、そういう人たちの力もあって整備されてきたんだろうな。

昔と言えば、昭和30年代半ばまで、野毛には馬車が來ていた。乗るために水洗トイレが無かつたから、汲み上げた物を積みに來てたんだ。夏の暑いときに、ちょうど砂利からアスファルトに道を整備してたんだけど、ならしたばかりのアスファルトに馬が小便をするから、アスファルトに穴があいちやつたりしたのを覚えている。

露天に行けば、あらゆるものが売ってあった。野毛にもぎわっていて、村田家もいつだって行列になっていた。あらゆるものが野毛に集まっていた。その分、ヤクザ者も多かった。

昭和40年代後半から昭和50年代にかけて、野毛がすたれてきた。三菱造船所が閉所したし、桜木町が終点じゃなくなったから、桜木町で降りる人が減った。駅と野毛がだんだん遠くなってきた。

昭和25年頃、野毛山動物園にいたハマ子が野毛を歩いたんだ。今にして思えば、港に着いたハマ子を運ぶ手段が無くて、港から野毛山までずっと歩いてきたんじゃないかな。ちょうど見ていた自分をハマ子に乗せてくれたんだ。半ズボンはいてたんだけど、象の皮膚って固くてざらざらして、固い毛が生えてるんだよ。それがチクチクして痛かったなあ。

昔は、日ノ出町と桜木町を結ぶ道路は村田家の前の野毛仲通り（当時は野毛駅前仲通り）だったんだよ。今でも、日ノ出町から桜木町までまっすぐ伸びているでしょ。

野毛にはパチンコ屋さん（モナコ、ホームラン）とか映画館とか遊ぶ場所がたくさんあったな。遊びと食事は野毛が一番って感じだった。今のJRAは吉本劇場や国際劇場っていう映画館だったんだ。映画館って言っても、当時は映画だけじゃなく、歌謡ショーとかもやってたんだ。そこで美空ひばりはデビューしたんだよ。あと、野毛山にはプールがあって、50mもあるプールで、まわりがコロッセオみたいになってるんだけど、そこでプロレスの興行とかもやってたなあ。遠藤幸吉っていう力道山のパートナーの事務所が近くにあって、遠藤幸吉もそこで興行やってたなあ。あと、そのプールは大会とかにも使えるような立派なプールだったんだけど、叶屋のもう亡くなった御主人がそのプールで泳いだことがあるって自慢気に言っていたな。

今のにぎわい座の場所には税務署があったんだ。野毛は物、金、人が集まって潤っていたから、銀行もたくさんあったし、税務署もあったんだ。横浜銀行の野毛支店とか、5つくらいの銀行があった。税務署は福田赳夫とか大平正芳とかが税務署長としていたことがある有名税務署なんだ。にぎわい座ははじめは馬車道のところにあって、伊勢佐木にうつり、その後野毛に移って來たんだ。

野毛には米軍も遊びに来ていて、チョコレートやガソリンとか売ってた。米軍は、野毛にそういうものを売って、そのあとMPとして取り締まりに来てたんだから、全くひどい話だよ。伊勢佐木町と野毛の間くらいに「根岸屋」っていう24時間営業のお店があって、舟で横浜に着いた船員たちが遊んでいたよ。外国人の人にとっても野毛は遊ぶ町だったんだよ。

あとは、野毛といえば旅館だね。旅館には2つの目的があって、一つは売春、もう一つは外国への移民のための宿泊所。移民の手続きには日数がかかることがあったからね。黄金町と日ノ出町の間にある山城屋さんなんてその一つだよ。

あと、桜木デパートっていうのが今のびおシティの横にある駐車場にあった。2階建てで、1階には不二家があって2階はバー街になってたんだ。

昭和50年代半ば頃に野毛から店がなくなり、人が減り、5つくらいあった銀行が全部なくなった。昭和59年くらいだったかな。東急線が廃止されることになって、野毛に人を集めなければという上で振興策として、芝居小屋をよぶ話が出て来て、にぎわい座が税務署後にできたんだ。大道芸の拠点になるっていう話も出たんだけど、歌丸さんの力かな。

東急線が廃止されることになってできた振興策の中に、大道芸があった。野毛の人たちで、野毛の振興のために何かやろうって言って、昭和60年の春「野毛祭（のげさい）」を実施した。集まった人たちそれぞれの伝手で、絵を描く人、神輿、ジャズ、フリーマーケット、大道芸をやることになった。そしたら、この大道芸が大人気だったから、翌年からは大道芸で行こうって事になった。そもそも大道芸は、投げ銭をもらうから、道路での商売とみなされて、それまでは違法だったんだ。伊勢佐木警察署にも何度も掛け合ったけれどなかなか許可が出なかった。人事異動で小田原から町興しにかかわってきた署長が異動ってきて、そこでもう一度お願ひに行ったら許可がでたんだ。地元の協力あっての警察だから、警察も地元の力にならなくっちゃといってくれた。こうやって、全国で初めての合法の大道芸は始まったんだ。今でも野毛大道芸は有名だし、最盛期には80万人の人が来ていた。

工 むさしや津田商店 津田さま

伊勢佐木町はエンターテイメントから出発した。

明治7年に埋めたてが完了し、羽衣町にあった芝居小屋、寄席、的に矢を打つ遊び場などが伊勢佐木町に移ってきた。このエンターテイメント施設と松坂屋の跡地にあった常清寺を目当てに人がどんどん集まってきた。

伊勢佐木町3丁目辺りには両国屋（きらくや）やにぎわい座があり、東京でやるような芝居を伊勢佐木町で見ることが出来た。また、デパートの前身である勧工場が芝居小屋の下にでき、だんだん独立した勧工場ができてきた。

明治32年、大きな火事があつて辺り一帯焼け野原となった。その結果、伊勢佐木町には大きな道が出来た。この頃に、伊勢佐木町はエンターテイメントの街から商売の街に変わっていく転換期を迎えたように思う。伊勢佐木町に野沢屋、松屋（元町で呉服屋として出てきた）という大手企業が進出してきて、商売の街に変わってきた。その後、震災まで伊勢佐木町は商業地となつた。

横浜には運河が縦横無尽にはしっていた。中村橋のところにある山の土を使って1859年に港を埋め立てるときに土を運ぶのに運河を使うなど、運河あつての横浜の港だった。吉田橋の下も、昔は運河だった。吉田橋の下の運河を埋め立てるのに神奈川宿と保土ヶ谷宿から野毛の切通しを通つて人足が集まつた。吉田町は人足町として栄えた。有隣堂も吉田町にあった。

昭和20年の終戦まで、商業の独壇場だった。横浜唯一の商店街だった。昭和30年に接収が解除され、ビルがどんどん建つた。平沼市長から、「古くて新しい町」と呼ばれていた。昭和30年から昭和40年の間に横浜駅の西口にダイヤモンド街などができる、発展してきた。こういう風に各駅のまわりが発展していく、商業が一極集中から分散型へと変わってきた。分散することで、伊勢佐木町の力が弱まつていった。

平成7年に元コトブキヤだった松屋が馬券売り場になった。また、イセザキモールにパチンコ屋が出来、良く捉えればエンターテイメントが復興した。イセザキモールの通行人は元町より1時間当たり1000人通行人が多い。今は松坂屋がないのに人通りがある。今年の12月末に松坂屋の生活館がオープンしたら、もっと人通りが増え、活気づくだろう。イセザキモールは、全国で唯一の終日歩行者天国の場所。

火事や震災、商業の分散などいろいろな危機があつたけど、伊勢佐木町はそういう危機を力に変えていってどんどん発展した。

明治になって、芝居小屋が映画館に変わっていった。特に戦後は映画の絶頂期だった。オデヲン座は洋画の封切館（封を切つて一番に放映する映画館）だった。にぎわい座や両国屋も東映、松竹、ピカデリー座などに変つていった。

オ 泰華樓の店員さん

昭和39年頃は、野毛から杉田まで市電が通つてゐた。大きい店はなく、小さい商店が多くあり、自分で買い物用のかごを持って、商品を買って回つてゐた。おせんべいやあめも一個ずつバラ売りしていた時代。木造りのアーケードや露天商もあり、にぎやかだった。露天商は、バスが通るときに邪魔になるので無くなつてしまつた。都橋の横の2階建ての建物に移り、今も残つてゐる。お正月は1日しか休みがなく、忙しかつた。夜遅く露天商に遊びに行つたりして、楽しかつた。食べ物も着るものも、やかん、鍋、日用雑貨も、野毛にいれば何でもそろつた。にぎわい座は、前は税務署でね。「ニュース劇場」や「マリウス」（レコード屋）もあって、野毛は本当に横浜で栄えていた。まだ横浜の西口にも何もなかつたからね。横浜スタジアムは、前は「平和球場」って呼んでたけど、球場下には卓球とか遊べる施設があつた。市役所もまだなかつたから、あの辺り一面広場でね。5月の港祭りには、バザーをやつてゐた。見世物屋も來ていて、お化け屋敷や食べ物の露店、ヨーヨーや鉛筆つかみもあって、とても楽しみにしていた。

洋服は、既製品はあまりない時代だったでしょ。舶来ものを扱っている生地屋で好きな生地を買って、洋裁店に持つて行って、洋服に仕立ててもらっていた。昭和33年当時、4000円のブラウスを、三愛さんで買ったわね。高島屋さんが出来る前ね。

昭和30年頃は、どこに働きに行っても、お米の登録証とお布団を持って行っていた。お米の登録証が人口調査をかねていて、お米屋さんが町内のことを探していたのよ。だから町にはお米屋さんはあるでしょ。

元町は、小さいころは今みたいにお店が多かったわけではないけど、オリジナルの商品を扱っているお店が多くて面白かった。輸入のさいふや靴を扱っていたフクゾー、帽子屋のウルベ、イギリスの輸入品を扱っていたポピー。ミハマで買った靴を履いて旅行に行ったときは、いい靴だって褒められたわ。やっぱり色々な国の輸入品があった。川も交易の場でぎわっていたしね。三井物産の船から、不良品を譲ってもらったりもしてね。川もきれいだった。

カ 山本さま

- ・震災後、野毛大通りの道幅が広がった。その時家の土地を無償で提供した。
- ・今、通りにあるマンホールは、家の井戸だった。今はNTTが使っているが、井戸の内側の淵を囲う竹はそのまま残っている。
- ・今、JRAがある場所は、戦前は憲兵司令部だったが、その後、マッカーサー劇場・国際劇場となり、今では180度イメージの違う建物になった。
- ・野毛に憲兵隊隊長などの官舎があった。
- ・山本さんの家は、10年ほど前に店を畳むまで、1869年から130年近く続く魚屋だった。店の名前は「魚幸」で、野毛の茂木惣兵衛の家や、山を越えた原三溪の家、病院などに仕出もしていた。板前が3、4人いた。
- ・近くの山田屋とも取引があり、ラジオ関東によれば、大正8年10月には山田屋に対して、1860円の売り上げがあった。現在の価格では、2000万円くらいになるらしい。
- ・茂木家とのつながりは深く、ある冬、茂木惣兵衛がナスを食べたいと言い出したがなかなか手に入らず、「魚幸」に依頼がきた。店の若い衆が、鑑賞用のナスがあるのを見つけ、それを買ってきた。
- ・現在の横浜スタジアムは戦後はゲーリック・スタジアムという名前で、夜になるとアメフトの試合をやっていた。終わり近くになると無料で入ることができる席があったため、近所の子どもたちで、席に残った食べ残しの缶詰のピーナツを集めたりした。
- ・野毛には、とうもろこしを持ち込むと、10円くらい?でポン菓子を作ってくれる店があった。
- ・昭和10年の生まれで、小さい頃子供たちはみんな伊勢佐木町のあたりを裸足で走り回っていた。
- ・通っていた老松小学校の校庭はアスファルトだった。夏場は裸足で立つてると足の裏が暑く、足を踏みかえ踏みかえしていた。
- ・小学校時代、都橋の向こうに見えたカマボコ兵舎が強く印象に残っている。
- ・中学時代はまだ食料不足で、半日授業だった。
- ・教育委員会主催で藏王にスキーに行く、「市民スキー」というものがあった。野毛や伊勢佐木町の仲間で問題を起こしてしまい、それ以来野毛地区の人間は出入り禁止になった。
- ・東京オリンピックのときに露天商を都橋の建物に押し込んでしまい、それで野毛の賑わいが減ってしまったと思う。
- ・食料が配給制だった頃、規制を受けない華僑が野毛に集まって料理屋をやっていた。
- ・小さい頃、吉野町の市場まで、さつま揚げなんかを買いにお使いに行っていた。

キ 野毛で活躍中のみなさま

- ・受験勉強の図書館をよく利用した。当時はまだ古い建物だった。チラシの建物に見覚えがある。
- ・昭和26年ごろ氷の販売をしていた。ホテルニューグランドに納品をしていて、それが今でも続いている。
- ・桜木町事件のことをよく覚えている。90人～100人くらい亡くなったのではないか。そのとき小学校5年生だったが、当時はビルもなく、学校の教室や屋上から現場が見えた。
- ・市電が走っていた。どこかへでかけるのはほとんど市電だった。
- ・市電は25円で野毛から杉田まで行けた。よく海水浴にいった。
- ・東横線が世田谷まで走っていた。電車に油がしいてあって、ニキビにしみて痛かった。すごく混んでいた。
- ・みなとみらいは新興都市で、こちら（野毛）はお年寄りの受け皿になっている。みなとみらいにないものをこちらで受け入れていこうという姿勢が野毛にはあって、それが野毛が生き延びている理由だと思う。お年寄りは昔の野毛をよく覚えていて、焼き鳥屋さんなんかで仲良く話をしたりしたが、だんだんそういう人が少なくなってきた。今は新しい店もしてきた。
- ・露天商が昭和30年くらいまであったと思うが、当時は一番野毛が華やかな時代だったのでないか。なんでもそろうし、なんでもOKという感じだった。泥棒なんかもいて、家からなくなった家具が家具屋にいくと売られていたりした。
- ・横浜駅西口は石炭置き場だった。川があって、そこに石炭が積まれていた。
- ・大岡川の川沿いに材木置き場があった。輸送は川でしていた。
- ・川で拾ったとうもろこしなどを、野毛の爆発屋でポン菓子にしてもらった。
- ・JRは桜木町が終点だった。みんな桜木町で降りて、野毛を通って伊勢佐木町へ行った。
- ・税務所や区役所があった。職安もあって、一日はたらいて240円とかだった。日雇いの仕事にあぶれた人が立飲み屋で飲んでたりした。
- ・日雇いの労働者はトラックに詰まっていた、船着場で荷運びをしていた。
- ・野毛には銀行が多かった。浜銀や帝国銀行、三和銀行、三井銀行。経済がしっかりしていたということだと思う。
- ・有隣堂や、マッカーサー劇場、国際劇場があったのを覚えている。金物店を営んでいたが、店に美空ひばりがスリッパを買いにきたことがある。
- ・今のにぎわい座のところに横浜ニュース劇場があった。マンガもやっていたのでよく見にいった。大人も子どもも30円ぐらいじゃなかったかと思う。マンガはディズニーとかで、トムとジェリーを見た覚えがある。力道山の試合もやっていた。一週間のニュースというのをやってたから、一週間に一回は通ったよ。
- ・野毛劇場でナイトショーをやっていて、鞍馬天狗なんかを見た。
- ・正月には門松をたてたが、正月明けに雪が降ると、門松の竹を二つに割ってスキー板にした。それで野毛山を滑った。
- ・昔はいろいろな商売があった。呉服屋とか疊屋とか。露店商では靴とか洋服とか時計を売っていた。だんだん飲食店が増えてきた。今の大岡川沿いに靴屋が多いのは、露店商がなくなった時に靴屋がそこに移った名残。
- ・石炭とか、大岡川を利用して運搬している業者が多かった。
- ・昔は三菱ドックの人が野毛に流れてきていた。役所の人もみんな野毛に集まって飲んでいた。野毛はかざらない所で、気楽に飲める場所だと思う。
- ・野毛はお父ちゃん・お母ちゃんとやっている店が多い。お客様を大事にするし、お客様の話を聞いてあげたりする場所になっている。店の方も2代目、3代目と受け継がれていっているが、お客様の方も長く付き合って2代目、3代目になったりしている。お客様と心でつながっている場所だと思う。
- ・昔は先輩と後輩で飲みに来て、そうやってだんだん世代が受け継がれていった。今はそういうことが少なくなってきたように思う。昔はみんな野毛の方に降りてきたのが、最近は少なくなってきたようにも感じる。

- 幼稚園にいく子に「いってらっしゃい」「おかえり」って声をかけたりして、誰かが子どもに目を向けていた。近所の道路で遊んでいたりして、何かすると近所の人に怒られたりしていた。そういうつながりが今はなくなってきた。
- 小学校のころは崖をのぼったり、木登りしたり、たこ揚げをしたり。テレビがなかった。テレビがきたのは昭和39年くらい。力道山の試合なんかを、電気屋さんのテレビでみた。当時はまだ子どもで、前の方じゃないと見えない。早く行って、場所取りをしたりした。
- 野毛山動物園は最初は有料だった。飛鳥田市長のときに無料になった。
- 昔はいわゆるヤクザが多かった。サルベージ屋とかも。でも、そんな悪さはしなかった。トントン屋っていって、船にペンキを塗る前にサビを落とす仕事もあった。
- いまみなとみらいにある鉄橋は昔は貨物の通り道だった。そこから飛び込んで泳いだりしていた。昔は大岡川もきれいだった。
- 昔は風呂屋がいくつかあった。自宅に風呂がないので、みんな風呂屋にいった。風呂屋はコミュニケーションの場所だった。

ク 吉田興産株式会社 代表のみなさま

- 吉田新田は開拓から400年になるが、横浜は開港からまだ150年で、横浜は孫みたいなもの。
- 江戸の大火で材木商として財をなした吉田勘兵衛が、仕入れで通る横浜に目をつけ、幕府に埋め立てを願い出たのが吉田新田の始まり。
- 埋立てた土地は今現在宅地になっているところで36万坪、18ホールのゴルフ場2つ分。道路などを含めたら、その倍くらいになるのではないか。
- 将軍も吉田新田に鷹狩りにきていたらしい。
- 末吉町は、西洋野菜の発祥の地である。(開港後)
- 社長の父親で11代目となる。10代目までは代々勘兵衛を襲名していたが、11代のときは震災・戦争など大変なことが続き勘兵衛の名は継がなかった。
- 埋立地を貫くのが大岡川。横浜は川をたくさん埋立てている。
- 3・11の震災の時も、ほとんど液状化しなかった。違う土を何層にも入れているため、びくともしないらしい。
- 震災後2年経つてから生まれたが、当時は震災で怪我をした人が身近にかなりいて、震災が現実の問題だった。
- 東ヶ丘の幼稚園から、吉田小学校に行っていた。
- 戦争が近づくと色々なものが変化し、子供心に戸惑った。例えば野球をやっていたが、ピッチャーが投手、キャッチャーが捕手、というように全部漢字に変わった。甘味の味付けが砂糖ではなくサッカリンになったり、お弁当に白米を持っていくと贅沢扱いされたりするようになった。
- 小4のとき集団疎開させられたが、食べ物のなさに3日間しか堪えられず、母親の実家のある小田原の方に疎開した。
- 戦前は生物の時間にカエルやヤモリの解剖をよくしていたが、戦後はなくなった。
- アンゴラウサギが一匹ずつ子どもに渡され、子どもたちはそれを世話をした。大きくなったところで潰して、なめした皮は満州に送られた。肉は自分達で食べてよいことになっていた。
- 戦中、母親の実家の多きな鉄の門から牛の鼻輪にいたるまで、金目のものは全部はずして持っていた。
- 食べ物がない時代だったので、色々な経験をし、たくましくなった。農家の漬柿や芋、大根をこっそりとて食べた。川に農業用の電線を入れ、感電して浮いてきた魚を焼いて食べた。(小田原)
- 野毛山動物園の動物たちも、終戦の境のあたりに注射で殺された。
- 馬はまだ背が足らず乗れなかつたので、牛に乗っていた。小田原の町を練り歩いたら米兵に写真を撮られた。

- ・横浜大空襲の時は、横浜の方の空が赤くなっているのが国府津から見えた。
- ・空襲の数日後、疎開先の小田原より横浜に入った。川の水が流れなくなるくらい死体が散乱していた。焼夷弾から逃れるため川に飛び込んだが、絶壁の河岸を登れなかつたのではないか。
- ・ぽつぽつとビルが焼け残っていたが、あたり一面が建物がなく、長者町に立つと港まで見通すことができた。
- ・マッカーサーがくると、まずあつという間に飛行場を作り、飛行場ができたと思ったら、カマボコ兵舎が作られた。接收された土地との境には金網が張られ、金網越しに米兵の生活が見えていた。
- ・長者町の家の蔵も接收され、金網の向こうに入ってしまった。米兵が蔵を扉を開け、中の品を盗っていく一部始終を金網越しに見ていた。煉瓦の中に生砂を入れたとても丈夫な蔵で、飛行場を作る時にも壊せなかつたらしい。扉の蝶番を火炎放射器で焼いて壊そうとしたが、それでも扉は少ししか開かず、結局やせたアメリカ兵がその隙間から入つていった。中にはライカや槍、兜などが入れてあったが、全部アメリカ兵が持つていつてしまつた。槍は扉から出せなかつたため、柄をはずし穂の部分だけ持つていつた。交番にいつて訴えてもどうにもならず、ショッキングな出来事として記憶に残つてゐる。
- ・伊勢佐木町の角のあたりに下士官用の慰安施設があり、その周りに娼婦が集まつてきていた。米兵たちは、わらじのような大きさの肉を食べていた。その食べ残しや缶ビールの飲み残しを拾い、川沿い（大通り）で食べている人がいた。
- ・将校用の施設として、伊勢佐木の不二家が接收されていた。
- ・米兵の子どもと友達になり、家に招待した。お返しに、山下公園にある高級将校の家に招待された。家の中はまさにアメリカという感じだった。クリスマスとか楽しみにしていたが、プレゼントを用意するのに苦労した。
- ・金網の周りに子供たちが集まり、ギブミーチョコレートをやつていた。
- ・中学受験の時、野毛の図書館を利用していた。席をとるために朝早くから並んでいた。本は貴重品で、当時は貸出はやっていなかつた。ページを破つたりすると他の人に迷惑がかかるので、そういうことはやらなかつた。
- ・開墾後、吉田新田には全国から人が集まつてきた。芝居小屋・映画館など、なんでもあつた。
- ・野毛には露天商がたくさんいた。道路に60件くらいあつたと思う。
- ・港湾関係の人たちが集まつていた。野毛は、そういった人たちのハローワークや飲食街になつてゐた。
- ・カンカン屋などの肉体労働者の人たちが、路上でヒロポンを注射していた。戦後しばらくは、麻薬や売春の黄金地帯などと呼ばれるような地域もあつた。
- ・“おとりさま”を仕切つてゐるのは“とび”だつた。
- ・露天商が消えてしばらくはまだよかつたが、その後伊勢佐木町のデパート、銀行が5、6年で一斉になくなつてしまつて不便になつた。
- ・会社の横浜支店といつたら馬車道にあるものだつたが、この頃から横浜駅西口に移つていつた。
- ・このあたりで一番大きく変わつたのは、東横の桜木町駅がなくなつたこと。当時商店街に10億円の補助金が出たり、駐車場が入つたりした。
- ・野毛の中区税務署もなくなつた。中税の署長と言えば出世コースで、池田、佐藤、福田、大平などの歴代総理は20代の頃みんな中税の署長をやつていた。ノンキャリの副署長もここで無事署長を送り出すことができれば、自分も他の税務署の署長になることができた。
- ・野毛は「ダービーの町」と言つてゐた。一時は競艇などのギャンブル系の施設を野毛に集め、夜の町として復活しようという考えもあつた。

ケ 石田隆さま（伊勢佐木1・2丁目地区商店街振興組合 企画宣伝部長）

松坂屋

現在は、ぽっかり建物がなくなってしまっている。松坂屋には、従業員も入ったことのない秘密の部屋があった。お客様からは見えない、バックヤードにあった。松坂屋は増改築を繰り返していたために、そんな部屋が出来た。歴史的建造物のため、外壁沿いに足場を作つて、壁面落下防止の作業を行つた。その際に間近に外壁を見たが、素晴らしく、落下物を記念にもらつたりした。自分が伊勢佐木で働くと思ったのは、小学校の頃、母親に連れられて、一度だけ「野沢屋」に来たことがきっかけ。その時の野沢屋の店員さんがとても親切で記憶に残り、伊勢佐木の百貨店に勤めることになった。

伊勢佐木商店街

伊勢佐木の商店街のDNAは変わらない。伊勢佐木町は、イベントを多く行い、人を集め。埋立地だったため、人を集めて地を踏み固めていた頃に始まり、見世物小屋で人が集まれば飲食店も増え、自然に商店街となった。コンサートや寄席というようなイベントは今も多く、町本来の生き方をしているのが伊勢佐木。ユニクロ等の進出から、ビジネスチャンスとしての伊勢佐木の活力も証明されている。

ゆず

松坂屋で販売促進の仕事を担当しており、商店街とのイベントなどに多く携わっていた。閉店後とはいえ、松坂屋の前で路上ライブを行つてゐるのをほっとくわけにはいかないということで、「ゆず担当」が出来た。ゆずは、毎週日曜夜10時から、松坂屋前で路上ライブを行つていて、正面柱の奥に待機していた。紅白に出る際は呉服を用意したり、「ゆずの地元」として取材を受ける中で、ゆずとの関わりが出来た。松坂屋でゆずグッズを販売したこともある。2003年には、松坂屋にゆずのモニュメントが出来て、12月には紅白で松坂屋の前でライブを行つた。紅白出場が決まり、松坂屋の前でライブをしたいという申込みがあった。当然会場は伏せられていたので、箇口令がしかれ、本当に31日の朝まで情報は出なかつた。NHKの中継車を見て人が集まり、ライブの際には人があふれる程だつた。松坂屋では、屋内でゆずが通るところに「お帰りなさい」シールを貼つておいて、本人達も気付いてくれた。警察は有隣堂のベランダから警備指揮を取つた。2004年には、松坂屋の屋上に壁画を作成。これは、昔あつた伊勢佐木をプリントして残していこうという「思い出の中の伊勢佐木」という企画の一部で行われ、映画館の看板を描く技師さんが壁画を作成。ゆずの壁画の前で出会つた、ゆづに励ましたというファンの親子に、松坂屋でのゆずとの関わりの話をした。後日、親子から手紙が送られてきて、人と人との出会いやつながりを感じた。ライブハウス「CROSS STREET」は、ゆづに名前を付けて欲しいという声から、ゆづに命名してもらった。

商店街の人達は、ゆづに対して非常に礼儀正しいという印象を抱いていた。路上ライブをしている二人に対して、商店街で音響設備を買ってあげようか、ライブの際の交通整理など協力しようかという話もあったが、ゆづのファンはマナーも良くその必要もなかつたため、見守つていた。

コ 石田榮一さま

私が初めて芝居を見た時の話です。私が小学校の四年くらいの時の事です。当時私の家は大家族で、ヒイおばあちゃんがかくしやくとして一緒に住んでおりました。そしてある日そのヒイおばあちゃんが芝居に連れて行ってくれたのです。当時親戚の子が遊びに来ておりまして、二人を連れて近くに住んでいたヒイおばあちゃんの娘の人と一緒に芝居見物を行ったのです。

当時の事を書いたものを読むと北方町に松島館という芝居小屋があったと書いてあります。私の幼い記憶と記事が大体合っているので行ったのは松島館だと思います。幼い私は普通の家の間にこのような芝居小屋があったのが強く印象に残っております。当時はテレビ等無い訳ですからその家の中で話に聞いた芝居の演じられるのを見たのが印象に残っています。

まだ子供にとっては世の中が比較的穏やかな頃のなつかしい思い出です。

終戦後、まだ米軍が進駐軍と言われていた頃の事です。父が東電に勤めていた関係で米軍接収地の本牧に変電所を作る時の話です。米軍の命令で一定の期日迄に変電所を作らなければならぬので大変だったと思います。私の家は空襲に焼けなかつたので割合に広い離れが空いていました。そこに作業をする人が七、八人泊まり込んで仕事をしたのです。まだ食堂など無い時でしたから、食事をする母は大変でした。私は昼間は学校に通っていましたので、工事についてはよく分かりませんが朝晩は大所帯でした。

町の中に高圧線を引くのに人の住んでいないところを通さないといけないので場所の選定が大変だと言う事でした。期日が迫るとコンクリートの基礎がまだよく固まらないうちに変圧器を載せたりしたむずかしい工事だったと聞いております。

そのようにして変電所が出来て本牧には夜間照明のある米軍野球場等が始まったのでした。

サ 横浜戦災遺族会会員 岡野利男さま

- ・父親の代から、曙町で「岡野乾物店」という食料品店をやっていた。砂糖や小麦粉を扱っていて、「みのや本店」にも卸していた。
- ・伊勢佐木の商店をマス目にした双六（昭和10年発行）にも店の名前が載っていて、それが家に飾ってあった。
- ・戦争中はみんな配給切符を持って、買い物にきていた。
- ・「岡野乾物店」の前の家主は友野きぬさんという人で、米問屋をやっていた。友野きぬさんの娘の友野はなという人は、「紅澤葉子」という芸名でオペラ歌手をやっていた。その頃はこういう職業についての視線が厳しく、親からもだいぶ反対されたらしい。
- ・紅澤葉子は九州から帰ってくると、「大活」（大正活映、1920-1922、元町）に飛び込んで俳優をやっていた。
- ・『横濱行進曲』という劇で紅澤葉子の役を、五大路子が演じていたこともある。
- ・市営地下鉄は初め、上大岡駅～伊勢佐木長者町駅間で開通した。
- ・伊勢佐木の商店街は初め地下鉄に反対していたが、いざ駅ができるとなると、自分たちの名前も入れるよう要求したため、「伊勢佐木長者町駅」という長い駅名になった。
- ・当初は地下の区間しかなかったので、蒔田の杉山神社に大きな穴を掘って車両を下ろした。当時、どうやって地下鉄に電車を入れるかという漫才が流行っていた。

- ・国民小学校の最後の卒業生で、その後はY校に通っていた。帽子に校章のYの字が入っていたが、戦時はアルファベットは敵国の字ということで、「Y」でなく「横商」という字を使っていた。Y校5年生に上がる前に、縛上げ卒業となって軍需工場に動員になった。
- ・昭和47年、空襲から20年経ってやっと、三ツ沢の墓地で戦災者慰靈祭が行われた。母親も挨拶に出ていた。
- ・市電の線路が途切れているところがあった。川沿いに路線が変わったためらしい。

シ 新井暁美さま

結婚後、夫が生まれ育った横浜で暮らすようになったのは昭和四十年の晩秋の頃。家は根岸湾沿いの町にあった。眼前に広がるのは海ではなく、石油タンクが並ぶコンビナート。根岸湾の埋立地は工業地帯となり、その周辺の産業都市化が急速に進んでいた。昭和三十九年に根岸線が開通。市電が走っていた浜の道は国道になる。国道を挟んで海側は工業地帯、丘側は戦災を免れた古い根岸の町並みが続く。近代化の波が押寄せる暮らしの中で、人々が何かを失っていくのではないかと思った。

娘が二歳の頃、変な咳をするようになり、病院で根岸喘息と診断された。幸いひどくならずに治癒したが、健康被害の話が聞こえてくるようになった。光化学スモッグも生じることがあった。汚染された空気がきれいになり安心できるようになったのは十数年後のことである。

根岸の丘陵地にある根岸競馬場が接收解除されたのは昭和四十四年。その後、その一帯は森林公园になり、今は樹木が育ち、草花が美しい。特に梅と桜の時季はすばらしい。又競馬場を記念して馬事公園もある。消えた海にかわって市民の良き憩いの場となっている。

近代化・合理化していく生活・文化。

古い家はいつの間にかマンションやアパートに姿を変えていった。町の人々の健康を支えてくれていた「横浜日赤病院」は「港湾病院」と合併、「みなと赤十字病院」と名を改めて、中区新山下に移転。病院の跡地には、三三〇戸をかかえる巨大なマンションが建つた。ほとんどの空地は駐車場になり、古い店は全て消えコンビニが繁昌している。

丘側に沿って通る旧道、浜の道にできた国道、平成十三年に開通した高速湾岸線、それに加えて、やがて国道三五七号が加わる。日々、すごい数の車が通り抜けていく。

海があった頃の生活・文化は、もうどこにもない。

海が埋立てられたことで途絶えていた奇祭・三〇〇年も続いてきた根岸八幡の祭りです。担ぐ神輿は榊の枝だけで造ります。切り出した榊を白滝不動の水に浸して清めてから組み立てていきます。

昭和六十年八月三十年振りに復活。

老いも若きも町中が喜びに溢れました。

以来五年置きに行われています。

町の姿が変えていく中で、造る人も担ぐ人も予算も少なくなり、また途絶えてしまうのではないかと危惧されている祭です。

ス 神谷鐵二さま

私の10才頃のお話です。私の家は煙草と雑貨類、郵便切手や葉書を売っておりました。当時のお話です。今の高島町交差点あたりから戸部警察の間に石崎町という市電の停留所がありその前に日本館という無声映画専門の常打ち映画館がありました。河合映画、大都映画が専門でした。私の家から約3分くらいの所にあり、活弁が主力で当時トーキー映画が一番おそらく後発メーカーの優れたるものでしたが無声映画ではダントツな会社でした。封切館ではなく二番か三番館の地位だろうと私は考えておりました。だが本社は東京の巣鴨にあり横浜のロケハーンには當時見えてました。本拠地が私の家のはす向かいのカフェー新玉という所で昼間はこの映画会社の独占の役目をしておりました。時代劇の場合の撮影地の主力は今の三ツ沢街道筋や、豊顕寺や中軽井沢周辺が主力の模様でした。私はホンチ取りの最中に一度だけ松山宗三郎主演の撮影現場を見たことがあります。戦後新宿で「肉体の門」という戦後代表的な小崎政房という劇演出の名前で松山宗三郎の出世姿を見ることがありました。田村泰次郎小説家の戦後傑作の一番手だと思います。近衛十四郎や必殺の藤田まことのお父上などはロケの都度郵便を出すので、筆まめな父上と思いましたが後年聞くところによると早大英文科の秀才で字が非常に上手でした。

弁士の話になりますが、時代劇には桜井錦声、現代劇には栖紫郎と云う2名の方々で非常に人気が高かったのです。演奏のお手伝いなどをして鳴物などは非常に上手でした。弁士が演奏の手伝いをするなど、如何にも横浜的なムードが溢れています。夜の7時30分になるとベルが鳴り「只今より今半ですよ、半額になります」と職員がメガホンで案内をします。また連続ものの伴奏などはテンションをここ一番に盛り上げて演奏をします。邦楽伴奏のなかでも50年たってそれが歌舞伎座で演じる「娘道成寺・・・」の聞かせどころと分かったのは長唄の聞かせ所だったのです。

*ホンチ：蜘蛛のこと。蜘蛛を戦わせる遊びが流行っており、その蜘蛛を取りに行ったときの出来事のこと。

セ 大谷卓雄さま

「横浜ベイスターズ優勝パレード写真の笑い話」

私が優勝パレードの写真を写した写真に神奈川新聞社のカメラマンが市役所の屋上から写真を撮っている姿が、写っていました。

神奈川新聞社のカメラマンが写した写真に、私の写真をとる撮影の姿が写っていました。

すなわち、お互い写しきした写真が出来たという、記念すべき2種類の写真を私は大切にしています。

ソ 白井誠治さま

「閉散としていた新幹線「新横浜」駅前」

1970（昭和45）年4月24日（写真37）

新横浜駅は開業してしばらく経っても、こんな状態が続いた。駅前には広大なタクシー乗り場があり、タクシーが手持ちぶさたにしていた。遠くに「新横浜国際ホテル」だけがポツンと立っている。

「横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」」

1970（昭和45）年3月3日（写真38）

さすがにこのころの移民船は珍しく、この船が最後の出港となった。ブラジルへの移民で若い夫婦が多くいた。家族・親戚が抱き合って別れを惜しんでいた。農業大学などの後輩は元気よくあちこちでエールを送っていた。

「廃止直前の横浜市電」

1972（昭和47）年3月25日（写真39）

交通渋滞の元凶のように見られ、全国各地で路面電車が次々に廃止されていった。横浜でもこの都市（1972年）3月31日でついに全廃されてしまった。同じくこの年、市営地下鉄伊勢佐木長者町駅～上大岡間が開通した。

「全盛期の横浜ドリームランド」

1970（昭和45）年5月12日（写真40）

敷地面積が一番広かったころの「横浜ドリームランド」。ここへ行くまでのモノレールも珍しかったし、大規模な施設にビックリしたものだった。私のお気に入りは水中を眺められる潜水艦。写真はゲートを入ってすぐの大花壇を見たもの。この日は平日で人出は少なかった。

「大成功を納めた横浜博覧会」

1989年（平成元）年7月23日（写真41）

市政100周年・開港130周年を記念して、「宇宙と子どもたち」をテーマに、みなとみらい21地区で1989年3月25日～10月1日まで、191日間にわたって「YES '89 横浜博覧会」が開催された。

会期中の入場者は入場予測を上回る1333万7150人で、大成功を納めた。数多くのパビリオンの中で上位5館は、①三菱未来館（334万人）、②横浜高島屋不思議ドーム（307万人）、③横浜館（292万人）、④日産・芙蓉館（224万人）、⑤建設パビリオン（222万人）だった。この中で、「横浜体験 - きのう・きょう・あした - 」のテーマのもとに横浜市が出店した「横浜館」が上位にランクされていたのが注目される。ちなみにこの日、7月23日（晴）の入場者は、5万1000人だった。

「建設中のランドマークタワー」

1991（平成3）年8月25日（写真42）

1989（平成元）年10月、横浜博覧会（YES '89）の終了とともに、その跡地に建てられたランドマークタワー。このころようやく姿を現しはじめて、空高くどんどん伸びていった。4つのクレーンが建築の主役で、最後まで大活躍していた。

タ 小野隆さま

歴史 [編集]

- 1965年　横浜市の6大事業の一つとして、同地区の再開発構想が出る。
1979年　「横浜市都心臨海部総合整備計画」基本構想発表。
1981年　一般公募により事業名が「みなとみらい21」に決定。

日本丸

- 1983年　三菱重工横浜造船所の移転完了。
帆船日本丸の横浜市への移管が決定。
11月8日に「みなとみらい21」事業着工。
1984年　埋立事業の礎石沈定式。
株式会社横浜みなとみらい21設立。

1985年 横浜そごうが入る「横浜新都市ビル」開業。
「日本丸メモリアルパーク」一部完成、帆船日本丸を一般公開。

横浜ベイブリッジ

1989年 動く歩道完成。
横浜市制100周年、開港130周年を記念して「横浜博覧会（YES'89）」開催。動員数1333万人。以後、同地区の開発が本格化。
「横浜ベイブリッジ」開通。
中央地区の広範囲における町名、住所表記が「みなとみらい」に決定。
「横浜マリタイムミュージアム」開館。
「臨港パーク」一部完成。
横浜市内初の大型美術館である「横浜美術館」正式開館。
1991年 「パシフィコ横浜」（横浜国際平和会議場・展示ホール）竣工。
「ヨコハマグランディンターコンチネンタルホテル」開業。
「ぷかりさん橋」完成。
1992年 首都高速道路横羽線にみなとみらい出入口設置、供用開始。

横浜ランドマークタワー

1993年 「横浜ランドマークタワー」開業。
「横浜銀行本店ビル」竣工。
「横浜ロイヤルパークホテルニッコー」開業。
1994年 国際大通りの「国際橋」開通。
パシフィコ横浜内に「国立横浜国際会議場」完成。
「三菱重工横浜ビル」竣工。
1996年 「けいゆう病院」移転開業。
「横浜スカイビル」開業。
1997年 新港地区の都市計画が決定。
「横浜桜木郵便局」開業。
「クイーンズスクエア横浜」開業。
「日石横浜ビル」竣工。
「汽車道」開通。
「パンパシフィックホテル横浜」開業。
1998年6月 「横浜みなとみらいホール」正式開業。

よこはまコスモワールド・コスモクロック21

1999年 「横浜メディアタワー（NTTドコモ神奈川支店）」開業。
「よこはまコスモワールド」正式開業（観覧車コスモクロック21も移転）。
「横浜ワールドポーターズ」開業。
「運河パーク」完成。
横浜国際船員センター「ナビオス横浜」開業。
「グランモール公園」全面完成、「横浜ジャックモール」開業。
2000年 「クロス・ゲート」（横浜桜木町ワシントンホテル）開業。
2001年 「新港パーク」全面完成。
集客イベントとして企画された「横浜トリエンナーレ2001」を開催
2002年 「山下臨港線プロムナード」完成。
横浜赤レンガ倉庫が改築され、「赤レンガパーク」全面完成。
「JICA横浜国際センター」開業。
2003年 高層マンション「M. M. TOWERS」竣工。

チ 本牧の石田良男さま

「野毛山公園で占領軍に人形を売る」

昭和 20 年 9 月 3 日の降伏文書調印後、中区内の繁華街の主だった場所は全て占領軍に接収されて、僅かに日本人の町として残されたのは野毛だった。

10 月頃、野毛山公園では占領軍の兵士が日本の美術品、着物、人形などを珍しがって日本円で、しかも言い値で買ってくれるというクチコミ情報が入ってきた。円は「エン」、錢は「セン」で通用して、金額を紙に書いて持つていれば、言葉が通じなくても買ってくれるという。母は、イエス、ノウ、サンキュウ、グルバイ（グッドバイを当時の多くの人は、このように言っていた。）位は喋ることができたので、母と当時 10 歳の私は人形を持って野毛山公園に行った。

野毛の町は完全な焼け野原であり、野毛山公園に行く野毛本通りや細い路地には店が沢山出ており、野毛しか行き場のない日本人であふれていた。店といつても、殆どが露天商である。公園の広場では店は出てないが、多くの人がいた。ただ居るだけの人、食べ物を籠やざるに入れて売っている人、占領軍兵士に品物を売っている人、占領軍兵士相手の日本人女性、戦災孤児、それぞれの国の戦闘服姿で武装した連合各国の兵士などで、ごった返していた。売っている食べ物は全て自家製で、半分に切った蒸かし芋、うどん粉に重曹を入れて膨らませただけの蒸しパン、飯を潰して餅のようにしたもの等であるが、日本人は皆腹を空かしていたので、結構売れていた。

母と私は、今まで物を売ったことがない。売っている人に売る要領やどのくらいの値段ならば良いかを教わり、値段を紙に書いて持つていたら、しばらくしてアメリカ陸軍の兵士が買ってくれた。

通りや公園広場の治安のための警察は、武装したアメリカ軍の憲兵である MP （陸軍）や S P （海軍）が行っていた。敗戦直後の日本の警察には治安能力がなかった。

「あかざ、しろざ、残飯の想い出」

昭和 20 年 7 月 6 日に、事情があつて箱根の集団疎開から横浜の自宅に帰ってきた。当時は米の配給量が少なかつたので、野菜や野草を入れた箸が立たないような雑炊が主食だった。夏なので、空襲で焼け跡となったころには、野草の「あかざ」や「しろざ」が沢山自生していた。「あかざ」、「しろざ」は癖がないので、殆ど毎食の雑炊に入れて食べた。「あかざ」と「しろざ」のお陰で命拾いができたといつても、過言ではない。私は「あかざ」と「しろざ」に恩義を感じており、今でも毎年庭で「あかざ」と「しろざ」を絶やさないで育てている。時々、葉を使った料理を作り、感謝しながら食べている。

戦争に負けて、更にひどい食糧難の時代となつた。ある夜、父が進駐軍の残飯を買ってきて了。小港のワシン坂の方で昭和 20 年の 9 月、10 月頃、進駐軍兵舎から出た残飯を売っていた。進駐軍兵舎から出た残飯だから何が入っているかわからないので、よく火を通してから食べた。当時はいつも空腹だったので、ものすごくおいしかつた。こんなに美味しいものを食べているアメリカ軍と戦争をして、勝てるはずがないと思った。飽食の今では、とても食べられてものではないだろうと思う。

「このような英語なら、俺達でも話せる」

県立緑ヶ丘高等学校の 2 年生の時（昭和 27 年）、学校への行き帰りは徒歩で裏門、台山を利用していた。現在の本牧山頂公園は米軍の家族の住宅地として接収されていて、サンフランシスコ講和条約が成立するまでは、日本人は入れなかつた。

裏門を出てガス山通りを登りきった道に出たところに、山手警察署の駐在所（現在は、ない。）があり、駐在所の裏の細い道に面してアメリカ人の家族が住む白い家があつた。私は、いつも友達 2 、 3 人とこの家の前を通っていた。

この家には、若い日本人女性がハウスメイドとして働いていた。当時、多くの日本人女性が外国人の家出ハウスメイドをしていた。

私達は若いハウスメイドを見るたびに、この人は英語が喋られるのですごいと、いつも話していた。定期試験のある日の学校帰りの昼下がりに、いつものように友人達とその家の前を通ると、よちよち歩きの坊やが庭で泥遊びを始めた。窓からこれを見た女性が、「No, No!」と大きな声で叫んだ。坊やはすぐに泥遊びを止めた。これを見て、彼女は「Yes, Yes」といった。

このような英語ならば、俺達だって喋ることができるぞと、皆で話し合った。

「空襲警報と警察」

空襲がまだそれほど多くなかった頃の国民学校の児童は、警戒警報（長いサイレンが一回鳴る。）が発令されると家に帰された。当時は、空襲警報（短いサイレンが何回も続けて鳴る。）が発令されると、一般の人は外を通行することが禁止されていた。サイレンの装置は、本牧国民学校の屋上にあった。

大鳥国民学校3学年（昭和19年）の夏の晴れたある日の昼前、警戒警報が発令されたので上級生や下級生たちと数人で集団を作り走って下校中に、空襲警報のサイレンが鳴った。丁度山手警察署（空襲で焼けるまでと敗戦後しばらくは、山手警察署は本牧二丁目377番地にあった。）の正門前にいたので、私達学童は警察署の建物の中に駆け込んだ。警察ならば避難させてくれるだろうと、思ったからである。

玄関入ってすぐの机に座っていた巡査が大声で、「入ってきては駄目だ、出ていけ。」と怒鳴ったので、私達は慌てて外に出て走って家に帰って、自分の家の防空壕に入った。

何故、警察署の中に避難したのがいけなかつたのかが、子供心に大きな疑問だった。今でも、疑問に思っている。

ツ 中央図書館書架整理ボランティアのみなさま

- ・昭和30年代、町田から遠足で野毛山動物園やマリンタワーに来た。あの頃は、動物園といえば上野か野毛山動物園だった。
- ・ハマ子はインドから来た。
- ・昭和50年代に横浜に引っ越してきたが、横浜は山が多いという印象。関東平野っていうけど、横浜は入っていないとわかった。
- ・昔は、南太田から屏風ヶ浦や野毛山まで海水浴や遠足に行っていた。屏風ヶ浦まで歩いて行ったため、実際泳げたのは1時間ぐらいだった。
- ・父親がホテルニューグランドのシェフをしていた。
- ・磯子の山の上は別荘地だった。
- ・プリンスホテルは皇后様の家の土地だった。
- ・磯子駅のあたりも海だった。産業道路あたりまでは海だった。あのあたりの漁師は埋め立てにあたって賠償金（立ち退き料？）をたくさんもらっただろう。
- ・昔は海岸線を横須賀まで軍用物資を運ぶための列車が走っていた。単線だった。今もあるかはわからないが、山下公園に続く道に線路が残っていたと思う。
- ・本郷台のあたりは軍用の燃料倉庫が多かった。弾薬庫もあった。
- ・横浜港はGHQが使うために開発された。
- ・マッカーサーの親戚が山手に住んでいた。そのおかげで山手に空襲がなかつたらしい。
- ・大桟橋は横浜市に一番初めに返された桟橋。東神奈川付近には、「ノースピア」というまだ返還されていない桟橋もある。

- ・伊勢佐木町1丁目には、朝鮮戦争で負傷した米軍の偉い人がかかる病院があった。そのために、伊勢佐木町に滑走路があった。
- ・野毛山のプールには10mの飛び込み台があった。子供は一番上の段からの飛び込みは禁止されていたが、競って高いところから飛び込んで遊んだ。

テ 中央図書館図書修理ボランティアのみなさま

- ・今のにぎわい座の場所は、昔中区役所か中税務署だった
- ・野毛山のあたりは昔官庁街だった
- ・電車は桜木町までしかなかった。杉田や蒔田へ行くには、市電に乗らなければいけなかった。
- ・「復興小学校」というものが横浜にもあった。また、野毛坂下ったところに「復興アパート」があった
- ・大岡川の上に家があった
- ・大岡川沿いの屋台の整理のため、都橋のハーモニカ横丁ができた
- ・相鉄線の横浜駅は木造だった
- ・横浜駅西口には映画館が何館かあった
- ・赤レンガ倉庫は米軍の刑務所だったことがある
- ・伊勢佐木町の脇に米軍の飛行場があった（昭和25年～28年の間）
- ・蒔田公園の近くに寿警察署があった。今は市の施設になっていたようだ…
- ・昭和39年から40年頃、港に船がいっぱいいて、港に入るため船が50日くらい待っていることもあった。
- ・今の高島町のあたりが桜木町駅だった。碑が立っているのではないか？
- ・桜木町事件
電車が燃え多くの死者が出た。この事件以後、独立していた車両1両1両が幌でつながり乗客が通り抜けできるようになったり、窓も大きく開くようになった。慰靈碑が桜木町駅の近くにあったような…
- ・横浜より桜木町、伊勢佐木町が賑わっていた
- ・昭和40年ごろ、「ハマジル（=横浜ジルバ）」があった。横浜独特のダンスだった
- ・野毛には鯨通りがあった（たくさん鯨料理の店が並んでいた）
- ・昭和40年頃、桜木町から都橋にかけて日雇い労働者が集まる場所があった。人が多く集まるため、食堂や飲み屋がたくさんできた。日雇い労働者の日当は1500円くらいだった（当時の公務員の月給が1万円）
- ・相鉄線は神中線（じんちゅうせん）という名前だった。神中線は砂利を運んでいた。砂利置き場は今の高島屋の場所。
- ・美空ひばりはデビューした劇場がこの辺りにあった（今のJRAか？）。美空ひばりの像がある辺りなのか。
- ・草競馬の馬券場が日ノ出町の駅の辺りにあった。

(3) 写真一覧 (受理番号順)

番号	タイトル	時期
1	北方消防署火見櫓	1958(昭和33)年
2	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六①)	1935(昭和10)年頃発行
3	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六②)	1935(昭和10)年頃発行
4	根岸八幡祭(榊神輿)①	1985(昭和60)年
5	根岸八幡祭(榊神輿)②	1985(昭和60)年
6	根岸八幡祭(榊神輿)③	1985(昭和60)年
7	根岸八幡祭(榊神輿)④	1985(昭和60)年
8	根岸八幡祭(榊神輿)⑤	1985(昭和60)年
9	開発前と開発中の「みなどみらい」地区① 横浜dock(ドック)	1982(昭和57)年
10	開発前と開発中の「みなどみらい」地区② 右手は県警本部	1984(昭和59)年頃
11	開発前と開発中の「みなどみらい」地区③ 桜木町駅前から	1984(昭和59)年頃
12	開発前と開発中の「みなどみらい」地区④ 汽車道廃駅	1984(昭和59)年
13	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑤ 高島機関区	1984(昭和59)年頃
14	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑥ 高島貨物駅正門跡	1984(昭和59)年頃
15	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑦ 高島貨物駅	1984(昭和59)年頃
16	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑧ 手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫	1987(昭和62)年頃
17	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑨ 万国橋付近から汽車道方面	1987(昭和62)年頃
18	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑩ 赤レンガ倉庫前	1987年(昭和62)年
19	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑪ インターコンチネンタルホテル建設	1990(平成2)年
20	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑫ ランドマークタワー建設開始	1990(平成2)年
21	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑬ 新港橋から	1992(平成4)年
22	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑭ ランドマークから横浜東口方面	1994(平成6)年
23	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑮ 新港橋から	1997(平成9)年
24	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑯ 横浜美術館から中央市場方面	撮影年不明
25	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑰ 横浜美術館から「そごう」方面(望遠)	撮影年不明
26	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑱ 横浜美術館から旧高島駅方面	撮影年不明
27	市電① 高島町付近	1972(昭和47)年
28	市電② 久保山電停(電車停留所)	1972(昭和47)年
29	市電③ 本町四丁目付近	1972(昭和47)年
30	西柴① 1970年	1970(昭和45)年
31	西柴② 1971年	1971(昭和46)年
32	西柴③ 1971年	1971(昭和46)年
33	西柴④ 1989年	1989(平成元)年
34	西柴⑤ 1989年	1989(平成元)年

番号	タイトル	時期
35	潮干狩り(JR根岸駅近く)	1950(昭和25)年
36	磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前	1952～1953(昭和27～28)年頃
37	閑散としていた新幹線「新横浜」駅前	1970(昭和45)年4月24日
38	横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」(大さん橋)	1970(昭和45)年3月3日
39	廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)	1972(昭和47)年3月25日
40	全盛期の横浜ドリームランド	1970(昭和45)年5月12日
41	大成功を納めた横浜博覧会	1989年(平成元)年7月23日
42	建設中のランドマークタワー	1991(平成3)年8月25日
43	ベイスターズ優勝パレードを激写！(横浜市役所前)	1998(平成10)年
44	浅間神社(浅間台小近く)	1969(昭和44)年
45	野毛山動物園(ゾウ)	1966(昭和41)年
46	氷川丸船内	1969(昭和44)年
47	石川町地蔵坂 靴店①	1957～1958(昭和32～33)年頃
48	石川町地蔵坂 靴店②	1957～1958(昭和32～33)年頃
49	雪の日地蔵坂	1990(平成2)年
50	横浜港①	1960(昭和35)年頃
51	横浜港②	1960(昭和35)年頃
52	地蔵坂	1960～1965(昭和35～40)年頃
53	横浜博覧会①	1989(平成元)年
54	横浜博覧会②	1989(平成元)年
55	野毛山動物園(ラクダのつがるさん？)	1983(昭和58)年6月
56	野毛山動物園(ライオン舎前)	1983(昭和58)年6月
57	小机にてザリガニ釣り	1991(平成3)年9月3日
58	横浜スタジアム(中日vs大洋)①	1991(平成3)年9月16日
59	横浜スタジアム(中日vs大洋)②	1991(平成3)年9月16日
60	横浜での大雪①	1994(平成6)年12月2日
61	横浜での大雪②	1994(平成6)年12月2日
62	こどもの国	1985(昭和60)年頃
63	野毛山動物園(ホッキョクグマ)	1994(平成6)年11月9日
64	野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)	1994(平成6)年11月9日
65	杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る①	1967(昭和42)年7月
66	杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る②	1967(昭和42)年7月
67	「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)	1967(昭和42)年7月
68	「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町)(屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)	1967(昭和42)年7月
69	杉田線廃止を告げる看板	1967(昭和42)年7月
70	「屏風ヶ浦」を走る市電(埋め立て前は、電柱の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月

番号	タイトル	時期
71	「森」～「磯子」間を走る(三宅胃腸科の看板が見える)	1967(昭和42)年7月
72	プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む(偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
73	プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む(偕楽園の手前を市電が走る)	1967(昭和42)年7月
74	プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両(大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁舎となっている)	1967(昭和42)年7月
75	杉田線廃止を掲げて走る①	1967(昭和42)年7月
76	杉田線廃止を掲げて走る②	1967(昭和42)年7月
77	「磯子」から「間坂」寄りを走る	1967(昭和42)年7月
78	「間坂」と「葦名橋」間を走る	1967(昭和42)年7月
79	「葦名橋」で待機中	1967(昭和42)年7月
80	終点「葦名橋」で折り返す市電① (市電全廃が掲げられている)	1972(昭和47)年3月
81	終点「葦名橋」で折り返す市電②	1972(昭和47)年3月

(4) 写真一覧 (テーマ別)

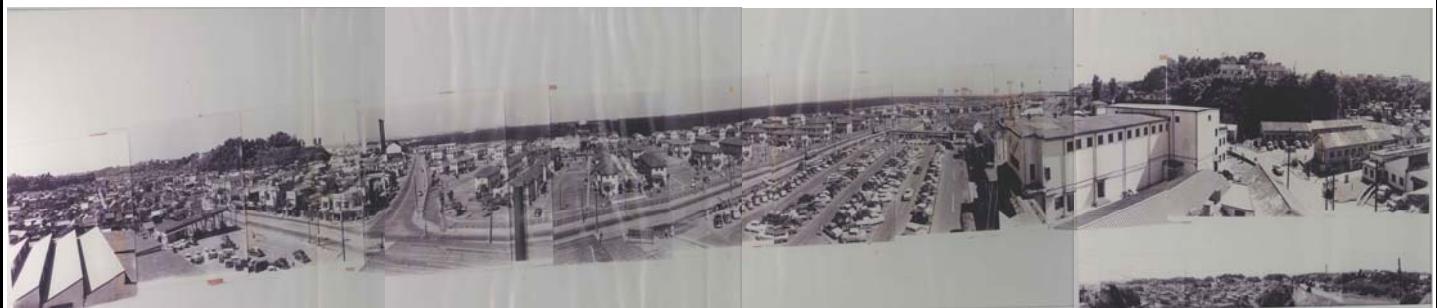
項目	番号	タイトル	撮影時期
市電	65,66	杉田終点の「杉田」終点から中原方面を見る	1967(昭和42)年7月
	67	「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)	1967(昭和42)年7月
	68	「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町) (屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)	1967(昭和42)年7月
	69	杉田線廃止を告げる看板	1967(昭和42)年7月
	70	「屏風ヶ浦」を走る市電(埋め立て前は、電柱の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
	71	「森」～「磯子」間を走る(三宅胃腸科の看板が見える)	1967(昭和42)年7月
	72	プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む (偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
	73	プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む (偕楽園の手前を市電が走る)	1967(昭和42)年7月
	74	プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両 (大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁舎となっている)	1967(昭和42)年7月
	75	杉田線廃止を掲げて走る①	1967(昭和42)年7月
	76	杉田線廃止を掲げて走る②	1967(昭和42)年7月
	77	「磯子」から「間坂」寄りを走る	1967(昭和42)年7月
	78	「間坂」と「葦名橋」間を走る	1967(昭和42)年7月
	79	「葦名橋」で待機中	1967(昭和42)年7月
	80	終点「葦名橋」で折り返す市電①(市電全廃が掲げられている)	1972(昭和47)年3月
	81	終点「葦名橋」で折り返す市電②	1972(昭和47)年3月
	27	市電①高島町付近	1972(昭和47)年
	28	市電②久保山電停	1972(昭和47)年
	29	市電③本町四丁目付近	1972(昭和47)年
	39	廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)	1972(昭和47)年3月25日
野毛山動物園	45	野毛山動物園(ゾウ)	1966(昭和41)年
	55	野毛山動物園(ラクダのつがるさん?)	1983(昭和58)年6月
	56	野毛山動物園(ライオン舎前)	1983(昭和58)年6月
	64	野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)	1994(平成6)年11月9日
	63	野毛山動物園(ホッキョクグマ)	1994(平成6)年11月9日
伊勢佐木	2,3	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六)	1935(昭和10)年頃発行
北方町	1	北方消防署火見櫓	1958(昭和33)年
地蔵坂	47,48	石川町地蔵坂 靴店	1957～1958(昭和32～33)年頃
	52	地蔵坂	1960～1965(昭和35～40)年頃
	49	雪の日地蔵坂	1990(平成2)年
野球	58, 59	横浜スタジアム(中日vs大洋)	1991(平成3)年9月16日
	43	ベイスターズ優勝パレードを激写！(横浜市役所前)	1998(平成10)年
横浜港	50,51	横浜港	1960(昭和35)年頃
	46	氷川丸船内	1969(昭和44)年

項目	番号	タイトル	撮影時期
横浜港	38	横浜港を出港する 最後の移民船 「あるぜんちな丸」(大さん橋)	1970(昭和45)年3月3日
	9	開発前・中のみなどみらい地区①横浜dock(ドック)	1982(昭和57)年
みなとみらい地区	12	開発前・中のみなどみらい地区④汽車道廃駅	1984(昭和59)年
	10	開発前・中のみなどみらい地区②右手は県警本部	1984(昭和59)年頃
	11	開発前・中のみなどみらい地区③桜木町駅前から	1984(昭和59)年頃
	16	開発前・中のみなどみらい地区⑧ 手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫	1987(昭和62)年頃
	18	開発前・中のみなどみらい地区⑩赤レンガ倉庫前	1987年(昭和62)年
みなとみらい地区	24	開発前・中のみなどみらい地区⑪横浜美術館から中央市場方面	撮影年不明
	25	開発前・中のみなどみらい地区⑫横浜美術館から「そごう」方面(望遠)	撮影年不明
	26	開発前・中のみなどみらい地区⑬横浜美術館から旧高島駅方面	撮影年不明
	13	開発前・中のみなどみらい地区⑤高島機関区	1984(昭和59)年頃
	14	開発前・中のみなどみらい地区⑥高島貨物駅正門跡	1984(昭和59)年頃
	15	開発前・中のみなどみらい地区⑦高島貨物駅	1984(昭和59)年頃
	17	開発前・中のみなどみらい地区⑨万国橋付近から汽車道方面	1987(昭和62)年頃
	19	開発前・中のみなどみらい地区⑪インターベンチナルホテル建設	1990(平成2)年
	53,54	横浜博覧会	1989(平成元)年
	41	大成功を納めた 横浜博覧会	1989(平成元)年7月23日
	20	開発前・中のみなどみらい地区⑫ランドマークタワー建設開始	1990(平成2)年
	42	建設中の ランドマークタワー	1991(平成3)年8月25日
	21	開発前・中のみなどみらい地区⑬新港橋から	1992(平成4)年
	22	開発前・中のみなどみらい地区⑭ランドマークタワーから横浜東口方面	1994(平成6)年
	23	開発前・中のみなどみらい地区⑮新港橋から	1997(平成9)年
新横浜	37	閑散としていた新幹線 新横浜駅 前	1970(昭和45)年4月24日
根岸	35	潮干狩り(JR根岸駅近く)	1950(昭和25)年
	4,5,6,7,8	根岸八幡祭 (榎神輿)	1985(昭和60)年
中	44	浅間神社(浅間台小近く)	1969(昭和44)年
磯子	36	磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前	1952～1953(昭和27～28)年頃
金沢	30	西柴①1970年	1970(昭和45)年
	31	西柴②1971年	1971(昭和46)年
	32	西柴③1971年	1971(昭和46)年
	33	西柴④1989年	1989(平成元)年
	34	西柴⑤1989年	1989(平成元)年
戸塚	40	全盛期の横浜 ドリームランド	1970(昭和45)年5月12日
青葉	62	こどもの国	1985(昭和60)年頃
港北	57	小机にてザリガニ釣り	1991(平成3)年9月3日
	60, 61	横浜での大雪	1994(平成6)年12月2日

(5) みなさまから寄せられた写真(受理番号順)

※写真タイトルは、写真のご提供者が付与してくださいました。

※本書は「横浜市立図書館ホームページ」にて、フルカラー、より鮮明な画像で公開しています。



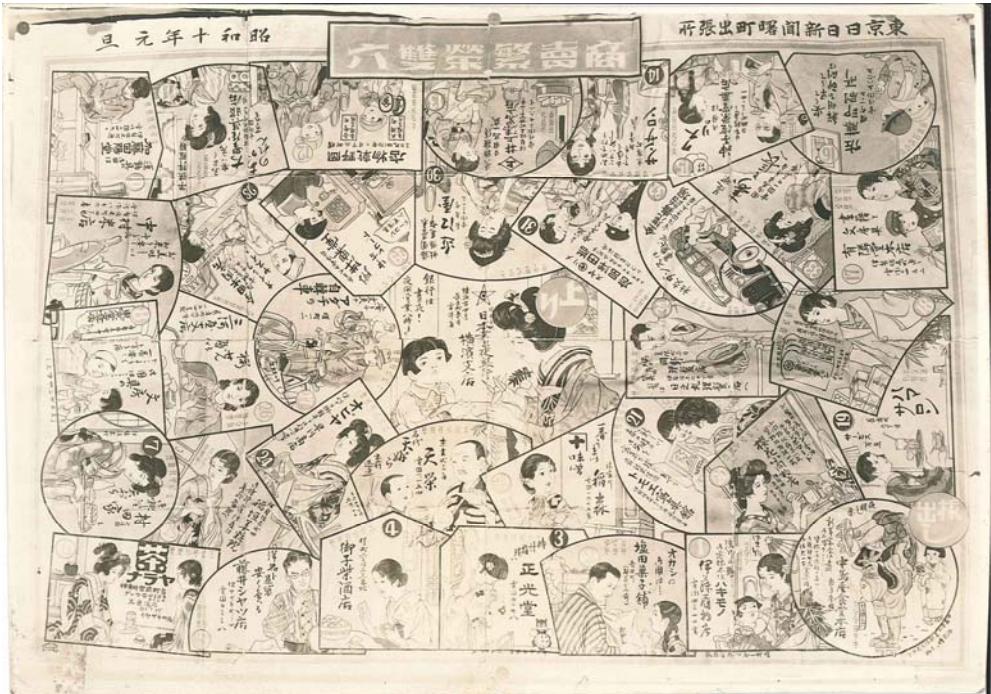
1 北方消防署火見櫓

1958(昭和33)年



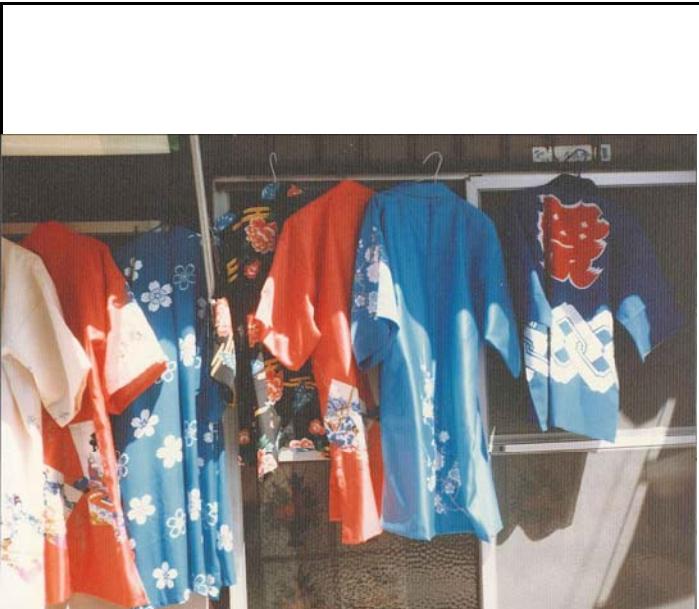
2 商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六 ①)

1935(昭和10)年頃発行



3 商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目とした双六 ②)

1935(昭和10)年頃発行



4 根岸八幡祭(榊神輿)①

1985(昭和60)年



5 根岸八幡祭(榊神輿)②

1985(昭和60)年



6 根岸八幡祭(榊神輿)③

1985(昭和60)年



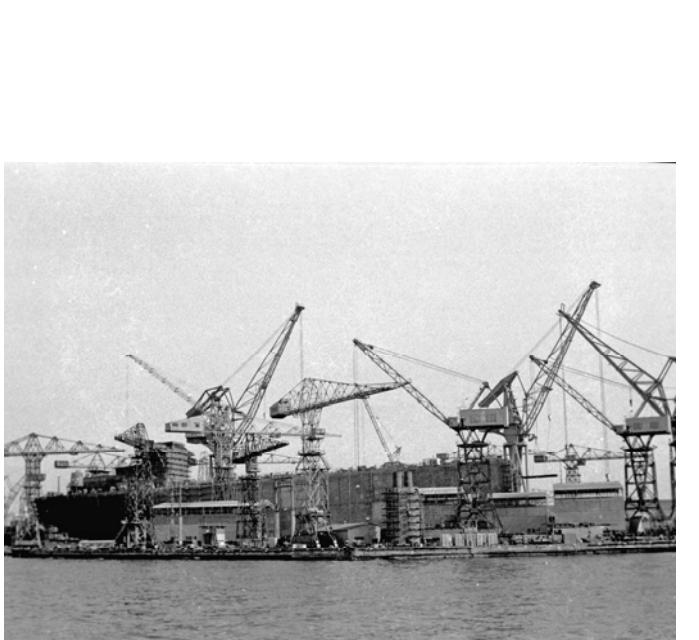
7 根岸八幡祭(榊神輿)④

1985(昭和60)年



8 根岸八幡祭(榊神輿)⑤

1985(昭和60)年



9 開発前と開発中の「みなとみらい」地区①
横浜dock(ドック)

1982(昭和57)年



10 開発前と開発中の「みなとみらい」地区②
右手は県警本部

1984(昭和59)年頃



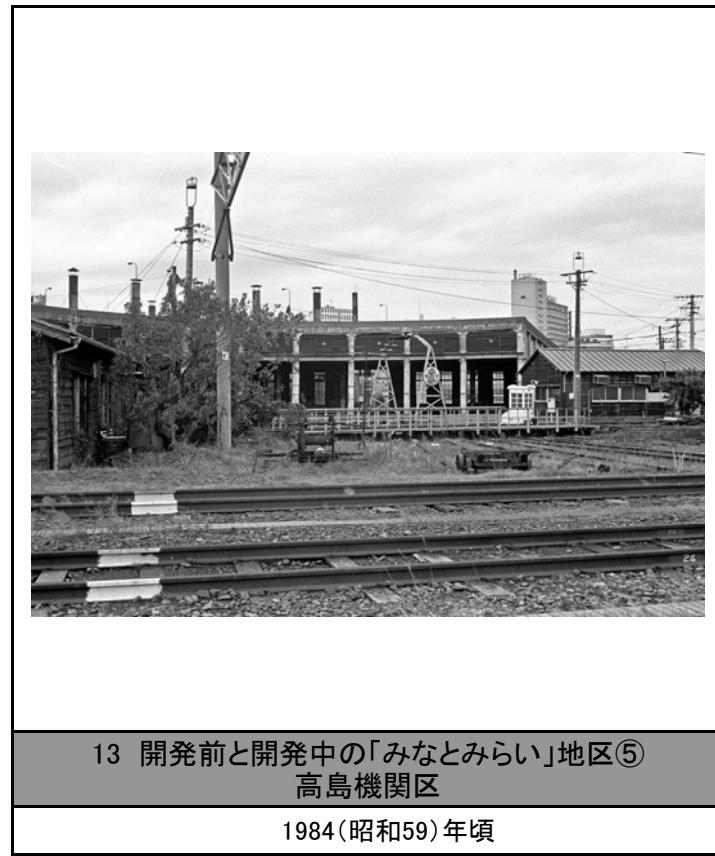
11 開発前と開発中の「みなとみらい」地区③
桜木町駅前から

1984(昭和59)年頃



12 開発前と開発中の「みなとみらい」地区④
汽車道廃駅

1984(昭和59)年



13 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑤
高島機関区

1984(昭和59)年頃



14 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑥
高島貨物駅正門跡

1984(昭和59)年頃



15 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑦
高島貨物駅

1984(昭和59)年頃



16 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑧
手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫

1987(昭和62)年頃



17 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑨
万国橋付近から汽車道方面

1987(昭和62)年頃



18 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑩
赤レンガ倉庫前

1987年(昭和62)年



19 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑪
インターベンチナルホテル建設

1990(平成2)年



20 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑫
ランドマークタワー建設開始

1990(平成2)年



21 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑬
新港橋から

1992(平成4)年



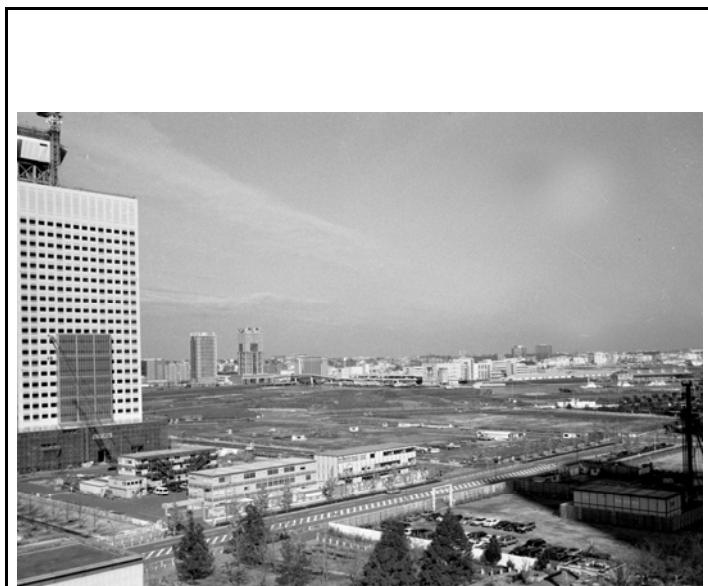
22 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑭
ランドマークタワーから横浜東口方面

1994(平成6)年



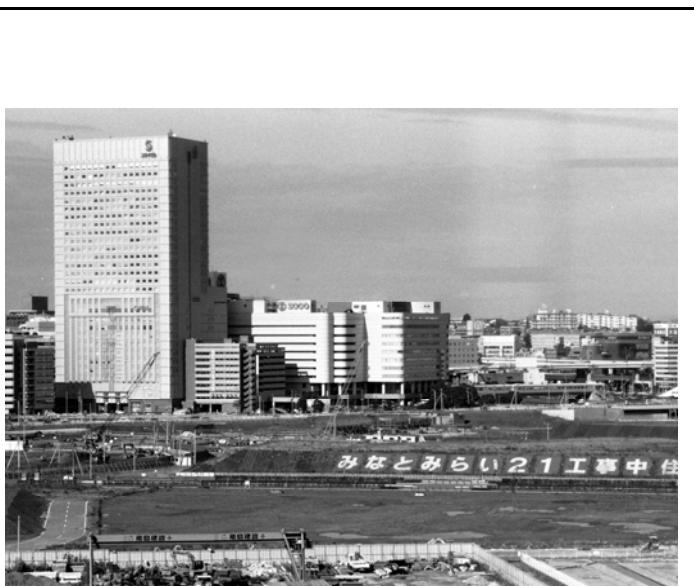
23 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑮
新港橋から

1997(平成9)年



24 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑯
横浜美術館から中央市場方面

撮影年不明



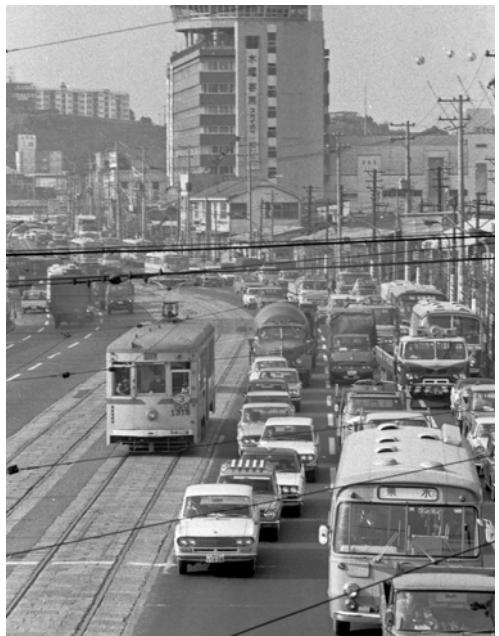
25 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑰
横浜美術館から「そごう」方面(望遠)

撮影年不明



26 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑯
横浜美術館から旧高島駅方面

撮影年不明



27 市電① 高島町付近

1972(昭和47)年



28 市電② 久保山電停(電車停留所)

1972(昭和47)年



29 市電③ 本町四丁目付近

1972(昭和47)年



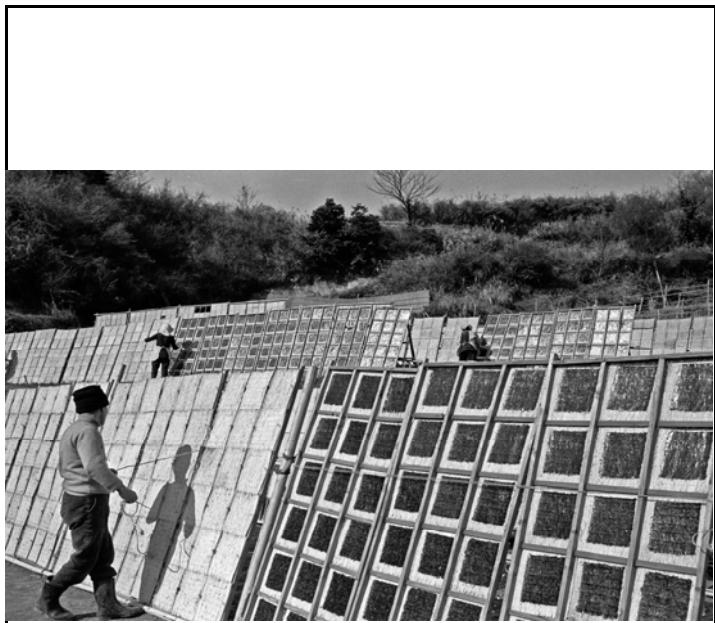
30 西柴① 1970年

1970(昭和45)年



31 西柴② 1971年

1971(昭和46)年



32 西柴③ 1971年

1971(昭和46)年



33 西柴④ 1989年

1989(平成元)年



34 西柴⑤ 1989年

1989(平成元)年



35 潮干狩り(JR根岸駅近く)

1950(昭和25)年



36 磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前

1952～1953(昭和27～28)年頃



37 閑散としていた新幹線「新横浜」駅前

1970(昭和45)年4月24日



38 横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」
(大さん橋)

1970(昭和45)年3月3日



39 廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)

1972(昭和47)年3月25日



40 全盛期の横浜ドリームランド

1970(昭和45)年5月12日



41 大成功を納めた横浜博覧会

1989年(平成元)年7月23日



42 建設中のランドマークタワー

1991(平成3)年8月25日



43 ベイスターズ優勝パレードを激写！(横浜市役所前)

1998(平成10)年



44 浅間神社(浅間台小近く)

1969(昭和44)年



45 野毛山動物園(ゾウ)

1966(昭和41)年



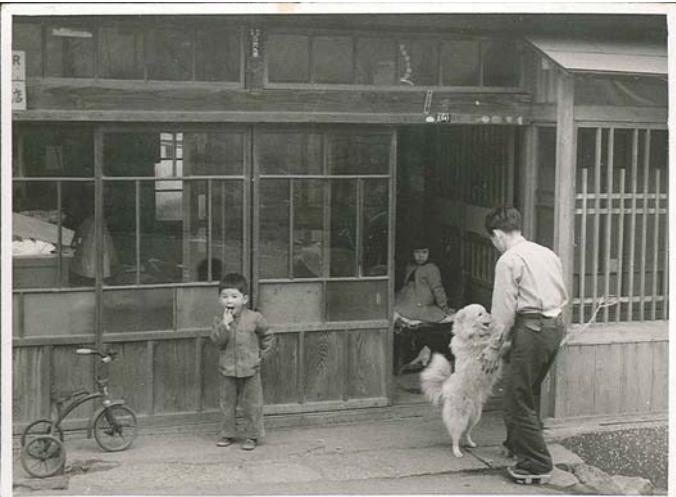
46 氷川丸船内

1969(昭和44)年



47 石川町地蔵坂 靴店①

1957～1958(昭和32～33)年頃



48 石川町地蔵坂 靴店②

1957～1958(昭和32～33)年頃



49 雪の日地蔵坂

1990(平成2)年



50 横浜港①

1960(昭和35)年頃



51 横浜港②

1960(昭和35)年頃



52 地蔵坂

1960～1965(昭和35～40)年頃



53 横浜博覧会①

1989(平成元)年



54 横浜博覧会②

1989(平成元)年



55 野毛山動物園(ラクダのつがるさん?)

1983(昭和58)年6月



56 野毛山動物園(ライオン舎前)

1983(昭和58)年6月

57 小机にてザリガニ釣り

1991(平成3)年9月3日



58 横浜スタジアム(中日vs太洋)①

1991(平成3)年9月16日



59 横浜スタジアム(中日vs太洋)②

1991(平成3)年9月16日



60 横浜での大雪①

1994(平成6)年12月2日



61 横浜での大雪②

1994(平成6)年12月2日



62 こどもの国

1985(昭和60)年頃



63 野毛山動物園(ホッキョクグマ)

1994(平成6)年11月9日



64 野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)

1994(平成6)年11月9日



65 杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る①

1967(昭和42)年7月



66 杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る②

1967(昭和42)年7月



67 「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)

1967(昭和42)年7月



68 「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町)
(屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)

1967(昭和42)年7月



69 杉田線廃止を告げる看板

1967(昭和42)年7月



70 「屏風ヶ浦」を走る市電（埋め立て前は、電柱の向こうは海だった）

1967(昭和42)年7月



71 「森」～「磯子」間を走る（三宅胃腸科の看板が見える）

1967(昭和42)年7月



72 プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む
(偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった)

1967(昭和42)年7月



73 プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む
(偕楽園の手前を市電が走る)

1967(昭和42)年7月



74 プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両。
(大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁舎となっている)

1967(昭和42)年7月



75 杉田線廃止を掲げて走る①

1967(昭和42)年7月



76 杉田線廃止を掲げて走る②

1967(昭和42)年7月



77 「磯子」から「間坂」寄りを走る

1967(昭和42)年7月



78 「間坂」と「葦名橋」間を走る

1967(昭和42)年7月



79 「葦名橋」で待機中

1967(昭和42)年7月



80 終点「葦名橋」で折り返す市電①
(市電全廃掲げられている)

1972(昭和47)年3月



81 終点「葦名橋」で折り返す市電②

1967(昭和42)年3月

7 参考文献等

(1) 図書 (『書名』(シリーズ名)、著者名、出版社、出版年、ISBNの順)

- ・『図説・横浜の歴史』、「図説・横浜の歴史」編集委員会／編、横浜市市民局市民情報室広報センター、1989. 4
- ・『昭和の横浜 写真集』、横浜市史資料室／編、横浜市史資料室、2009. 6
- ・『100年前の横浜・神奈川 絵葉書でみる風景』、横浜開港資料館／編、有隣堂、1999. 1
2、4-89660-158-0
- ・『横浜もののはじめ考』第3版、横浜開港資料館／編、横浜開港資料館、2010. 3
- ・『横浜西区史 区制50周年記念』、横浜西区史編集委員会／編、横浜西区史刊行委員会、1995. 03
- ・『横浜・中区史 人びとが語る激動の歴史』、中区制50周年記念事業実行委員会／編著、中区制50周年記念事業実行委員会、1985. 2
- ・『都市横浜の半世紀 震災復興から高度成長まで』(有隣新書 62)、高村直助／著、有隣堂、2006. 3、4-89660-193-9
- ・『横浜タイムトリップ・ガイド』、横浜タイムトリップ・ガイド制作委員会／編著、講談社、2008. 9、978-4-06-214869-6
- ・『横浜・野毛の商いと文化 横浜商科大学野毛まちなかキャンパス』、野毛地区街づくり会／編、横浜商科大学／編、横浜商科大学、2011. 8、978-4-9904927-1-7
- ・『横浜の町名』、横浜市市民局総務部住居表示課／編、横浜市市民局総務部住居表示課、1996. 12
- ・『角川日本地名大辞典 14 神奈川県』、「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編纂、角川書店、1984. 6
- ・『郷土資料事典 14 神奈川県 ふるさとの文化遺産』、ゼンリン、1997. 03
- ・『神奈川県の歴史散歩 上 川崎・横浜・北相模・三浦半島』(歴史散歩 14)、神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会／編、山川出版社、2005. 5、4-634-24614-7
- ・『横浜近代史総合年表』、松信太助／編、有隣堂、1989. 12、4-89660-091-6
- ・『広辞苑』第6版、新村出／編、岩波書店、2008. 1、978-4-00-080121-8
- ・『日本災害史事典 1868-2009』、日外アソシエーツ編集部／編、日外アソシエーツ、2010. 9、978-4-8169-2274-9
- ・『20世紀日本人名事典 あ～せ』、日外アソシエーツ株式会社／編、日外アソシエーツ、2004. 7
- ・『20世紀日本人名事典 そ～わ』、日外アソシエーツ株式会社／編、日外アソシエーツ、2004. 7
- ・『横浜市史 第5巻 中』、横浜市、1976. 3
- ・『近代史必携』、吉川弘文館編集部／編、吉川弘文館、2007. 5、978-4-642-01438-0
- ・『原三溪物語』、新井恵美子／著、神奈川新聞社、2003. 4、4-87645-329-2
- ・『近代日本画を育てた豪商原三溪』(有隣新書)、竹田道太郎／著、有隣堂、1981. 9、4-89660-020-7
- ・『横浜に震災記念館があった』(よこれき双書 第14巻)、横浜郷土研究会、1995. 3
- ・『関東大震災』、吉村昭／著、文藝春秋、1973
- ・『ホテル・ニューグランド50年史』、白土秀次／著、ホテル・ニューグランド、1977. 12
- ・『ホテルニューグランド70年のあゆみ』、ホテル・ニューグランド、[出版年不明]
- ・『昭和を生きぬいた学舎 横浜震災復興小学校の記録』、横浜市建築局学校建設課、横浜市教育委員会施設課／編、横浜市、1985. 10
- ・『第10回国体記念写真帖』、神奈川県／編、神奈川県、1955. 11
- ・『第10回国民体育大会報告書』、国民体育大会神奈川県委員会事務局／編、第10回国民体育大会神奈川県委員会、1956. 2
- ・『ヨコハマ公園物語 港町の歴史を歩く』(中公新書 1553)、田中祥夫／著、中央公論新社、2000. 09、4-12-101553-3
- ・『中区わが街 中区地区沿革外史』、“中区わが街”刊行委員会、1986. 1
- ・『遊郭を見る』、下川耿史／著、林宏樹／著、筑摩書房、2010. 3、978-4-480-87363-7
- ・『消えた横浜娼婦たち 港のマリーの時代を巡って』、檀原照和／著、データハウス、2009. 6、978-4-7817-0016-8
- ・『横浜ウマ物語 文明開化の蹄音』(うまはくブックレット no. 7)、秋永和彦／著、神奈川新聞社、2004. 3、4-87645-345-4

- ・『ヨコハマ洋食文化事始め』、草間俊郎／著、雄山閣出版、1999. 05、4-639-01607-7
- ・『昭和・平成史年表』新訂版、平凡社／編、平凡社、2009. 3、978-4-582-48541-7
- ・『天使はブルースを歌う 横浜アウトサイド・ストーリー』、山崎洋子／著、毎日新聞社、1999. 09、4-620-31384-X
- ・『子供たちは七つの海を越えた エリザベス・サンダース・ホーム』、日本テレビ／〔編〕、日本テレビ放送網、1979. 4
- ・『この母ありて』、木村隆／編、青蛙房、2010. 11、978-4-7905-0372-9
- ・『白い顔の伝説を求めて ヨコハマメリーから横浜ローザへの伝言』、五大路子／著、壮神社、2010. 8、978-4-903260-50-1
- ・『Pass #2 ハマのメリーさん』（「森の観測」記憶へ 4）、森日出夫／著、F I L M H O U S E、2006. 6、4-903260-20-8
- ・『Old but new イセザキの未来につなぐ散歩道』、伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合「イセザキ歴史書をつくる会」／編、神奈川新聞社、2009. 7、978-4-87645-443-3
- ・『国防用語辞典』、防衛学会／編、朝雲新聞社、1980. 12
- ・『現代用語の基礎知識 2012』、自由国民社、2012. 1、978-4-426-10130-5
- ・『蜘蛛』(ものと人間の文化史 107)、斎藤慎一郎／著、法政大学出版局、2002. 09、4-588-21071-8
- ・『横浜ジャズ物語 「ちぐさ」の50年』、吉田衛／著、神奈川新聞社、1985. 8
- ・『横浜の接收と財政』、横浜市財政局／編、横浜市財政局、1953
- ・『野毛山ZOOといい話 飼育職員が語る動物たちのエピソード』、小林強志／著、横浜市従業員労働組合
- ・『日本貿易博覧会』、日本写真文化協会神奈川県支部、1949. 4
- ・『貿易と産業 日本貿易博覧会会誌横浜1949年』、印南悦雄／編、日本電報通信社、1950. 2
- ・『20世紀放送史 本史 上』、日本放送協会／編、NHK出版、2001. 03、4-14-007199-0
- ・『20世紀放送史 年表』、日本放送協会／編、NHK出版、2001. 03、4-14-007199-0
- ・『横浜にあつまる世界の動物たち 野毛山動物園ガイドブック』、横浜市緑の協会、2009. 5
- ・『さようなら紅梅キャラメル 6年間で消えたもうひとつの読売巨人軍』、沢里昌与司／著、東洋出版、1996. 04、4-8096-7203-4
- ・『昭和 第9巻 独立一冷戦の谷間で 二万日の全記録』、講談社／編、講談社、1989. 5、4-06-194359-6
- ・『ぴあ シネマクラブ外国映画+日本映画 2008年最新統合版』(ぴあmook)、ぴあ、2007. 5、978-4-8356-1111-2
- ・『横浜ノスタルジア 昭和30年頃の街角』、広瀬始親／撮影、横浜都市発展記念館／編、横浜開港資料館／編、横浜都市発展記念館、2007. 2
- ・『横浜ノスタルジア 昭和30年頃の街角 広瀬始親写真集』、広瀬始親／〔撮影〕、横浜開港資料館／編、河出書房新社、2011. 7、978-4-309-27263-4
- ・『大図典view Illustrated Encyclopedia』、講談社、1984. 10、4-06-200753-3
- ・『日本占領 第2巻』、児島襄／著、文藝春秋、1978. 10
- ・『昭和 第7巻 廃墟からの出発 二万日の全記録』、講談社／編、講談社、1989. 2、4-06-194357-X
- ・『港町・横浜の都市形成史』、横浜市企画調整局／編、横浜市企画調整局、1981
- ・『横浜市電保存館』、横浜市交通局協力会／〔編〕、横浜市交通局協力会、2003
- ・『横浜市電が走った街今昔 ハマの路面電車定点対比』(JTBキャンブックス 鉄道 30)、長谷川弘和／著、JTB、2001. 10、4-533-03980-4
- ・『横浜市営交通八十年史』、横浜市交通局、2001. 03
- ・『ちんちん電車 ハマッ子の足70年』、横浜市交通局／編、横浜市交通局、1972. 03
- ・『世界史のための人名辞典』、水村光男／編著、山川出版社、2010. 6、978-4-634-62014-8
- ・『ゼンリン住宅地図 横浜市中区 201007』(横浜市 4)、ゼンリン、2010. 7、978-4-432-30620-6
- ・『コクリコ坂から ヨコハマガイド』、スタジオジブリ／制作、KDDI、2011. 7
- ・『横浜スタジアム物語』、山下誠通／著、神奈川新聞社、1994. 06、4-87645-173-7
- ・『プロ野球70年史 歴史編 1934→2004』、ベースボール・マガジン社／編、ベースボール・マガジン社、2004. 12
- ・『プロ野球70年史 記録編 1934→2004』、ベースボール・マガジン社／編、ベースボール・マガジン社、2004. 12

(2) ホームページ

- ・横浜市立図書館>横浜を知る>**Y o k o h a m a ' s M e m o r y 「都市横浜の記憶」**
(<http://memories.lib.city.yokohama.jp/cats/index.html>)
※本書に掲載した中央図書館所蔵の「絵葉書」「錦絵」等の画像をご覧いただけます。
※横浜市中央図書館が都市横浜の記憶装置として、これまで蓄積してきた横浜資料を活用し、活字資料、絵図、絵葉書などのデジタル画像を、キーワードや年表から検索できるデータベースです。
- ・横浜市立図書館>横浜を知る
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/yokohama.html>)
- ・横浜市役所>横浜市のあゆみ
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/housei/sisi/chronological-table.html>)
- ・横浜市役所>環境創造局「二代目野毛山公園展望台が新たにオープン！」
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kisha/h23/110725-3.html>)
- ・横浜市立石川小学校>学校のあゆみ
(<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ishikawa/history.htm>)
- ・横浜市立西中学校>沿革
(<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nishi/siru/ennkaku'05.htm>)
- ・横浜国立大学>大学の沿革
(<http://www.ynu.ac.jp/about/ynu/history/ynu.html>)
- ・横浜平沼高等学校>沿革
(<http://www.yokohamahiranuma-h.pen-kanagawa.ed.jp/zen/2008enkaku.html>)
- ・横浜夢座>第1回公演「横浜行進曲」
(<http://www.yokohamayumeza.com/content.cgi?p=SC20221&id=1>)
- ・クリフサイド
(<http://homepage2.nifty.com/cliffside/>)
- ・野毛山動物園>開園60周年イベント
(<http://www.nogeyama-zoo.org/event/110201open.html>)
- ・マリンタワー>**h i s t o r y**
(<http://marinetower.jp/profile/index.html>)
- ・学校法人関東学院>沿革
(<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/history.html>)
- ・日本銀行>日本銀行を知る楽しむ>お金の話あれこれ>お金の豆知識
(<http://www.boj.or.jp/announcements/education/data/are02d.pdf>)
- ・日本銀行金融研究所貨幣博物館>わが国の貨幣史>円の時代
(http://www.imes.boj.or.jp/cm/htmls/history_29.htm)
- ・横浜市電保存館>ダウンロード>音の路線図
(<http://www.kyouryokukai.or.jp/ciden/download/index.html#map>)
- ・外務省>外交資料Q&A
(http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/qa/sengo_04.html)
- ・横浜スタジアム>施設と歴史
(<http://www.yokohama-stadium.co.jp/public/history.html>)

(3) その他

- ・伊勢山皇大神宮からの聞き取り
- ・横浜市市電保存館展示解説



「パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは…」ポスター

左：6月11日開催・右：10月1日開催

横浜市立図書館創立 90 周年記念
パネルディスカッション あの頃の、ヨコハマは… 記録集
平成 23 年 12 月発行
編集：横浜市中央図書館 企画運営課・サービス課
発行：横浜市中央図書館 企画運営課
〒220-0032 横浜市西区老松町1
電話：(045) 262-7334

